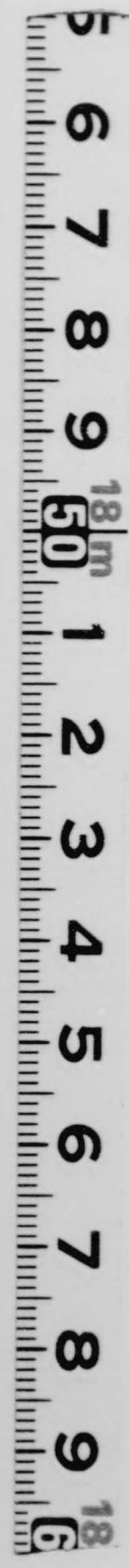
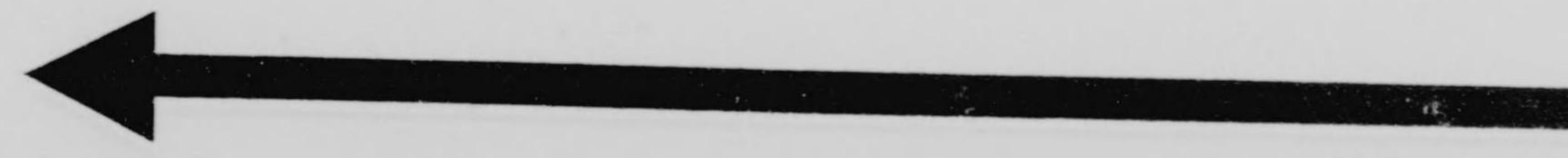




375
47



始



15. 2. 10

37-47

ドストエーフスキー全集

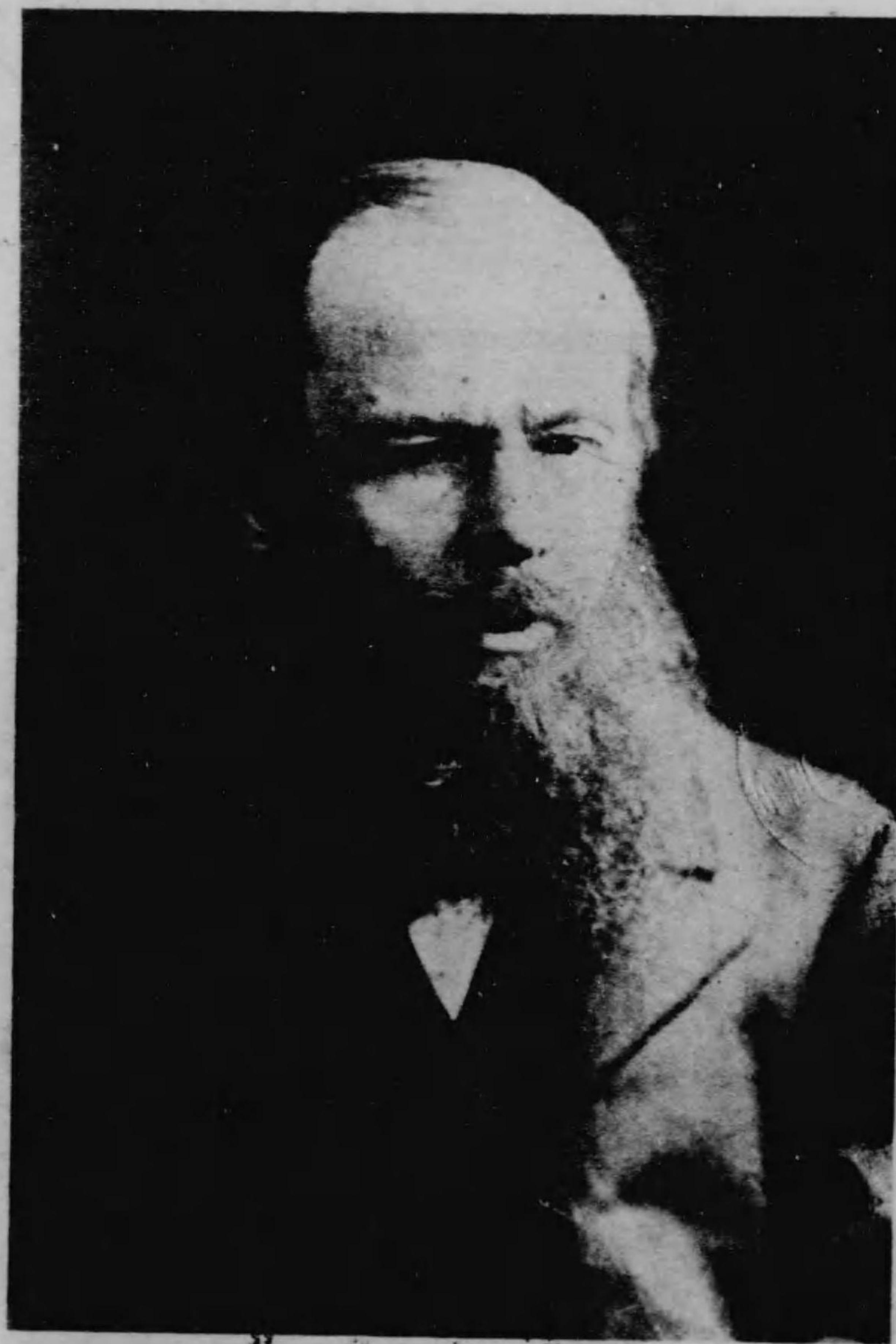
第十卷

書翰集

新城和譯



内文





解 説

ドストイェフスキイ書簡集は、普通のありきたりの手紙を集めたものとは全然趣きを異にしてゐる。殆ど、作者の自叙傳のやうに、真情を吐露し、詳細に生活を描いたもので、興味はなかくに深い。その中の各通長いものが多く、殆ど一箇づゝ短篇をなしてゐると言つても差支へのないものである。そこには、作者の苦痛も煩悶も歡喜も思想も問題も、あらゆるものが含まれてゐる。彼の波瀾多き數奇の運命が、深刻な叫びをもつて描寫されてゐる。彼は一生涯物質の缺乏に苦しみ、彼の親しき血族親友及び、雜誌編輯人は、彼の金策の依頼に應ずるに暇まなき位であつたが、彼はその依頼をしたのは、半ばは、自己の爲であり、半ばは他人（殊に貧乏な親類や、その他のもの）の爲であつたことは、書簡集の中に瞥見されてゐる。他人に斯くまで彼は迷惑をかけたのは、彼一箇の利己主義からでなく、他人の爲めであつたとも、ある意味から言ふことが出来る。亡兄の事業の跡始末の爲に、自分に數へられた財産を投げだしたり、その借金全部を背負つたりすることは、彼以外の常人の出来ることではない。貧しい他人や乞食などに、自分の貧しいにも係らず、多くの金を與へたことも珍らしくないさうである。

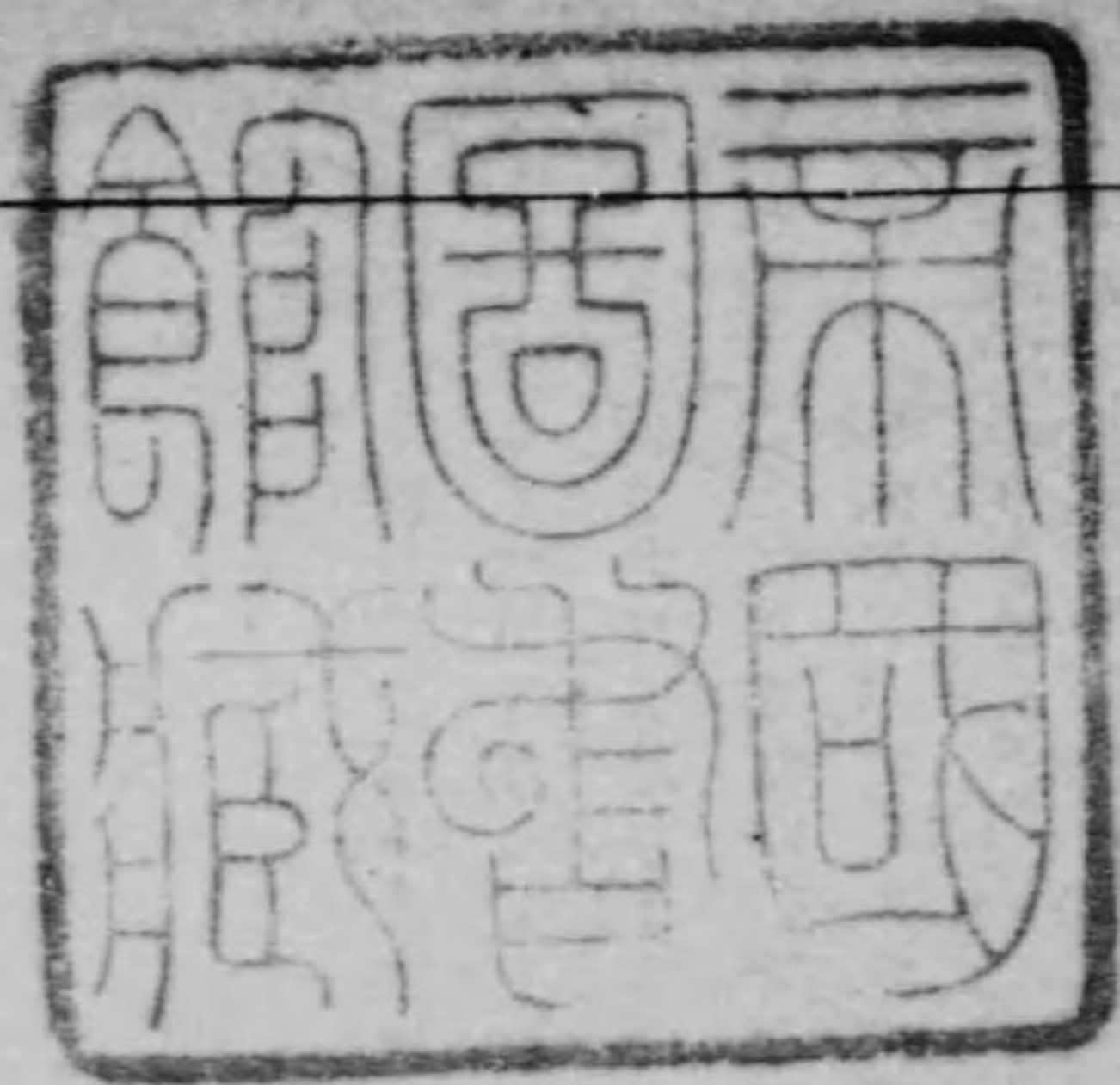
世の中には、ドストイェフスキイは、一生金の爲に小説を書き、金の爲に、小説を引き延ばしたり、書き急いだりしたと言ふ人がゐる。また、只金もうけの爲に賭博したのだと言ふ人もゐる。然し、此書簡集を讀めば、それは全く誤りであることが解かる。彼は一度も金の爲に小説を書いたこともないし、金の爲

に小説を悪くしたり、賭博をうつたりしたこともなく、十分の責任と自信を以つて書いてゐるのだ。どんなに金にこまつても、空約束をして前借をしたことはなかつた。彼は頭の中にもちやんと構圖がまとまらなければ、又、必ずそれで小説が書けると言ふ自信がなければ、一度も小説を前借したことがないことが完全にこゝに證明される。また、賭博をしたのも、金もうけの爲ではなく、自分の苦しい境遇から脱せん爲か、亡兄の遺族や継子を助けん爲にしたのであることが解かる。勿論それは金をとる爲であるには違ひないが、それは單なる金儲の爲ではない。彼はあれ程金に困つて必要を感じてゐても、常に金を蔑視してゐたことが、至る所に現はれてゐる。此手紙を見てそれが解らない人があつたら、ドストイェフスキイを本當に理解してゐるのではない。

本書は、ジイ、ドウブルゴエ、ピアンストックの佛語「書簡集と外國紀行」の第三版中より、書簡のみを譯したものだ。一八三七年彼の十五歳から（ドストイェフスキイは、英語佛語の本に一八二一年生れとあるが、一八二二年の誤りなることが、「作者日記」中にある彼自身の手記より判明した。）一八八〇年満五十八歳死ぬ前一月の時までを集めたものである。佛譯にあらざる重要な手紙三通は、エセル、ユルバーン、メエンの英譯より轉載し、佛譯中の比較的重要なならざる手紙數通を譯者は削除した。英譯は抄譯が多く、小さいものであるから、本書は、其と所々對照したが、譯文に非常の差があるので、重に佛譯により只二三ヶ所のみ、明かに誤りと認めた所の外は、英譯によらないことにした。佛譯も、シルゲネエフや、ゴンチャロフのことを書いた所に、ピアンストックが故意に抄譯したらしい所があるが、然し、大體に於いては、全譯であるやうに思はれる。それから、譯者は始め佛譯にあらざる手紙で英譯の中にあるもの全

部々本書に集めるつもりであつたが、さうすると非常に長いものになるので 自叙傳的に見て重要なものを轉載したことを一言斷つておく。

譯者記



ドストイェフスキイ書簡集

(譯佛クツスンアビ)

(譯重一和城新)

口繪

千八百七十九年の肖像

彼の父に

一八三七年七月二十三日 サン・ペテルスブルグにて

親愛なる父上、

今日は土曜日でございます。神様の御蔭で、暇がありますので、あなたに少くとも數行の手紙を書くことが出来ます。何故こんなことを申しますかと言ふに、それは、平素は、私共は始終忙しいのでございます。もう直き九月になりますので、試験の時期が近づいて参りました。それで、私共は、毎週一瞬間も無駄に費すことは出来ないのでございます。私共は、土曜と日曜の外は、暇がございません。即ち、この日には、コロナアド、フィリツボギツチの授業がありません。それですから、只今の外には、あなたと御話する暇がありません。

算術と科學は、築城學及び砲兵學の研究と同様にうまくはかどつてゐます。日曜と土曜は、私共は、地圖を描いたり、引いたりしてゐます。コロナアド、フィリツボギツチは、殆ど毎日のやうに、私共みんなの面倒を見てくれます。けれども、私共二人については、彼はまた特別に勉強させるやうにします。何故と申しますと、彼の家で試験準備をしてゐる人の中で、私共二人丈が第二等級に這入らうとしてゐるのです

から。凡ての他の人々は、下級の方へ這入らうとしてゐます。彼の家で準備してゐる他の人々よりも、コロナアド、フィリツボギツチは、私共二人に多くの期待を持つてゐます。私共は、間もなく、コロナアド、フィリツボギツチの約束してくれた下士と、體操を始めることになりませう。そして、私共が學校に入學許可されるまで、即ち、二月まで、其れをする事になりませう。試験官は、體操をば非常に要求して居ります。人間は、凡てのものを完全に知らうとしても無駄です。體操の爲めに、全く、下級にしか入學を許可されないのです。それですから、これをすれば、ミハイル・バヴロギツチ殿下から、いゝ點數を得ることが出来ませう。彼は非常に順序と言ふことを重んじて居られるのです。それで、九月の試験後に、工科學校で、私共凡てが其をしなければならぬなどと云ふことを考へなくても、私共は、どれ丈、體操をしなければならぬかと言ふことを考へて下さい。うまくいくか如何か。私共は、神に希望をおくより外ありません。私共は、一生懸命で勉強しやうとしてゐます。

あなたは、今、收獲をしやうとしてゐらつしやるのですね。私共も知つてゐる通り、それは、あなたの大好きな仕事のことを言ふのです。あなたの所では、收獲はうまく行つたでせうか。御天氣は如何ですか。サン・ペテルスブルグでは、素敵にいゝ天氣です。恰も伊太利に居るやうな感じがします。私共は、まだシドロフスキイに會ひません。それですから、彼にまだあなたの御挨拶を傳言することが出来ません。

田舎では、私の兄弟姉妹は、如何して居りますか。彼らは、自分の欲するまゝに、散歩させたり、賑つこさせたり、果物を食べさせたりしなければいけません。日に焼けさせなくてはいけません。サアシャは、ずるぶん大きくなつたことと思ひます。——田舎の空氣は、彼女にいゝのです。ヴァリヤは、多分針仕事

をしてゐるのでせう。カラムジンのロシア歴史を研究したり讀んだりすることは忘れないでせうね。彼女は私にそう約束したんです。アンドレイは、田舎遊びに夢中になつても、あの屢々覺えることの出来なかつた歴史を知らうと言ふ考を起してゐるでせうね。秋になれば、あなたは、モスコウのチエルマツク學校へ彼を連れて行つて、恐らく開いてゐると思ひますが、そこへ入れてくださるでせうね。さうです。あなたは、未だ長い間、子供の教育にたづさはりになさなければなりません。私共は、するぶん數が多いのです。あなたの尊い健康を維持するやうにと、私共はどれ程、主に願つてゐるか推察して下さい。私共の深い尊敬と真心の印しを御受取り下さい。心底からあなたを愛して居ります。

ミハイル及びフィオドル・ドストエフスキイ

追伸、——私共の代りに、兄弟姉妹に接吻して下さい。

同じ人に

一八三七年九月六日 サン・ペテルスブルグにて

親愛なる父上、

私共は御無沙汰してからするぶんになりました。私共の長い沈黙は、定めし、今のやうな場合は、あなたに非常な心配をおかけしたに相違ございません。私共は、今日、やつと便りを差上げる暇を見出した

のです。私共は非常に忙しいのです。試験は近づいてゐます。絶えず其準備をしてゐるのです。一切のものが、私共を全く當惑させてゐます。

工科學校の綱目に示されてゐる通り、九月一日には、學校に出頭しなければなりませんでした。

私共は、規定の時間に到着して、コ罗纳アド・フィリツボギツチによつて、検査官ロモノスキイと學校長のシヤルンゴルンスト將軍に紹介されました。將軍は我共を非常に親切に取り扱つてくれ、私共に仕度をするやうに命じました。何故と云ふに、人々は、學校で、屢々、私共の名を呼ぶだらうと思はれたからです。コ罗纳アド・フィリツボギツチは、直ちに、將軍から、我々凡てのものを召集するやうに言はれました。如何言ふ譯だか私は知りません。其は證明書の爲めに違ひないと思はれました。何故と言ふに、將軍は、生徒が其前に這入つてゐた學校の證明書を持つてくるやうにと、將軍は言ひましたから。そして、重要試験は、今月十五日と決定致しました。志願者は、四十三名あります。私共は、志願者が非常に少いことを大變うれしく思ひました。去年は百二十人ありました。その前の年は百五十人以上もありました。コストマロフの生徒は、いつも、順番が先きです。こんなに少い今は、如何なるでせうか。二十五人しか許可しないのは全くですが、餘り落第することはなからうと思ひます。人々は可成つまらないやうに見えますが、みんな四年級に這入らうと願つてゐます。みんな、コストマロフの生徒を恐れてゐる風に見えます。私共は、非常に丁寧な物を言はれます。さて、如何なることとせう。

あなたの御便りを承らなくなつてから大分になります。あなたの仕事の忙しいのを思へば、あなたに其を要求することは出来ません。私共の運命が決する時、即ち、所謂試験をうけてゐる時、丁度、あなたは

此手紙を御受取りになるでせう。後便で、その結果を御知らせしませう。私共の仕事は三倍あります。時間さへも、私共よりも遅く進む位です。始終勉強ばかりです。私共は、試験を非常にぢれたい思ひで待つて居ります。私はあなたに手紙を急いで書いてゐるのです。手紙を書いて了つた後、どんなに澤山なすべきことがあるでせう。私は之を書くに十五分もかかりませんでした。試験の爲めに、新しい帽子を買はなければならなかつたことを申し上げます。それは、十四ルウブルの値段でした。私共は、するぶん前から、シドロフスキイに御目にかゝりません。今日、カザンの大寺院で、あの人と一時間をすごしたばかりです。試験前では殊に、あの人を羨ましく思はれました。シドロフスキイとコロナアド・フィリツボギツチがあなたに宜しくとのことです。次ぎの手紙までさようなら。

私共は、あなたの愛してゐらつしやる子供であることを名譽と致します。

ミハイル、及び、フィオドル・ドストイェフスキイ

兄ミハイル・ドストイェフスキイに

一八三八年八月九日 サン・ペテルスブルクにて

親愛なる兄上。

あなたの御手紙は如何に私を驚かしたでせう。あなたが私から一言の手紙も受取らないとは有り難べき

ことでせうか。あなたが出発なすつてから、私は三通の手紙を送りました。あなたが立つと直ぐに第一の手紙を送りました。第二の御手紙には、御返事を差し上げませんでした。何故と言つて、私は一錢も持つてゐませんでした。第二の御手紙には、御返事を差し上げませんでした。何故と言つて、私は一錢も持つてゐませんでした。七月の二十日まで續きました。そして、最後には、こないだ、第三の手紙を送りました。ですから、あなたは、私を忘れない、私よりもしげく手紙を書くと言ふことで自慢なすることは出来ません。また、私は、常に、忠實に私の約束を守つてゐたのです。私が怠け者で、非常な怠けものなことは本當です。でも、此世の中で、私が完全な怠け者となる運命しか持たない時は、どうすることが出来ませう。此思ひべき考が、永久に消え去つて了ふか如何かは、解りません。人間は、唯一の心持ちの外は分け前をうけては居りません。その心に、一つの雰圍氣をつくる爲めに、天と地とがごつちやにされてゐるのです。人間は法則と矛盾して創られた子供です。何故と言ふに、精神の天性の法則は、犯されてゐるのですから。……我々の世界は、罪ある考が亂す所の聖なる精神の煉獄のやうに思はれます。此世は否定的な意味を有し、高尚な微妙な靈性は、諷刺となつたかのやうに思はれます。此繪畫のなかに、あらゆるものゝ結果も觀念も持たない所の人は、如何なるであらう。全然、未知の人は如何なるであらうか。此繪畫は汚がされ、存在することは出来なくなるであらう。

然し、その下で宇宙がやつれてゐる卑しけな外皮を見たり、その外皮を破つて宇宙と混合せんが爲めには、唯一つ、意志を躍進せしむれば足ることを知つたり、それを知つて……そして、人間の中でも最下等のものゝやうになつてゐると言ふことは、……悲しいことです。如何に、人間は卑怯でありませう。

ハムレット。ハムレット。私が、あの野蠻な嵐のやうな言葉を思ふ時、その言葉の中で、痲痺した宇宙の嘆きをきき、そして、悲しいつばやきも、非難する聲も私の胸を何等しめつけることがない時……私の心は、悲みに非常に押しつけられて、はり裂けんとするのを恐れて、其を悟ることを避けるのである。パスカルは言つた、『哲學に反對する者は、既に彼自身哲學者である。』と。

哀れな哲學よ！

いや、私はお喋りをしました。私はあなたの手紙を二通しか受取りませんでした、(最近のを除いて。)さて、兄上、あなたは御自分の貧乏なことをこぼして居られる。私だつて金持だと言ふことは出来ません。野營に行つても私は一コベックも持つてゐなかつたことを、あなたは御信じなさいませうか。路で、私は風邪を引きました。(終日、雨が降つてゐます。そして、我々は帽子をかぶつてゐませんでした。)私は寒さと飢ゑの爲に病氣になりました。茶を買つて、喉を濕ほす丈の一文の金もありませんでした。私は病氣がとつ／＼治りましたが、野營に於ける私の生活は、父上が錢を送つて下さるまでは、最も慘めなものでした。それから、私は負債を仕拂ひ、其殘餘を費しました。然し、あなたの境遇のありさまは、際限をこえてゐます。——五ベックの金もなく、どんなことをしても食つてゆくことが出来るでせうか。あなたがあれ程好んで居られるおいしい莓を、食ひたさうな眼付をして見つめてゐると言ふことはあり得ることとせうか。私はあなたを大變御氣の毒に思ひます。あなたは、メルクロフの人々とあなたの金が如何なつたかと御聞きなさいませう。それは斯うです、あなたの御出發の後、私は度々彼らの家へ行きました。その後は、訪ねることが出来なくなりました。必要に差し迫つて、私は彼らの家へ手紙を送りました。けれども、彼らは、

殆ど私に渡してくれませんでしたので、私は、再び請求するのが恥かしくなつた程です。此時、私は、あなたの彼らにやる手紙を受取りました。私は全然、少しも持つて居りませんでした。そして、私は、彼らの手紙のなかに、私のあなたにやる手紙を封入してくれるやうに頼まうと決心しました。あなたは、どの手紙を受け取らなかつたやうに思はれます。彼らが、恐らく、あなたに手紙を書かなかつたのでせう。私が野營に出發する前に、(私は、久しく前から用心してゐた父上宛の手紙を送る金がありませんでした。)私は、彼らに、少しでも私の所に送つてくれるやうに言つてやりました。彼らは、私共にすつかり仕事を送り返して來ましたが、一コベックも送つては來ず、また、何にも書いてよこしては來ませんでした。私はそこで怒りました。私は彼らに、手紙で説明を求めやうと思ひました。ですが、野營から歸ると、私は外出を禁じられ、彼らは轉居して了ひました。私は彼らの住んでゐる家を知つてゐますが、番地は知りません。後で其住所を御報らせしませう。然し、話の模様を變へるには、大分暇がかかります。

さて、あなたは、澤山讀書したと自慢してゐらつしやる。……それで、私があなたを羨むなどとお思ひになつてはいけません。私だつて、ペテルホフで、少くともあなたと同じ位讀書しました。ホフマンの凡てをロシア語とドイツ語で、又、バルザックの殆ど凡てを。(バルザックは偉大です。彼の性格は全宇宙の智識の所産です。其は時代の生んだ精神ではなく、人間の心の中にかゝる結果を齎らすに至つた争闘の長年月の生んだ精神です。)ゲエテのファウストと、その詩、ボレファの歴史と、ウゴリノに、オンディヌ(私は後でウゴリノに就いてあなたに書いて送らせてませう。)私はまたクロンエルとエルナニを除いてギクトル・ユウゴオを讀みました。

それでは、さようなら。どうぞ、手紙を書いて下さい。私を慰め、非常に度々手紙を送つて下さい。此手紙に直ちに返事をよこして下さい。十二日までに返事をうることをあてにしてゐます。それは最も長い遅引の時目です。ぢや、屹度書いてください。そうでないと、苦しみます。

あなたの弟

エフ・ドストイェフスキイ

追伸、私は一つの計畫をしてゐます。狂人になることです。如何に人々は頭を狂はせたり、治して貰つたり、正氣に立ち返らせて貰つたりすることとせう、——あなたが、ホフマンをすつかり御讀みになつたら、儲かに、アルバンの性格を思ひ出さるでせう。どうあなたはお考へになりますか。自分の力のなかに、不可解のものをもつ人、爲すべき所のものを知らない人、神を玩具とする所の人を見ることは恐しいことです。

時々、クマエンに御手紙を上げなさいですか。クドリアフツエフが、チエルマツクに關して何かあなたに通信したか如何か報らせて下さい。後生ですから、そのことを仰つて下さい。私はアンドレイの便りをききたいと思ひます。

さあ、兄上、私共の通信が斯う言ふ風に繼續してゆけば、苦痛も何もありません。互ひに土曜日に書いて送ることにしやうぢやありませんか。そうすれば結構でせう。私はまたシユレンクから一通の手紙を受取りました。私は三ヶ月も彼に返事を書きませんでした。金銭の缺乏はこんなことになるのです。

同じ人に

一八三八年十月三十一日 サン・ペテルスブルグにて

おゝ、何と言ふ長い間、長い間、あなたに手紙を書かなかつたでせう。親愛なる兄上。……忌ま／＼しい試験、之があなたや、父上に手紙を書くことを妨げ、イヴン・ニコライエギツチに會ふことも出来なくしたのです。それで如何言ふ結果になるでせう。私は人からうけ入れなくなるのです。何と言ふ恐しいこととせう。まだ、まる一年、滿一年もあるのです。それが、私に對して犯された卑劣に過ぎないことを知らなかつたならば、哀れな父上の涙が私の心を焼きつくさなかつたならば、私はこれ程までに怒りは致しません。私は、今迄、自尊心が傷けられると言ふことは如何な意味か知りませんでした。此感情が、私から離れたなら、私は赤面することとせう……だが、兄上、私は一撃で世界を押しつぶしたいと思つてゐるのです。……私は試験前にまるで時間を空費して了ひました。私は、病氣だつたのです。私は瘦せました。私は、文字通りに、試験を完全にうけました。そして、落第したのです。……一人の教師（代數の教師）が、さうさせやうとしたのです。その人に對して、私は一年の間、失禮なことをしたのです。そして、今日卑劣にも其を思ひ起して、落第の動機を與へたのです。十點と平均九點五分を得てゐるのに、私は落第したのです。だが、馬鹿だ。忌ま／＼しい。……私は紙をむだにしやうとは思はない、あなた

と度々御話することがなくなるからです。

我友よ、あなたは詩人のやうに哲學を御話しになる。精神がインスピレーションを同じ度丈常に保持することが出来ない丈、あなたの哲學にも缺點があります。より多く知る者には、より少く感じなければなりません。そして、其はお互です、それは、放心に對する法則であり、心の夢中です。知ることによつてあなたは何を仰らうとするのですか。自然、精神、神、愛を知ること……それは、心で知ることが出来るので、智識によつてはなりません。我々が靈魂であつたならば、それを解決せんとする我々の魂の飛翔する思想の中に、生きたり、居つたりするでせう。我々、人類たるものは、只、塵埃に過ぎません。我々は、思想を推察することを餘儀なくされるもので、思想を包括することは不可能です。我々のもうい外皮を通して、我々の魂の中で觀念の指導者となるのが智識です。智識は物質的の力です。心がさやく思想によつて、魂や精神は糧をうるのです。思想は魂のなかで生れるのです。智識は我々の魂の火で動く道具であり、器械です。——のみならず、これは第二の場合ですが、人間の智識が、認識の世界に持ち來される時、感情と獨立して働きます。即ちまた心から獨立して働くのです。若し、愛と自然とが、知ると言ふことの目的であるならば、心は其權利を奪ひとつて了ひませう。……あなたに反對しやうと思ふのはありませんが、詩及び哲學に就いて、あなたと同じ考ではないと申し上げなければなりません。哲學は未知のものが自然であると言ふやうな數學の單なる問題のやうに見なされるべきものではありません。……インスピレーションの躍動する時、詩人は神を見出す、それで、哲學の目的を果たすと言ふことを考へて下さい。従つて、また、詩的法悦は、哲學的法悦であり、哲學は詩であり、一層高き度に屬するものである

と結論することが出来ます。あなたが、全く、現在の哲學の精神で理論をなさると言ふのは不思議です。熱烈な智識ある頭腦を持つてゐる人々の中に、如何に多くの愚かな體系が育まれたこととせう。此多くの種々雑多の意見から、正しき結果を得んが爲めには、其を數學的方式に持つて行かなければならぬでせう。——近世哲學の法則はこれです。……然し私はあなたの夢想するまゝにして置く。あなたの無味な哲學に同意しないとしても、私の考を言ひ表はす態度も單調であることを認めます。そして、私は是以上あなたを惱ましたくありません。

おゝ、兄上、望みなくして生きることとは、如何に悲しいこととせう。……私には未來が私を脅してゐるのが見えます。私は太陽の光が一筋もさゝない極に近い雰圍氣の中に陥つてゐます。するぶん前から、私は何等のインスピレーションも味ひません。でも亦、屢々、一度兄弟の牢死を見たシロンの囚人の靈感のやうな状態に陥ります。……詩の青い鳥は、最早、私に訪れて來ません。冷たくなつた私の心をも早暖めてはくれません。……あなたは私が閉ぢこもつてゐると言ひます。然し、昔の薬は私をも早見捨てました。昔創造した立派なアラビヤ風の講は光輝を失ひました。光が私の精神や心を燃してゐた思想は、今は其熱も焔も失ひました。私の心が固くなつたのか、または、やり續けてゆくことが恐しくなつたのです。私は一切の過去が黄金の夢に過ぎず、驚くべき幻影にすぎないのではないかと恐れて居ります。……兄上、私はあなたの詩を読みました。……それを見て、少し涙を流しました。そして、数瞬の間、私の魂は、思出のなつかしい囁きでもつてあやされて居りました。……あなたは戯曲をつくる考へがあると仰います。……私は其を喜びます。……さあ、御書きなさい。おゝ、もしあなたが、是らの樂園

の饗宴の最後のパン片をさへ失つて了つたら、あなたには何が残るでせうか。……

先週、イヴン・ニコライエギツチに會ふことが出来なかつたのを、私は如何に残念に思つてゐるでせう。私は病氣でした。あゝ！ 光榮そのものは、詩人を鼓舞するに與つて力あるやうに思はれます。バイロンは利己主義者でありました。彼の光榮に對する考は、虚榮的で愚かでありました。……然し、あなたの昔の興奮に引つゞいて、すぐれた美の純粹な魂がいつ姿を現はすだらうと言ふ考、天國の聖餐のやうなインスピレーションが、あなたが泣き、後世の人々の泣く詩を祝福するだらうと言ふ考、斯う言ふ考は、詩人の魂のなかに、創作の時、浮び得るものであるかと強く疑ひます。群衆の愚かな叫びに就いては、全く無視すべきものです。今、私は詩人と群衆を描いたブウシユキンの詩を思ひ起しました。

『汝の火の燃ゆる祭壇に群衆は唾を吐く、悪戯小僧が汝の足臺をゆさぶるが如く。』
それは面白いではありませんか。

さようなら。あなたの兄弟にして親友なる

エフ・ドストイェフスキイ

時に、シヤトオブリアンが、「キリスト教の天才」に於て書いた主要な考は、何ですか。最近、私は、シン・オテチエストヴ新聞紙で、ニザアルのギクトル・ユウゴオに關する論文を読みました。おゝ、ギクトル・ユウゴオは、如何にフランス人の尊敬を得て居ない事だらう。……ニザアルは、彼の戯曲を、小説を殆ど觀賞しません。彼に對して不正當です。ニザアルはあれ程智識があるにも係らず、誤つて居ります。ま

たあなたの戯曲の重なる考を私に書いて送つて下さい。それはすばらしいものだと思つて居ります。例へ、戯曲の性格を作るには、十年でも尙足りまいと思はれますが、少くとも私の考は斯うです。——あゝ、兄上、如何に私はあなたの貧窮を悲しんでゐるでせう。涙が私の眼に浮びます。いつ、斯う言ふことが私達に起つてくるでせう。さて、親しき人よ、あなたの御祝ひと、あなたの誕生日とに際して、私はあなたに御祝ひを申し上げます。

「母の幻影」と題するあなたの詩の中で、あなたが死人に對して不可思議な形を與へたことが解りません。墓を外にした此性格は不完全です。それでも、詩は、うまくない句があるけれども、美しいものです。私が斯う言ふ批評をしてもお怒りになつてはいけません。——もつと度々手紙を書いて下さい。もつときちんと。

あゝ、もう直き、もう直き、イヴン・ニコライエギツチの新しい作物を読むことが出来ませう。何と言ふ詩、何と言ふ天才的の考でせう。スマイルズンが、我文學のバレットオンとなるやうな本を書いたことを言ふのを私は忘れました。「百作家の肖像とその各作家の一作物」といふのです。ソトフ(?)やオルトフ(アレクサンドル・アンフイモギツチ)が其中に這入つてゐることをお考へなさい。それは、噴飯すべきことです。さあ、さあ、私にもつと詩を送つて下さい。他のものは面白いです。メルクロフの人々は、間もなくバルザへ出發しやうとしてゐます。いや、もう恐らく立つて了つたかも知れません。

如何に私は哀れな父上を氣の毒に思ふこととせう。何と言ふ不可思議な性格でせう。あの人は、どれ程の悲みを堪え忍んで來たこととせう。父上を慰めることが出来ないのを、非常に苦しく思つて居ります。

——ねえ。父上は、全く此の世の中を御存知ないのです。五十年も生きてゐながら、三十年前、人間に對して抱いて居られたのと同じ意見を持つて居られるのです。幸福な無智よ！然し、あの人は、迷を解かれます。それは、我々の共通の運命となると信じます。もう一度、さようなら。

彼の父に

一八三九年五月十日

何と言ふ不思議なことせう。私の今の生活の愚かな状態は、多くのものを私から奪つて居ります——
檢閲は五月十日に延ばされました。私はあなたに數語書き添へたいと思つて居ります。親愛なる父上、演習（人々は此演習をもつて私を苦しめます）と試験の爲めに、手紙を差し上げる暇がないと言つても、あなたは御信じなさいませうか。——今、私はあなたに大急ぎで書いてゐるのです。

我が親愛な善良な父上、あなたの息子があなたに金錢を下さいと願つて、あなたに過分なものを要求すると御思ひになるのでせうか。神に誓つて、あなたが私のために、私の利益のみならず、必要によつても、缺乏を御忍びになることを欲するものではありません。家族が苦んでゐる時、助けを乞ふことは、如何に切ないことせう。私は頭を持つてゐます。腕をもつてゐます。私が自ら一人立ちになつて、自由の身にあつたならば、一コベックもあなたに請求するやうな事は致しません。私は辛らい貧窮に馴れて居ります。

こんなことをあなたに申上けることは恥かしいのです。今日、私が爲すことの出来る凡ては、未來に對する約束をする丈です。然し、此未來も長いことはありません。あなたは時のたつに従つて御解りになりませう。

親愛なる父上、今、私は實際に勤務に従つてゐることを御考へ下さい。——いゝにも悪いにも、私の居る社會の規定する法則に止むなく一致して行かねばならぬのです。如何して私が除外例をつくることが出来ませう。斯様な除外例をつくれれば、屢々、大なる困難に遭遇することになります。父上も、そんなことはよく御存知でありませう。あなたは世の中に生活してゐられたのですから。——それは斯うです。野營では、士官學校の生徒の生活は、少くとも四十九ルブルを要します。（私はあなたに其事をすつかり書きました。私は子供としてあなたに打明けます。）此類のなかには、いろんな必需品は含まれてゐないのです。茶、砂糖などと言ふもの、其は此外にゐるのです。それは適宜に必要なばかりでなく缺くべからざるものです。悪るい天氣と雨とで、テントの幕の下で濡れた時、或は、同じやうな天氣に、凍え疲れて演習から歸つて來た時、若し、茶を取ることが出来なかつたならば、去年の冬なつたやうに病氣になるかも知れません。——それでも、私はあなたの境遇を御察してゐます。私は茶を飲みません。只、普通の長靴を二足買ふ爲に、十六ルブル入ります。——それから、私の物品を何處かへ片づけておかなくてはなりません。本や、長靴や、ペンや、紙や其他のものを何處かへ置かなければなりません。その爲に、箱が必要です。何故と言ふに、野營では、テントの外に何の設備もありませんから。我々の寢床は、布で覆はれた藁の堆積で出来て居ります。箱がなければ、如何して始末しておくことが出来ませう。さて、箱が何か必要で

あるか如何かは、お上みの方では心配してくれないのです。試験は終らうとしてゐます。それで、本はもう必要ではなくなります。國家が私の着物をくれます、そうすれば、長靴もいらなくなります。でも、本がなくては、如何して私が時を過して行かれませう。私に給與される三足の長靴は、都會では六ヶ月も持ちません。また、御上は、私に必要な箱をおく場所を許可してくれませんか。テントのなかでは、私は仲間の邪魔になつたり、不愉快を引き起してゐるかも知れません。それでも、人々は私の箱をテントの中におくことを許してくれません。誰れもそんなことはしないのですから。それです。私の荷物の爲に場所が必要です。それです。凡ての人々がするやうに、從卒と相談して、場所を得るやうに始末するのがよいのです。然し、その爲に、金をやらなければなりません。箱を買ふ爲には少くとも、一留は入りません。

運送料……………五ルウブル

宿料……………二ルウブル

長靴の靴墨……………五ルウブル

それは、從卒と相談した値段です。都會では、斯う言ふ値はしませんが、野營では、行けば行く程、彼らに金をやらなければなりません。御上ではそんなことを構つてくれないのです。

斯うして、

16+375+5+7+5=36 若しくは 約40

(郵便切手、ペン、紙、其他)

あなたが私に御送り下さつた中から、私は十五ルウブル節約しました。父上、それで、尙二十五留は絶對的に必要なのは御解りです。我々は六月の初旬に野營に行きます。それで、此金を六月の一日頃御送り下さい。あなたの息子が非常に困つてゐるのを御助け下さる思召があればです。私は強ひては御願ひしません。私は過分を要求してゐるではありません。然し、私の感謝はどれ程ですか解りませんか。シドロフスキイの名前で、私に宛てよこして下さい。

さようなら、親愛なる父上、

あなたのもの、エフ・ドストイェフスキイ

兄、ミハエル・ドストイェフスキイに

一八四〇年一月一日 サン・ペテルスブルグにて

親愛なる兄上、

あなたの面白い手紙に對して心から感謝致します。いや、私はあなたのやうではありません。あなたから來た手紙を人が私に持つて來てくれた時、私の心が如何に甘い驚きを感じたであらうと言つても、あなたは御信じになりますまい。私は、非常な不可思議な歡樂、即ち、ぢれつたくて堪らない歡樂を想像しました。私はあなたの御手紙を手にとり、暫くの間指にはさんで裏返したり、其の重さを知らうとして手で

量つたりしました。そして、封筒を見て喜び、眺め盡した後、私はそれをポケットの中に入れました。……私の魂、私の心、私の情が、如何なる歡樂を其れに見出したであうと言つても、あなたは御信じにはなりません。私は約十五分の間斯うして持つて居りました。遂々私は封筒に飛びつき、封を切り、あなたの書いた行、親しい行を貪り讀みました。お、私が其を讀んだ時には、如何に多くの事を、私の心は感じたこととせう。私の魂のなかに、如何に多くの感じ、親しいやうな、不愉快のやうな、甘いやうな、苦いやうな感じが飛びこんで來たでせう。さうです。親愛なる兄上、不愉快で苦いのです。人が理解されない時、人が全く違つた姿の下に表はされた時、如何に其れは苦いこととせう。あなたの最近の手紙をよんだ時、私は狂暴な人間となりました。何故と言ふに、私があなたと一所に居ることが出来なかつたからです。私の夢想の最もよきもの、辛い長い經驗が私に教へてくれた最も神聖な主義は、醜くされ、忌むべき光に晒されたからです。あなたは御自分で斯う御書きになつた、『書け、反駁せよ、私と議論せよ、そうすれば、お前はそれで何等かの利益を見出し得るのだ。』と。そんな事はありません。親愛なる兄上、絶対にありません。只、あなたの利己主義（私共は皆利己主義を持つてゐます。）他の者から、彼の意見、彼の主義、彼の性格、彼の精神の貧弱から形ちづくる非常な利益ある意見の外は何にもありません。……兄上、其は非常に苦しいことです。否、友情的な手紙に於ける議論は、隠された毒藥に過ぎないので。こんど我々が互に出會ふ時は、それはどうなるでせう。其は、我々の間の永久の不和の根となるかも知れないと思はれます。……然し、こんなことを言ふのはよしませう。近頃の新聞でそんなことは言つてゐるかも知れません。

陸軍學會——それはすばらしいものです。其は最も立派な(?)計畫であると言ふことを御存知ですか。私は、あなたの將來を我々の境遇に結びつけやうとして、あなたの未來のことを考へて居ります。そして、私はアカデミーのことを考へて居りました。然し、あなたの方から私に言つてよこされました。それではあなたの御氣に召したのですね。……然し、斯う言ふことがあります。そこに這入る前に、少くとも一年間勤務しなければなりません。それで、計畫を行ふのに、尙一年かゝるのです。

私があるあなたの心組を知らない中から、あなたは、私にノートを御請求になる。如何して御送りすることが出来ませう。けれども、砲兵隊として、私はあなたに指揮官の教材を御送りすることが出来ます。(其はあなたに御送りするのは不正當のやうに思はれます。)それは、デアアイン將軍のノートで、あなたに試験を通させる様にするに違ひありません。然し、此帳面はほんの一月丈御送りするので、それは私にはありません。私は苦心して其を得たのです。一ヶ月以上は一日でもいけません。其を寫すか、寫させるかして下さい。(デアアインは氣紛れの人です。恰も本を朗讀でもするかやうに、暗記するか、きれいな言葉で喋らなければいけません。)野戦築城は、ほんの少しですから、三ヶ月もかゝれば覚えられます。それから、五月になつて其を御送りませう。他のものは、もつと多くの月を要します。私はそれをはからひませう。私はまた、解析幾何の石版刷をもつてゐます。然し、其は簡単なブラッシュマンの本です。ようござんか、省略したものです。斯うして二人でブラッシュマンを研究致しませう。同じやうにして下さい。其を買つて下さい。

あなたは測地學を御存知ですか。私はボロトフの教程をもつてゐます。生理はオビモフの教程です。私

は微分積分の石板刷で出来る丈勉強させよう。我國は歴史の(石板刷)完全を極めた大きな教程をもつてゐます。然し、私はそれを得ることが出来ません。ロシア文學はプラスチックです。——彼自身で我國では教へてゐます。我野戦工兵の試験は、非常に厳しいのです。仲間を苦しめると云ふことが不必要だと言ふ主義から、非常に寛大になつてゐます。屢々、そう言ふ例を見ました。

私はクマニンに非常に丁寧な手紙を送りました。御心配下さいませぬ。私はよい結果を期待してゐます。私はまだ保護者に手紙を書きません。實際、私は暇がないのです。

親しき人よ、新年御目出度うございます。新しい年は私共に何を持つてくるでせうか。あなたの欲する通りにならばいいが、此最近五ヶ年は、我々の家族にとつて恐しい年でした。私は新年に際して、昨年あなたの御送りになつたものを讀みました。思想はいゝと思ひました。詩の精神とその表現は、バルビエの影響の結果です。中にも、あなたは、彼のナポレオンに關する言葉を記憶して居られたに相違ありません。

こんどは、あなたの詩に就いて話させよう。さて、兄上、人生に於て、人間は、多くのくのの悲み、苦しみや喜びに出會ふものだと思ひます。詩人の生涯には、棘もあれば、薔薇もあります。詩は詩人の離るべからざる道づれであります。何故と言ふに、彼は、言葉の天分を持つてゐるのですから。あなたの抒情詩は面白い。「散歩」「朝」「母の幻影」「薔薇」「フェビユスの飛脚」や其他のもの。是等の詩は、如何にあなたの生活を語つて居ることとせう。そして、如何に、凡てのものは、私に親しいものでせう。私はあなたを理解することが出来ます。何故と言ふに、あの時、是らの言葉は、私の記憶のなかに銘じられて忘れないからです。あの時、如何に不可思議な驚くべきことが私に起つたこととせう。それは長い話となりま

す。私は誰にも其を物語りません。……シドロフスキはその時、私にあなたの詩を見せました。おゝ、あなたは如何にシドロフスキに對して悪いことを言つたでせう。私は、彼を除き知らない人で自ら氣持の變化に身を任せてゐない人の見ない所のものを、彼の辯護として願ふことは出来ません。——即ち、彼の知識や彼の主義などを。然し、あなたが、彼を去年御覽になればよかつた。彼はまる一年ベテルスブルグで不遇に職業もなく過したのです。何の爲に彼が來たかは神様が御存知です。彼は、快樂の爲に、ベテルスブルグに住む程、決して幸福な男ではありません。しかし、彼は回處かへ逃れてゆく爲に、ベテルスブルグに正しくやつて來たのは明かです。彼は殉教者のやうな姿をしてゐます。彼はひからびて、頬はこけて、眼は乾いて燃えて居ります。彼の顔の精神的美は、肉體美の衰へるに従つて増してゆきました。彼は苦しんでゐます。深く苦しんでゐます。あゝ、如何に彼はある少女を戀したこととせう。マリイと言ふ名だつたと思ひます。彼女はある人と結婚しました。此戀なしには、彼は冷かな純な氣高い詩に使へるものとなることはないでせう。約一年前の冬の夜、彼の貧しい宿に訪ねてゆくと、時々、私は、サン・ベテルスブルグのオネエギンの悲しい冬(第八章)を思ひ出します。私の前には、只、冷たい存在、いや／＼ながらも熱烈とならざるを得なかつた夢想家、だが、美と崇高の創造、シエクスピヤやシルレルによつて現はされた人間の正しい典型は存在してゐませんでした。既に、此時、彼は、バイロンのやうな性格の陰鬱な燥狂の虜とならんとしたのです。我々は、屢々、いろんなことを議論しながら、一所に夜中を過ぎたことがあります。おゝ、何と言ふ純粹な眞誠な心を持つてゐることとせう。私は過去を思ひ出すと涙が流れます。彼は私に何も隠しませんでした。けれども、彼の爲めに私は何をしたらせうか。彼は心を打

ち明けたいと要求を感じてゐたのです。あゝ、如何してあなたは私と一所にゐらしやらなかつたでせう。如何に、彼はあなたにあひたがつてゐたでせう。あなたを口頭で彼の友と呼ぶこと、此名を言ふことをそれ程彼は誇りにしてゐたのです。彼が、あなたの詩を読みながら涙を流したことを思ひ出します。彼はあなたの詩を暗記しました。彼があなたを嘲弄したなどと、如何してあなたは仰るのでせう。おゝ、彼は何と言ふ嘆きをしなければならなかつたでせう。何と言ふ純粹な天使のやうな魂でせう。斯くも悲しい此冬の間、彼は益々大きくなつてゆく彼の戀を忘れることは出来ませんでした。春は来て、彼に元氣をつけました。彼の想像力は、戯曲を創造させ始めました。兄上よ、何と言ふ戯曲でせう。彼が改作したあとで、彼の「マリア・シモノフ」を御読みになつたならば、あなたはそう言ふお考を御持ちになりますまい。彼はそれを、冬中、改作してゐました。彼はその始めの形式はつまらなかつたと言つて居ります。そして、彼の抒情詩、おゝ、あなたが彼の去年の春作つた詩を御よみになつたら。例へば、彼が光榮のことを歌つた詩があります。兄上、あなたがそれを御よみになつたならば。……野營から歸つて来て、我々は、ほんの少しばかり一所に暮りました。我々が最後に會つた時は、一所にエカテリンホフに散歩をしました。おゝ、如何して我々は此晩を過したことでせう。我々が、ホメロスや、シエクスピイヤや、シルレルや、ホフマンのことを話した時に、我々があれ程読み、あれ程論じ合つた時に、我々は冬一所に過した生活を思ひ出しました。我々は、自分達のことや、未來のことや、親愛なるあなたのことを話しました。今日では、彼はもう久い前に出發して了りました。私は彼の消息を知りません。彼は生きてゐるでせうか。彼の健康は非常に弱かつたのです。おゝ、彼に手紙をやつて下さい。

去年の冬、私は興奮した心持でゐたのです。シドロフスキイとの交情は、私の生活の最も面白い時でした。然し、その原因であつた所のものは其れではありません。私が御無沙汰したと言つて、恐らく、あなたが私を非難されたことでせう、今でも非難して居られることでせう。その誤ちは、聯隊の馬鹿々々しい故障だつたのです。でも、兄上、そんなことは今更言はなくてもいいでせう。私は未だ嘗てあなたに冷淡な感情を抱いてゐたことはありません。私はあなたの詩のため、あなたの生活の詩のため、あなたの不幸のため、あなたを愛してゐたのです。——その外に何にもありません。然し、それは、兄弟として、又、友達としてではありませんでした。……私はあれ程愛してゐた一人の友、一つの存在を持つてゐました。兄上、あなたは、私がシルレルをよまないと書いておよこしました。あなたは間違つてゐます。私はシルレルを暗記してゐました。私は彼の言葉を用ゐてゐました。私は彼を夢に見ました。そして、私は運命が、私の斯様な生活の時に、私に大詩人を知る機会を與へた時の時よりもいゝものを與へてくれたこととはありませんでした。私は未だ嘗てこれ程彼を知ることと常としたことはありませんでした。彼と共にシルレルを読みながら、彼の上に、あの立派な熱烈なドン・カルロやボオザ侯爵やモルチメルを認めたのです。此の友情は、私に多くのみと多くの喜びをば齎りました。私は今までこのことをこんなに話したことはありませんでした。然し、シルレルの名は、私に取つて、親しい素派らしいもので、するぶん多くの夢想を呼び起しました。兄上、その夢は悲しいものでした。それですから、私はあなたと、シルレルのことや、私に及ぼした其感化を決して話さなかつたのです。シルレルの名の言はれるのをきくと、私は、切なく思ふのです。

あなたが私を理解しないと言はれたことに對して、あなたの攻撃に對して、私はするぶんあなたに書きたいことがあります。私はまた或ることは議論したいと思ひました。然し、私の手紙を書くとき私が絶對に外のことは言へなくなつた程、それ程、あまい時、あまい夢想、あまい思出が湧いて來ました。私は、只、一點の外は辯護いたしません。私は、大詩人を知らずに、大詩人を決して並べ立ては致しません。私は例へば、プウシユキンとシルレルとの比較などはしません。あなたが何處からそんなことを御持ち出しなすつたかは解りません。私の言つたことを正確に書いてよこして下さい。私は斯様な配合をやつたことは否認します。あることに就いて、プウシユキンとシルレルの名を交る／＼あけたことはあつたかも知れません。然し、是等の二つの名の間にはコンマのあつたことと思ひます。彼らは少しも似通つては居りません。プウシユキンとバイロンなら別物です。ホメロスとギクトル・ユウゴオのことに就いては、あなたはわざと私の言ふことを理解しないやうにしてゐらつしやるのだと思ひます。私の言はうとしたことは斯うです。ホメロス(キリストの如く神から送られ、神の化身となれる奇怪な人物)は、キリストに比較すべきもので、ユウゴオに比較すべきものではありません。兄上よ、それを御究めなさい。イリアッドを理解し、眞剣になつて御讀みなさい。(何故と言ふに、あなたは其れをよんでゐらつしやらないから。其れを白状なさい)イリアッドに於て、ホメロスは、キリストが近代社會になした如く、古代社會に、精神的生命及び物質的生命的組織を與へたのです。こんどは、私を理解して下さい。ギクトル・ユウゴオは、抒情詩人として、眞に天使的な性格を所有して居りました。彼の詩に子供らしいキリストは教的な傾を帯びさせてゐました。そして、何人もそれでもつて彼と比較することは出来ません。シルレルでも、(彼は何と言ふキリス

ト教的でない詩人でせう。)抒情詩人シエクスピアでも、バイロンでも、プウシユキンでも。私は、フランスの譯で彼のソネットを讀みました。その天分に不屈の信仰をもつて、彼の使へた詩の神に子供らしい崇拜をもつて、其詩の源泉の傾向に於てギクトル・ユウゴオと比較すべきものは、ホメロスの外にはないのです。然し、自然によつて彼に與へられ、彼の表現することの出來た傾向のみに於て、また其の思想に於ては比較は出來ないと思ひます。私には、デルジャギンが抒情詩的見地に立つては、二人よりも優れてゐると思ひます。愛する人よ、さようなら。

あなたの弟にして友なる

エフ・ドストイェフスキイ

今日の手紙は、過去のことを思つて、私に涙を流させました。

あなたの戯曲の主題は、すばらしいものです。そこにはしつかりした觀念のあることを認めます。殊に私を喜ばしたのは、ファウストのやうに、無限を、不可解のものを求めてゐる主人公が、その目的を達した瞬間狂人となることです。——彼が愛せられてゐる時と、何と言ふすばらしいものでせう。シエクスピアがあなたに何物かを教へたことを幸福と思つて居ります。

あなたの御質問に凡て御答へしないことで御怒つてゐらつしやる。私もさうしやうとはするぶん思つたのですが、私には時間もなければ、紙もないのです。のみならず、凡てに答へなければならぬなら、例へば、『お前は髯を生したかね。』と、言ふやうな質問に答へなければならぬなら、他のことを書く暇がなくな

ります。善良な兄上よ、親愛な兄上よ、さようなら、さようなら、書いて下さい。

私はあなたに小言を言はなければなりません。形式のことを言つて、あなたは殆ど常識を逸してゐます。私は、もう久しい以前から、あなたの魂が平衡を缺いてゐるんじゃないかと疑つてゐました。何と言ふ冗談でせう。最近に、プウシユキンに就いて、あなたは何と言はれましたか。私はそれを沈黙の中に、過して了ひましたが、それも理由のないことはありません。私は次の手紙であなたの形式に就いて話させう。今はさうする暇も、餘地もありません。でも、どうぞ、私に言つて下さい。形式のことを言ひながら、如何してあなたはこんなこと言はなければならぬのです。『ラシイヌもコルネエユも面白くない、何故と言ふに、彼等の形式は悪いからだ。』と。不幸なことです。あなたは、斯うもつともらしく付け加へて仰いました。『お前は彼らに詩がないと信ずることが出来るだらうか。』ラシイヌには詩がないのですか。自分の理想を愛し、熱心で情熱的であつたラシイヌに、詩がないのでせうか。それは疑はれべきことでせうか。あなたはアンドロマックを御よみになりましたか。え、兄上、あなたは彼のウジエユをおよみになりましたか。ラシイヌの「アシイル」はホメロスのアシイルではないのですか。ラシイヌはホメロスを剽竊したと言ふが、如何して剽竊したのでせう。彼は如何なる女に創造したことでせう。彼を理解するやうにつとめなさい。ラシイヌは天才ではなかつたのか。彼は戯曲を作ることが出来たかしら。コルネエユの模倣をしたのみであつと言ふのか。然し、フェエドルは？ 兄上よ、あなたが、彼が、氣高い純粹な性質をもつてゐたこと、彼のものが詩であることを理解なさらないならば、つまらない人となるでせう。彼はシエクスピアの素描です。大理石でなくとも、石膏の像です。

こんどは、コルネエユのことを話させう。いゝですか、兄上、私はあなたと如何言ふ風に話すべきかは知りません。手袋でもつけなければならぬやうに思はれます。然し、私はそんなことを思ひたくありません。あなたは彼を御よみなさらなかつた。それだから、斯様な誤謬を犯されたのです。彼の巨大な性ロオマンチズムの精神によつて、殆ど、シエクスピアと比肩することを御存知ですか。あなたは、「クラシツクな形式」と言ふ答しか凡てになさいません。不幸なことです。諷刺的なクレオパトラを書いたジョデルのやうなタレントと缺いた哀れな放浪者の後、殆ど同時代であつた諧謔的なブツフォンやマレルブのやうな冷たい韻律家の後、コルネエユは五十年間も出現してゐたことを御存知ですか。彼は、どこで、其もくろみのモデルを見出したのでせうか。例へば、彼はセネカなどからモデルを見出したのではないことは確かです。あなたは彼の「シンナ」を御讀みになりましたか。オクタヴと言ふこの驚嘆すべき人物の前では、チャアレス・ムウアや、ファイエスクや、テルや、ドン・カルロも色を失つて了ひます。それはシエクスピアに名譽を與へるやうなものです。あはれな友よ、あなたが其をおよみにならなかつたなら、それを御よみなさい。殊に、オ、ギユストがシンナの罪を許す所、(如何にして彼がその罪を許すか。)その二人の會話をよんでごらんなさい。ねえ、全く、こんな風に喋ることの出来るのは、傷けられた天使のみです。殊に、オ、ギユストが「友達とならうよ、シンナ、」と言ふ所など全くさうです。あなたはホレエスをおよみになりましたか。ホレエスに斯様な性格を見出しなすつたことはありませんか。年とつたホレエス——それは、デイオメエドです。若いホレエス——それは、アジャツクス・テレモニツドです。けれども、アシイルの心を持つてゐます。キュリアスは、バトロオクルで、アシイルで、戀愛と義務の悲みをあらはし得る

凡てのものです。凡てのものは何と云ふ偉大なことでせう。あなたは「シッド」を御よみですか。みじめな人よ、それを御よみなさい、そして、コルネエユの前で塵まみれに倒れなさい。あなたは彼を辱しめました。御よみなさい。およみなさい。ロアンチスムの最も高い觀念が、「シッド」のなかに開展されてゐなかつたとするなら、ロマンティスムとは何を要求するのですか。ドン・ロドリイグや若い息子や、その戀人のやうな人物は、何と云ふ性格をもつてゐるでせう。そして、如何にしてそれが終つてゐることとせう。ですが、私の用ゐるたぶしつけな言ひ現はし方に就いて、お怒りにならないやうに御願ひします。

同じ人に

一八四〇年七月十九日 ベテルホフにて

愛すべき兄上よ、聞き入れられないかも知れませんが、私は再び手紙を書きます。あなたが一層頑固で怒つて居られれば居られる程、私をどうぞ恨まないで下さいと御願ひしながら、私は手紙を書き始めなければなりません。否、親愛なる善良な兄上よ、あなたが昔のやうに、私に手をお延ばしにならなくなるまで、私はあなたを捨ては致しません。親愛なる人よ、如何してこんな風になつたのか私は解りません。昔は、(少しの除外例はありましたが)あなたは私に對して正當に判斷されました。長く御無沙汰しましたが、あなたは私をお許しなさいました。然し、今は、私があなたに言譯を致しましたが、あなたがよく御存知

ですが、其れは如何ともし難い言譯ですが、あなたは私の言葉を聞き入れて下さらうとはなさらないのです。我が善良な友よ、斯様に言ふ非難を御許し下さい。これが私の心の底から如何しても起つてくることをあなたに隠してゐることは出来ないのです。親愛なる人よ、私はあなたを愛してゐるのです、そして、あなたの冷淡なことを見て苦しんでゐるのです。あなたの代りになつて、私は久しい前から凡てを忘れて、出来る丈け早く私の友を辯護し、その人に恵を要求しはしまいとしてゐるのです。私の方は、少くとも、やつと樂に行けるので、即ち、少しの金がありますので、(保護者がもう私に送つてくれました。)その額は大したものではありませんが、私は毎週あなたに手紙を書かうと絶対に約束します。今、私は急いで居ります。それですから、私は長い手紙を書くことは出来ません。私は、始終、將軍夫人と、三日間つゞく演習を待つてゐるのです。

あゝ、親愛なる兄上、何か書いてよこして下さい。あなたの決心、意志、試験と同じやうに、あなたの未來のことを如何に私が心配してゐるか御存知でしたら。でも、兄上、それが近いのでありますから。如何なるか解りませんが、の此手紙はルズエルにゐるあなたに届くでせう。我が親愛の友よ、神がさうして下さい。さいます。あゝ、我々はこのまゝ不和になり續け、我々の不變の友情が變化しなければならぬとすれば、あなたの沈黙のために、私はどんな辛い思ひをするか解りません。何故と言つて、あなたの運命の馬鹿々々しくはあるが決定的終局は近づいてゐるのですから。此終局を私は常に慄ひながら待ちうけてゐるのです。全く、凡ては此の何に關するものでせうか。そのことを考へて下さい。あなたの生活、未來に關しては、然り、あなたの幸福に關しては、何故と言ふに、あなた自身が變つたのでなければ、若しくは、あなた

があなたの希望たるエミリーのことを御話しなすつてから、あなたの生活そのものが變つたのでなければ、あなたの生活に幸福な試験がどんな變化をもたらすかを雜作もなく悟ることが出来ますから。さて、我が善良な兄上、あなたの生活に、かゝる状態の外にないものとすればです。我愛する友よ、その友情があなたの喜び……又は悲しみとなる所のあなたの兄弟に信用をおかなくなると言ふことは、残酷なことではないかと思ひになりませんか。あゝ、我が善良な友よ、私をかく不安定のなかに、苦しい不安定のなかに打ち棄て、お出でになるあなたを、神が戴き給はんことを。

さて、兄上、あなたは如何おなりになるでせうか。あなたの夢想と言ふよりも、あなたの希望、あなたの心があれ程幸福を約束した光明の一隅を、あなたの隠鬱な生活の遠景に現はして、あなたの運命をはぐませたあの希望は、少くとも實現されるでせうか。時、時のみがそれを證明致しませう。時のみが一人我々のかゝる生活の時代の意義を觀察し、明確に決定し得るのです。——それは決定し得るのです。私の言葉を許して下さい。此精神及び心臓の活動が、全人生に於ける自然な憧憬のやうに、純粹で、規律正しく、明確で、光明的であるか、或は、不規則で目的もない空虚な活動であるか、屢々、已れ自らが解らない子供のやゝではあるが、無意識に身のまわりに精神の糧を探し、「卑しい夢想」の氣どつた憧憬のなかに消え失せてうふ純な熱のある孤獨の人間の心に浮ぶ妄想であるか如何かを、時のみが一人決定し得るのだと私は言ふのです。實際は、如何に生活は悲しいものでせう。そして、人間がその誤ちを悟り、無限の力を意識し、其力が不適當に虚偽的に、その人の天性にふさはしくない活動に浪費されてゐることに氣がつく時は、如何に苦しいものでせう。その時、その人の魂の火は消え、窒息せしめられたやうに感じます。

誰の爲に彼の心が破られ、何の爲に破られたかは、誰も知りません。其は小人にふさはしい生活の爲めで、巨人にふさはしい生活の爲めではなく、子供にふさはしい生活の爲めで、大人にふさはしい生活の爲めではありません。

こゝで尙友情は必要です。何故と言ふに、その時、心がこんぐらがつた障礙にひつかゝつて、人間は、危険の別、出来心の前に行つて、恰も運命の命令でもあるかのやうに、勇氣を失ひ、あきらめをつけて了ふからです。彼は逃れることの出来ない凡てのものが負けて了ふ奇怪な糸をば、弱い蛛の巣であると取つて了ひます。——その時、眞に、我々の運命は、神の命のやうに思はれるのです。即ち、我々の全天性の避くべからざる力と共に、我々の上に働くのです。

私は手紙を中絶してゐました。私の勤務が私を妨けてゐたのです。あゝ、兄上、あなたが我々の生活を考へて下さつたなら！ 然し、親愛な友よ、なるべく早くいらつしやい。天にかけて、いらつしやい。若し、あなたが我々一所に居ると言ふことがどんなに我々に必要であるか御存知だつたら！ 我々が別れてから、幾年も過ぎて了ひました。私が月々あなたに御送りする紙屑が、我々を結びつけてゐる全部なのです。けれども、我々にいゝ時も悪い時も齋らしながら、年は過ぎます。そして、凡ては、悲しい苦しい寂莫のなかに流れて了ひます。あゝ、あなたが、愛する友よ、如何に愛が野蠻な人間となつたか御存知だつたら！ あなたを愛すると言ふことが、私に取つては眞の要求となつたのです。私は完全に自由です。私は誰にも屬してはるません。然し、我々の關係は、非常に強いので、私には自分の生活を誰かと相分つてゐるやうに思れます。

我々の間に気がつかずに流れてゐますが、我々の心の中に保存してゐた我々の思想、希望、夢、年齢の中に、如何に變化が起つたこととせう。お、私があなたに會ふ時は、私の生活は新らしくするだらうと思ひます。私は今は少し不安な気がしてゐます。私の生活の流れは不規則です……私は自分で何を持つてゐるのか解りません。我友よ、天にかけて、ゐらつしやい。親愛なる兄上よ、ゐらつしやい。

あなたの試験に就て私が恐怖を抱くべきか如何かは解りません。あなたは如何云ふ風に準備なさいましたか。試験官の方は大丈夫だと思ひます。あなた達に殊に非常に寛大な試験をしてくれますから、あなたが少しでも勉強なすつたら、通過するだらうと思ひます。あれ程多く知らない人があります。私は澤山の例を見ました。あなたは、ノオトのことを私に對してお怒りにならないことと思ひます。私は尙其に就いて繰り返して言ひます。ノオトは無意味なものですから、あなたには必要がないとせう。それは悪い省略で、恥しいものなのです。それに、誰もそんなものは持つてゐません。妹はサン・ペテルスブルグには來ませんね。我々は間もなくペテルホフを立つことになりました。サン・ペテルスブルグ宛によこして下さい。善良な親愛な友よ、さよなら。これで短い手紙を終わります。私は多くの故障をもつて書いたのです。あなたが我々の生活がどれ程不愉快か御存知だつたら！

親愛な善良な兄上よ、さようなら。絶對的になるべく早く書いてよこして下さい。

エフ・ドストエフスキ

同じ人に

一八四一年(?)二月二十七日 サン・ペテルスブルグにて

親愛なる友よ、手紙のやりとりはまた始まります。我々が決して別れまいと思つたことはほんの短い間でした。我々がやつと愉快に心配なく過したのはほんの暫くでした。こゝで、あなたは、突然、私を永久に奪ひ去つたのです。私は只一人ほつちになつてから、非常に悲觀するやうになりました。私には話すべき人もなく、その時ありません。何と言ふ仕事とせう。我々はこれ程の仕事をしたことはありません。人々は我々を眞向になるまで血を流させます。我々は祭日でも外出することは出来ません。斯うして三月は近いて來ました。——春です。霜どけがして、日は稍暖かく、一層輝きを増し、南風が吹いてゐます。愉快です。何を爲しませう。然し、こんな時はもう長くはつづきません。

あなたは私が如何してこんな小さい紙に書くか勿論お察しになることと思ひます。私は夜、大急ぎで書いてゐるのです。

さあ、親愛の人よ、あなたが尙喜んで居られないならば、私の手紙を尙ナルヴで御受取りになるならば、あなたに喜びを御報らせするのを幸福とします、非常に幸福です。月曜(あなたの御出發の日)クリヲビシンが私の宿へ來ました。けれども、我々が食事をしてゐたので、彼に會ひませんでした。彼は家へ私を招

待する書き付けを残して行きました。日曜の晩、私は彼の家に行きますと、彼は、あなたのルエルで任命されたことに就いての事件を私に示してくれました。儲かに、(何らの疑ひもなく)あなたはエミクイを接吻しながら、ルエルにも御出です。(私の方からもそうすることを忘れないで下さい。)何故と言ふに、さうでもなければ、あなたの任命の緩慢だつたことが解らないのです。只、あなたは金に關すること非常に苦に病んでゐらしやるのでせう。私は保護者に手紙を書きました。そして、月曜の手紙(あなたの出發日)を送りました。然し、彼の手紙は、實際彼に何か起らなければ、ナルヴ宛になるでせう。あなたはそれであんまり早くは其を御うけ取りになることは出ますまい。あなたは暫らく借金なすつた方がいゝです。金庫をうけとりになるやうな大した額ではありません。一般に、状態はうまく行きません。現在も未來も何らの望みがありません。私が間違つてゐるのは本當です。私が儲けるなら百萬に對する機會があります。全くあり得べき機會です。百萬に對して一です。

ねえ、兄上、任官なさらない中に、ナルヴで悲觀しなすつてはいけません。

クリヂピチンに感謝して下さい。何と言ふ悲觀のない人でせう。あのやうな人はありません。私はあの人の家で非常に歡待されました。私の外に招待されたものがなく、他人を呼びませんでした。それが最後であつたものゝやうでした。あなたの事件は一瞬時に決せられたのです。何故と言ふに、さうしなければ、「御身は人間とも早生活しなくなるだらう。」からです。

あの人の家族に感謝して下さい。彼らは其丈の價値があります。彼らの慈悲に價するやうなものを我々はしたのでせうか。私には解りません。私はまだベテルスブルグの友達の所にも参りません、Xの所に

も……グクゴロフの所にも、リエゼニキャンプの所にも要塞にも行きません。私は天氣のよくなるのを待つてゐます。

私の頭は酷たらしく痛んでゐます。私の前には、私の注意をひくマリオや、ジロメの方式があります。私はたまらなくなりました。

私の次ぎの手紙は少し連絡がなくなるだらうと思ひます。然し、今は手紙は不可能です。私は今ナルヴでああなたにお目にかゝらうと思つて居ります。それで手紙を書いてゐるのです。

お、兄上、親愛なる兄上、港へ早く、自由へ早く。自由と天分とは偉大なるものです。私は昔の様に其を夢み始めました。魂は、人生の偉大さを知る爲に擴大しました。然し、そのことは後便で話させよう。あなたの方も、神が、家庭の楽しい平和な團樂のなかに、愛と榮えと自由のなかに、あなたに幸福を與へんことを祈ります。お、外部の状態がきまらなければ、あなたは私よりもつと自由です。

さようなら、友よ、

エフ・ドストイェフスキイ

同じ人に

一八四二年(?)十二月二十二日

我尊い友よ、あなたはあなたの心をしめつけてゐる悲み、あなたの苦みをお書きになりました。わが愛すべき親愛なる兄上よ、あなたは絶望してゐるとお書きになりました。私がすっかり其を知つた時に、私の悲み苦みを御察し下さい。私は悲みに閉ざされました。そう言ふことは私には忍びきれないことです。あらゆる我々の欲望、あらゆる我々の希望の花が咲いた時に、幸福が心に芽ざし心が喜びに満ちた時に、あなたは生活のかゝる時のあるのを悔いてゐられる。それは何ですか。是らの時は、苦痛と仕事と心痛によつて、汚され暗くされてゐます。おゝ、わが親愛なる友よ、何かあなたの御助けが出来れば、私は如何に嬉しいか御存知だつたら！ 幾分かあなたの落ち着きを恢復することが出来るかも知れない此少しばかりのものを、私は喜びを以て御送りします。それは少しばかりだと言ふことだと私も知つてゐますが、其以上のことは——誓つて言ひますが——私には不可能なものですから、如何するとが出来ませう。御自分で判断して下さい。私が只一人でしたら、あなたの爲に、私は必要のものを缺いても上げませう。然し、私は弟の負擔があるのです。私がモスコウでこんな早くまた手紙をかくのも、それが推察されることは神が御存知です。然し、あゝ、我尊い友よ、あなたは何と言ふ不當なことを仰るでせう、——借りる——御返しする——だのとこんな言葉を御書きになるとは。あなたは恥かしくはありませんか。兄弟の間でそんなことを言ふのは罪悪ではありませんか。我友よ、我友よ、あなたは私を御承知ないのでですか。私はあなたの爲にもつと大きな犠牲をしたいと思つてゐる位です。否、あなたは氣分が悪かつたに相違ありません。私はあなたを許して上げます。

御結婚式はいつですか。私はあなたの幸福の爲に祈ります。そして、長い御手紙を待つて居ります。私

の方は、今、あなたに都合をつけて手紙を差上げることは不可能です。よござんすか、私は午前三時にあなたに書いてゐるのです。そして、昨晚は私は床に就きさへもしませんでした。試験があつて、仕事も山程あるのです。あらゆる人々は質問してゐます——誰も不名譽をとりたくはありません。——人々は根柢り葉ほりしてゐます。厭々ながらですが、それでもやつてゐるのです。

私はあなたの親愛なる許嫁に對して、非常に罪を犯しました。——あなたと同じやうに尊く愛すべき私の小さき姉妹に對して——然しそれは私の知らないある性格からでした。——我が善良な友よ、許して下さい。御自分の親戚に對してそんなに信用をおいて下さらないとはあり得べきことでせうか。又、私が暇がなかつたと御詫びしても、黙つてゐたのは悪かつたと思つてゐるのに、私の言葉を御信じ下さらず、無禮だの、尊敬を缺いたの、悪感情を抱いてゐるだの、私に對して斯様な偏見を抱かれてゐるあらゆる罪惡をもつてゐると——そんなひどい考を私に對してもう抱かれたのでせうか。然し、名譽にかけて言ひますが、私はその噂に憤ひしませんでした。私はあの人にへり下つて御詫びします。私はあの人を寛大を願ひ、自分の誤り、哀れな罪に對して十分の御許しを願ひます。あの人、非常に愛する兄上の名を冒されることは、私にも嬉しいのです。然し、如何しやうもありません。けれども、私はいつか御解りになるだらうと言ふ望みを抱いて居ります。此手紙のなかで、私のことに就いては何にも書きません。私はさうすることが出来ません。私には時間がありません。いつかまたにします。アンドレイは病氣です。——私は大變こまつてゐます。

さようなら、尊い人、幸福があなたに宿らんことを。

私はあなたに百五十留御送り致します。(これは明かにする爲です。)

あなたのドストイエフスキイ

同じ人に

一八四年十二月三十一日

親愛なる兄上よ、我々が手紙のやりとりしなくなつてからするぶんになります。いゝですか、それは、我々にとつて名譽あることではありません。あなたは生計が困難なのです。でも、それは決定したことだから、未來を握り、そして、あなたに幸福な年と美しい赤坊を得られることを乞ひ願ふ外はありません。もしあなたが女の子を得られたら、マリヤと名をつけなさい。

エミリー・フェドロオヴナに最もつゝましい尊敬を捧げます。私は彼女にもお目出度いよい新年を祈つて居ります。同時に御健康も祈つてゐます。私はフェオドル坊を接吻致します。彼が早く歩くやうになることを願つてゐます。

さあ、此度は用事を御話しませう。カレピンが私の従ふことの出来ない昔のやり方で、私が借金することにして五百ルウブルを送つてくれたにも係らず、私にはまだ二百ルウブルの借金があります。どうかかうにかして、借金から逃れなければなりません。水は動かない石の所には來ません——私はあなたとい

ふと思ふやうな一つの考へ、一つの企てを偶然得ました。——それは非常に有利なものですから、私は大急ぎで、あなたに申し上げて、其の困難、危険、利益を共にしたいと思ふのです。それは斯う言ふことです。

二年前に、「マケルド」(ウーージェエヌ・シュウ)の第一冊の半分、即ち小説の六分の一が現はれたのです。それから少しも出ません。ところが公衆の好奇心は高まつてゐます。ある一州から、マチルドの續きを迅速にしてくれと要求する手紙が五百通も來ました。

然し、其續きは出ませんでした。——翻譯者のセルチエフスキイは愚かな考へを持つてゐる男で、金もなければ、翻譯もせず、それをする暇もありません。斯うして一年半續いたのです。神聖週間の頃、チエルノグラゾフと言ふ人が、セルチエフスキイから、紙幣で二千留で買ひました。(譯者曰、其頃紙幣ルウブルは一フラン二十五サンチムの價をしたものにして、貨幣ルウブルは當時四フランしたるものなり。)即ち、マチルドの翻譯繼續權と、既に譯した部分とを買つたのです。斯うして、彼は一人の翻譯者を得て、マチルドの全作を千六百ルウブルで譯して貰ふことになりました。翻譯をうけとつて、チエルノグラゾフは、其を公けにする丈の一錢の金もないのみならず、翻譯者に拂ふ金すらもなく、うつちやり離しにしておくのです。マチルドは永久に消え失せてゐるのです。パトシと私と、あなたがよければあなたと、此企てを遂行せんが爲め、神聖週間のため翻譯を著す爲めに、困難、金錢、努力を共にしやうと思ふのです。此仕事は秘密を保たれ、よく調べられ、取り消すことが出来ないやうに承諾されて了つたのです。之を如何するかは次のやうです。我々は仕事を同じやうに三つの部分にわけて、熱心にそれにかゝるの

です。各人が、マチルドのブリュッセル小版を日々二十頁づゝ翻譯すれば、二月十五日までに持ち前を果たす勘定になります。きれいに、下書きなしに、読み易く譯さなければなりません。あなたは書き方がうまいから、大丈夫それをする事が出来ます。翻譯が現はれるに従つて、檢閲されるでせう。バトンは檢閲係長のニキテンコを知つてゐます。そして、其はいつもより一層迅速に行はれるでせう。我々の費用で印刷すると、四千五百の紙幣ルウブルで出来ます。我々は紙の値段や活版屋を知りました。

紙のために費用の三分の一を出さねばなりません。その後のことは待つて貰ふのです。負債は本でもつて擔保とされてます。私の知つてゐるあるフランス人の印刷屋は、彼に千ルウブルをやれば、全部印刷して其後は本の賣り上げを待たうと言ひました。

極少しの金がいります。貨幣で五百ルウブルです。バトンはもう七百ルウブルを得てゐます。一月までに私には五百ルウブル送つてくれる人があります。(そうでなければ、私の月給を前借しませう。)あなたの方では、月給を前借してでも、二月までに(十五日)五百ルウブルをこしらへて下さい。此金をもつて、我々は印刷し、發行し、四留の貨幣で本をうるのです。(値段はフランスのやうに極く安いのです。)

小説はうれる。せう。ニキテンコは成功を豫言してゐます。其上、好奇心はめざめてゐます。三百部うれば、すつかり印刷の費用を拂へます。全小説は八巻で、一部一ルウブルで賣れば七千ルウブルの利益があります。本屋は、部数は六ヶ月でなくなるだらうと言つてゐます。利益を三人で分配します。小説を一ルウブルで賣れば、あなたは五百ルウブル得て、又、部数の仕拂ひをうけるのです。

我々の計劃は斯うなんです。あなたは、聯合のなかに御這りになりますか。イエスカノオか。利益は儲

かです。もし、あなたがおやりになる思召があれば、第五篇から翻譯して下さい。出来る丈早く翻譯して下さい。あなたの翻譯の範圍をおしらせする爲に手紙を後で書きませう。

あなたが承諾か否か直ちに手紙を書いて下さい。

エフ・ドストイエフスキ

遅延せずお返事を下さい。さようなら。

同じ人に

一八四四年

親愛なる兄上、

御返事を受取つて嬉しく思ひました。私は取り急ぎ、一筆書きます。あなたは私の所が解らないと仰る。でも、あなたは、私が工兵隊の製圖家室に這入つてゐることはよく御存知です。私が使はれてゐる役所を知つてゐる宛名を間違へることは出来ませう。あなたは斯様に書いてよこして下つたのはいいことです。でも、私はあなたの辯解を喜び、それを承認致します。親愛なる兄上、それではあなたは全く私をお忘れになつた譯ではないのですね。私はあなたの幸福を大變喜んでゐます。あなたが女の子を持たれて、フェオドルが得をすることを願ひます。あなたの子供の教父として私が定められて居るなれば、どうぞ神の意

志が働かれんことを。私の教兒が幸福とならんことを祈ります。私はエシクイ・フェドロオヴナの手に接吻し、彼女の御好意を感謝します。——ルゾルのことに就いては、とくと考へませう。グラランダの御父さんの言つたやうに、我々は調べて見ませう。

さあ、用事のことを話させう。我々の仕事は、*Neo plus ultra* (譯者曰、餘りではないがと言ふ意のラテン語)によく涉どつてゐます。發行は私に任かされ、翻譯はうまく行つてゐます。バトンは利害關係のことになると、素敵なものです。御存知でせうが、斯う言ふ仕事の仲間は、最も利害關係のない友よりも一層價值のあるものです。——あなたが我々を助けて下さることは、絶對的に必要です。上品に翻譯するやうに一生懸命でして下さい。私は郵便で本を御送りしやうと思ひました。然し、其はバトンの所にあるのですが、バトンは出掛けて居りません。次ぎの便で私はあなたに御送りませう。でも、あなた、殊に秘密を御洩しなすつてはいけません。翻譯し、清書しなさい。あなたが遅くとも三月一日までに翻譯を御送り下されば、いゝのです。我々の方はその前に分け前を翻譯して了つて、翻譯は檢閲に送られることになりませう。檢閲官のニキテンコはバトンと仲がよいのです。彼は檢閲を十五日間で終つてくれると約束しました。三月十五日に印刷に附せられ、少くとも四月の中頃出ることになりませう。あなたは我々が何處から必要な金を得ることが出来るかと御聞きになります。私は出来る丈のことはし、五百ルウブルを出させう。バトンは七百ルウブルを持つてゐます。彼は其を所有し、彼の母が二千ルウブル出します。彼女は其子供にその四割丈金を借してくれます。此金は印刷に十分足りるでせう。其餘のことは信用借で出来ます。

我々は凡ての本屋に會ひました。それで私は斯う言ふことを聞きました。

マチルドの翻譯者、チエルノグラゾフは、何にも考へない、金も常識もない男なのです。彼の翻譯は出來上つてゐるのです。半分印刷された時に我々は翻譯の廣告をしやうとしました。そうすると、チエルノグラゾフは姿を消して了ひました。彼の爲に悪いことです。第一篇と第二篇の間を、如何して三年間もうつちやつておくのでせう。——誰でも同じ作の翻譯を二つでも三つでも發行する権利があるのです。本屋は地方に千部うれると答へました。そして、金は——直ぐです。只、彼らは一ルウブルから四十コベツク取るのです。本屋は我々に其本を六ルウブルより少く(ブリュセル版のフランス本の價)するのは馬鹿々々しいと言ひました。それですから、我々は、五月に、同時に三千五百ルウブル丈受取ることになります。只今、サン・ペテルスブルグでは、是らの本屋の言ふ所によれば、本屋に二割やつて、三千五百部は賣り飛ばせるのです。一千五百部とかぞへても、五千ルウブルより少い金にはなりません。支出千ルウブルです。四千ルウブルの純益です。我々は兄弟として三人で分けることを約しました。あなたはあなたの分け前を得るのです。然し、今は翻譯して下さい。

清書する時、適當な名を鋭筆で書いておいて下さい。そうすれば、それを談じ合ひませう。

親愛なる兄上、私はあなたに極めて申上げにくい少しの願ひをします。私は金がありません。私はこないだの祭日に、バルザックの「ウージェニイ・グラランダ」を翻譯したことを申し上げなければなりません。(それはすばらしいものです。)翻譯はすてきなものでした。少くとも三百五十ルウブル(紙幣)は得られるでせう。私はそれを賣らうと熱心に思つてゐますが、此未來の資本家は、其を清書させる丈の金がないの

です。時間も亦ありません。どうぞ、天の使ひにかけて、三十五ルウブル丈送つて下さい。(清書の價です) 私は、オリンブスと、私の猶太人ヤンケル(私の書き終へた戯曲の)と、それから何でもにかけて、あなたが、いゝと思ひでしたら私の髻にかけても。だつて、私に髻はいつか生へるだらうと思つて居りますもの。それらにかけて、ウージェニイから得る半分のは、あなたに上げることを誓ひます。——Dizi(譯者註、私は斷言するのラテン語) さようなら、

ドストイェフスキイ

ね、よござんすか、第一便で。

同じ人に

一八四四年二月十四日

親愛なる兄上、

我々の翻譯がどうなつたか御報らせするやうに請求されます。非常に残念ながら、兄上、その事柄はうまくまとまりさうでもないと思つて御答へします。——それで、あなたに待つて載いて、もつと十分な御報らせをするまで翻譯して下さるなと御願ひしたのです。ねえ、私はその不成功を恐れる何等の理由も認められ

ません。然し、慎重と言ふことは決して多過ぎることはありません。私の方では翻譯を續けてゐます。然し、あなたには一時お止め下さるやうに御願ひ致します。あなたの勞苦を無駄にさせない爲めにです。私はもう、今迄あなたに無駄骨折りをさせたので、非常にがつかりしてゐます。私が恐れてゐる不成功はその翻譯にあるのではなく、その文學的價値にあるのもありません。(其計畫はすばらしいものでせう) 然し、翻譯者の間に生じた所の不可思議な状態にあるのです。第三の翻譯者はバトンでしたが、相當の金で彼の翻譯を訂正してくれるやうにハルトング大尉に頼みました。「ブリックとプロック」や、「跛の悪魔」を翻譯したり、「讀書文庫」に、「葬ひの勤行」と言ふ短篇を書いたのも此同じハルトング大尉です。事柄は非常にうまく進んで行きました。バトンの母は、約束して言つたやうに金を貸してくれました。すると、四月になつて、バトンは母と共にコオカサスへ行かなければならなくなりました。彼は父の命令に従つて兵役につかなければならぬでせう。彼は屹度翻譯を終ると言つてゐました。そして私に印刷と賣捌きを頼むとのことでした。私はバトンのやうな人が、殆ど危険に思はれる仕事の爲に、三千ルウブルの金を私に任せると言ふことは信じ切る譯に参りません。彼に取つて危険は二重です。それにも係らず、バトンは翻譯してゐます。私は知つてゐます、私自身でそれを見ました。

我友よ、斯う云ふ凡ての理由で一時翻譯をすてゝ下さるやうに御願ひするの止むなきに到りました。もう少し過ぎて、私は決定的の決心を御報らせ致します。然し、其は恐らく、翻譯の爲めにはなりません。あなた御自分も御承知です。我友よ、私はどんなに残念に思つたでせう、殊にあなたに對してどれ程残念に思つたこととせう。許して下さい。愛する人よ、私も矢張り嘆いてゐるのです。私は本當に不幸者の

ウラッドです。——私はエミリー・フェドロオヴナに美しい可愛い、女の子の生れること、すぐれた健康とを祈つて居ります。私は彼女とフェオドルの手に接吻します。
常にあなたのもの

エフ・ドストイエフスキー

あなたがジョルジュ・リエゼンカンブと如何したのか書いて送つて下さい。父は何か彼の子供に書きました。私は後便で私のリエゼンカンブ・アレクシスのことを話させよう。

同じ人に

(一八四四年の始め)

わが親愛なる兄弟よ、

私は大急ぎでほんの一筆書きます。私の手紙があなたに着くと直ぐ、あなたは仕事におかゝりになると思ひます。どうぞ、「ドン・カルロス」の翻譯にかゝつて下さい。これはすばらしいものでせう。大急ぎでやつて下さい。此頃、ドン・カルロスを自費出版しやうと思つてゐるのです。私は金を取ります。一度ならず既にしたことですが、私は月給を前借するのです。印刷の費用を計算してみれば斯うです。私はやつと計算したのです。千部で、第一等の厚紙で、約五千枚です。第一等の紙は五百枚で十ルウブルします。全部

で、百ルウブル。

小さい非常に読み易い印刷、(ベルギーの印刷よりも少し大きいもの)一枚紙幣三十ルウブル、五枚しかありません。(多くとも)

それで……全部百五十ルウブル

そして、紙として、百ルウブル

計二百五十ルウブル

藍色又は明綠色の表紙

紙幣三十ルウブル

全額紙幣二百八十ルウブル

本は貨幣一ルウブルですから、百部で優に利益をもつて發行の金を拂ふことが出来ます。不成功の場合に、其餘を十コベックで賣つても紙幣三百五十ルウブル得られます。それはあなたのものを少くとも時報誌に渡すことが出来ませう。

兄上、それですから考へて下さい。ドン・カルロス翻譯は、文學に於て非常に興味ある新事實でせう。素人觀賞家も買ひませう。少くとも三百部は賣るでせう。ねえ、あなたは何ら危険なことをするのではないのです。私に對しては御心配下さいませう。私はそう言ふことを知つてゐます。私は迷つては居りません。我々はいつも費用を拂ふことにしませう。

あなたは家族をおもちです。あなたが家で座つてゐる間、又は、仕事を監視したり、煉瓦のおくのを眺

めたりしてゐらつしやる間は、面白い考が浮んでくることは少いでせう。あなたの月給は大したものでは
ありません。あなたはパンは得ることが出来ませうが、必要な時でも、新しいフロックなしで済まされな
ければならないでせう。それは慥かです。若い時は、缺乏は危険です。それですから、働かなければなりま
せん。あなたは、素敵にうまく詩をお作りになります。フランス物の翻譯者は、サン・ペテルスブルグで飢
ゑて死ぬやうなことはありません。そんな事は全くないのです。私は自分でよくそれが解ります。私はジ
ョルジ・ユサンドを翻譯しました。印刷紙一枚で二十五留取つてゐます。我國の文學で、ストルゴフチコフ
が有名になつたのは何ですか。彼の翻譯です。あなたの翻譯は彼よりも下手だとは言へません。彼は財産
を作りました。あなたは久しい前から財産を作ることには出来なかつた。然し、我々はそれに執着するこ
とを知らなかつたのです。私は序文を書きませう。そして、あなたは、シルレルを詩にして下さい。六月
に印刷し始めることが出来ませう。そして、七月一日に金の表紙をつけたものを一部お送り致しませう。
文學に於ては、野原は自由です。人々は其を喜んで認めるでせう。私はあなたが翻譯することは間違ひな
いと思つて居ります。神かけて、早く手紙を下さい。私の心を落ちつけて下さい。私は忘れて肩章を御送
りしませんでした。私は其を御送り致しませう。私はあなたの御返事を神の愛かけて待つて居ります。あ
なたのもの

ドストイェフスキイ

勤務は私をおしつけてゐます。

勤務は私を馬鈴薯のやうに厭がらせてゐます。さよなら。エミリイ・フェドロオヴナに宜しく。私の姉達

を接吻して下さい。あなた達を御訪ねに行くことは不可能です。許可が與へられないのです。然し、九月
になつて、辭職する時に、十五日ばかり過しに行きませう。お互に心を打ち明けて話し合ひませう。

同じ人に

(一八四四年)九月三十日

親愛なる兄上、

私はドン・カルロスを受取りました。そして、出来る丈早く急いで返事を書きます。(暇がないのです。)翻
譯は結構です、所々は殊に宜しいが、ある行は悪いです。だが、それはあなたが急がれたせるです。然し、
悪るい所は五六行しかありません。私は敢えて少しばかり訂正をしました。また、ある所は、リズムにも
つと軟かさを加へました。邪魔になるのは、時々あなたが、外國語、例へば、complot (譯者註、陰謀)と
言ふやうな語を用ゐられることです。それはいけません。また、(けれども私は本文にあるか如何かは知り
ません。あなたは、陛下と言ふ語をお用ゐになります。私の知つてゐる所では、こんな言葉は、スペイン
にありません。只、西部歐洲、ノルマン系の歐洲にあるのみです。然し、こんなことは何でもないこと
です。翻譯はするぶん結構です。私が豫期したものよりよかつたのです。私は之を、時報誌の馬鹿者達の所
にもつて行きます。彼らは開いた口が塞らなくなるでせう。然し、(私の恐れてゐることは)彼らがもうオ

ボドフスキイの翻譯を手に入れたなら、私は、オテチエストゼンニヤ・ザビスキに持つて行きませう。私はそれを安くは渡しません。御安心下さい。私が賣つたら、金を御送り致しますせう。

シルレルの發行に就いては、私はあなたと同じ考です。私は三冊に其を分割したいとあなたに申し上げたのです。始めは、「海賊」「フイエスコ」「ドン・カルロス」「悪計と戀愛」「センチメンタルな無邪氣な手紙」それは非常に結構です。我々は發行者を考へておきませう。然し、まあ、自分自身で其をした方がいゝのです。さうでなければ、殆ど利益がありません。只翻譯して下さい。金のことは心配しないで下さい。我々はどうにか斯うにかして其を見出しませう。然し、兄上、此仕事は一月の中に終らなければなりません。即ち、きめて了はねばならぬのです。何故と言つて、廣告を後ですることは出来ませんから。廣告しなければ成功することは覺束ないので。それですから、私は時報誌に此ことに關して何か書かうとしてゐるのです。翻譯は人氣を得るでせう。(成功が少くても、利益は大したものです。)

さあ、兄上、私は地獄のやうな境遇に陥つてゐることはよく承知してゐます。さて、其をあなたに説明致しますせう。

私は辭職しました。——何故と言つて、私は辭職したのです、だつて、私は自分の勤務を續けてゆくことが出来ないことを誓ひます。人がその最もいゝ時代を駄目にしてしつぱ時は、人生は重苦しいものです、のみならず私は決して長く勤務してゐる氣はありません。それですから、いゝ時をむざむざ駄目にしなればならぬ譯はありません。それから、最も重大なことはこれです。人々が私を派遣しやうとしたら何うです。——然し、私に言つて下さい、私は如何してベテルスブルグを去つて暮して行けるかを。私は何の役に

に立つてせうか。ねえ、御解りになるでせう。

私の生活のことは、御心配下さいませう。私は間もなく一片のパンにありつきませう。私は非常に働かうとしてゐます。もう私は自由の身となつたのです。然し、このやうな時に、私は何をしやうとするのでせうか。これが問題です。兄上、思つてもみて下さい、私は八百ルウブルの借金があるのです。その中の紙幣五百二十五ルウブルは家主に借りてゐるのです(私は千五百ルウブルの借金があると家に書きました)。何故と言つて、あの人は、人の要求する額の三分の一しか送らない習慣を私は知つてゐますから。私が辭職せんとするのを誰も知りません。若し、私が今辭職したら、私は如何しませう。私は着物を買ふ金を一コベックも持つて居りません。私の辭職は、十月十四日に聽許せられるでせう。もし、モスコウの人が金を送つてくれなければ、私は失はれて了ひます。そして、私は全く牢のなかに遣入るやうになりませう。(それは慥かです)それは滑稽じみてゐるのです。あなたは配分のことを仰つてゐます。然し、私が何を請求してゐるかあなたは御存知ですか。今から直ぐ、私の財産の分を、全然撤棄し、又、將來も、私が彼らに全然財産を譲るかはりに、私は一時に五百ルウブルを貨幣で、又、毎月十四日づゝ五百ルウブルになる丈の金を請求してゐるのです。(それ丈のことです)それは大したものではなく、私が誰もだましてゐるのではないことを信じて下さい。尙、私は今彼らに其を申出てゐるのではないことを信じて下さい。あの人は私を信用して居りません。私があの人達をだましてゐるのだと思つてゐるのです。我友よ、どうか私のために返事して下さい。あの人は斯う言つて下さい、私の要求がひどいものではないと言ふことを、何人にもあなたが答へてやると。あの人は其丈のものを持つてゐなかつたら、私の今の状態では、

恐らく六百か七百ルウブルの金が必要です。私はそれで満足しませう。あなたはまた、私が一時金五百ルウブルと毎月拂ひで五百ルウブルの金額のかはりに、それ丈で承諾してもいゝと言ふことを仰つても宜しい。

あなた私に、救済は私の脚本にあると仰います。然し、其を演ぜしめるには時日がかかります。また金も入ります。そして、私の辭職は近づいてゐるのです。(のみならず、兄上、私が未だ其を要求しないともし、立ち所に私は其を要求しませう。)私は後悔して居りません。私には希望があります。私は、ウージェニー・グランデ程の長さの小説を書き終らうとしてゐます。此小説は同じやうに獨創的なものです。私は其を清書してゐます。此十四日頃には、私は慥かに返事を得ることとせう。私は其をオチエストエンニヤ・ザビスキに出しませう。(私は自分の仕事に満足してゐます。)私には多分四百ルウブル遣入るでせう。私が望んでゐるのは、其が見てとす。私はこの小説に就いてあなたに詳細のことを書きたいのですが、時間がありません。(私は如何しても戯曲を上演させるやうに努めませう。それで私は暮していけませう。)

モスコウの人達は何處までくすぐつたい馬鹿な理屈っぽい人でせう。K……は最近の手紙で、私がシエクスピヤに熱中しないやうにと、露骨に忠告し始めました。彼はシエクスピヤと、シャボン玉とは同じやうなものだと言ふのです。私は、あなたが此シエクスピヤに對する怒りや滑稽な言ひ廻しを御理解なさることと思ひます。また何だつて、シエクスピヤが舞ひ込んで來たのでせう。私は彼に一通の手紙をかきました。要するに、それは筆戰の模範です。私はよく其を書き並べました。私の手紙は書簡文學の傑作です。

兄上、迅速にあの家へ手紙をやつて下さい。神の名をかけて願ひます。私は恐ろしい境遇の下に居るのです。此十四日が最後の期限です。此要求をしてから一ヶ月半にもなりました。天にかけて、彼らが私に送るやうに請求して下さい。最も大切なことは、私が平服をもたないことです。クレスタコフ(譯者註、ゴオルの「検査官」の一人物は。)牢獄に這入らうと欲してゐますが、其は「名譽のあるやりかた」です。さて、だが、私にはズボンもなくは餘り名譽のあるやり方ではないやうです。

私の住所、グラフィスキイ小路、ウラヂミル教會傍、ブリアンシコフ方。ドストイェフスキイとして下さい。

私は私の小説に非常に満足してゐます。嬉しくて堪りません。屹度、金が貰へるでせう。それから！私の亂筆御許し下さい。

同じ人に

同じ人にわが親愛なる兄上、

一八四五年(?)三月二十四日

あなたは私の手紙を永い間御待ちになりました。手紙を書くことが出来なかつたのは、私の境遇が不安定であつたからです。私は眼前に、未知のもの不確定のものを持つてゐる限りは、何物にも全く身をうち

こむことは出来ません。然し、今日まで自分自身の仕事を整理することはまだ少しも出来ませんので、それにも關らず筆をとります。何故と言つて、私はもうすつと前にあなたに手紙を書かねばならない筈だつたのです。

私はモスコウの人達から五百ルウブルを受取りました。しかし、私は新舊の澤山の負債をしてゐるので印刷する丈の金がありませんでした。でも、そんなことは何でもありません。印刷所や販賣人にまた借金することも出来ませんが、小説はまだ用意が整つてゐないので。私は殆ど全く十一月に其を書き終へましたが、十二月になると、其を改作しやうと考へました。私は改作し、清書し、それから二月になつて、其を精選し、整理し、短くしたり、付け加へたりしました。三月の半ばになると、私は其を作り上げ、満足して居りました。然し、その時、また外のことがありました。検閲官が、一日より遅くは受け入れてくれません。それより早く検閲はしてくれません。彼らは澤山仕事があるので。私は如何決心していか解らずに、私の原稿を取つて來ました。四週間の検閲の外に、印刷が約三週間かゝるのです。五月より前に出版することは出来ません。それは餘り過ぎます。こゝでは、右から左から、オテチエストヰレニヤ・ザビスキ誌に其を持つて行くやうにと、すゝめ始めました。そんなことは駄目です。そんなことをすれば、私は後悔するやうになりませう。唯一、彼らは其を讀まないでせう。それをよんでも、六ヶ月もかゝるばかりでせう。彼らはそんなものがなくつても、澤山の原稿をもつてゐるのです。彼らはそれを印刷しても金を少しもくれないでせう。あれは本當に寡頭政治なのです。私がパンの爲に働かねばならぬのに、名譽が何でせう。私は絶望的の決心をしてゐます。私は待たなければなりません。また借金しなければ

ばなりません。九月一日頃、凡ての人々がベテルスブルグに歸り、獵犬が獲物を嗅ぎ廻るやうに、凡ての人々が新奇のものをかき廻るときに、私はありつ丈の金で小説を印刷させよう。恐らく金は十分ないでせう。雑誌にのせる時は、宿屋の主人の拘束をうけるばかりでなく、文明の廣まつてゐる所に住んでゐるあらゆる女中や下男から拘束をうけるでせう。獨裁官の外はゐらないのです。それが二十人ばかりもゐるので。自費出版をすれば、道を開くことになるのです。そして、作物がよければ、それが失はれないばかりでなく、私の負債の心配から私を救つてくれ、私にパンを與へてくれるやうになるのです。

そして、今度はパンに關することは、あなたも御承知の通り、此點は全く私自身に依頼してゐるのです。ともかくも、私は缺乏のどんづまりに陥ちても、私は斯う言ふ誓を立てました——私は自重しやう。私は人から註文をうけては書くまいと。註文は凡てのものを殺し、凡てのものを駄目にしてしまふ。私のあらゆる作物は、それ自身で善いものである事を私は欲します。さあ、ブウシユキンを御覽なさい。ゴォゴルを御覽なさい。彼等は、極く少ししか書きませんでした。そして、人々は彼らの爲に銅像を立てやうとしてゐます。そして、今は、ゴォゴルは印刷紙一枚で千ルウブルの稿料をとつてゐます。そして、ブウシユキンは、あなたも御存じの通り、一行、一ルイ(譯者曰、一ルイは二十フランに當る)の金貨を取つたのです。然し、また、彼らの名聲は殊にゴォゴルの名聲は、長年月の貧窮と飢餓から購はれたものです。昔の派は亡びてゐますし、新しい派は、樂書をしてゐますが、物を書いてゐると言ふことは出来ません。あらゆる才能は、巨大な躍進に用ゐられてゐます。其中には、奇怪な煮え切らない觀念と、躍進に費された衝動の力があるのみで、効果は殆どありません。ペランジエは、今日のフランスの新聞小説家のこと

を、水桶のなかのシャンベルタン(譯者曰、シャンベルタン葡萄酒より出る赤葡萄酒のこと。)の一罐であると言ひました。我國でも、みんなそんな真似をしてゐるのです。ラファイルは、長い年月を費して描き、細寫し、摸索したのです。だから、彼は素敵な作品を作りました。神性は彼の筆の下から生れました。エルネは一つの繪を一月で作ります。彼はその爲に、特別大きな室を註文して、遠近法は一層豊富となり、略描をして、巨大なものです。それは眞面目を書いてゐます。彼は裝飾畫家です。

私は本當に、私の小説に満足して居ります。それは眞面目な調和のよくとれてゐるものです。然し、そこには大なる缺點があります。印刷した時に、私は直しませう。今は、私の頭は空っぽです。私は始めに出る爲に、又、金をとる爲に、何か書かうとしてゐますが、私は何でも書きたい氣が致しません。眞面目なものを書く爲には長時日を要するのです。

我親愛なる友よ、あなたを御訪ねしやうと約束した時は近づいてゐます。然し、私はさうする術がありません。即ち、金がないのです。私は元のまゝの下宿にゐることに決心しました。こゝにゐれば、少くとも貸借の契約があり、約六ヶ月間は落ちつけるのですから。私の小説をもつて、すつかり拂ひをしなればなりません。此のことが成功しなかつたならば、恐らく私は首をくゞつて死ぬでせう。

私は八月までに、約三百ルヴルを豫備としておきたいのです。三百ルヴルで印刷することは出来ません。然し、金は、あらゆる方面に走る蟹のやうなものです。私には約四百ルヴルの借金があります。(雜費や衣服の買物で)だが、私には二年間どうか斯うか着られる丈のものがありません。けれども、私はあなたに絶対に會はなければなりません。私が此宿をどうしたらいいか、早く手紙を書いてよこして下さい。

それは決定に一步踏みだすことです。でも、どうしやうもありません。

金のない未來は、あなたを心配させると御書きになります。然し、シルレルの譯がすつかり金をくれるでせう。そして、私の小説が何部られるかは、誰れが解りませう。

さよなら。大至急でお返事を下さい。後便で、私は私の決心をすつかり御報らせ致します。

あなたの兄弟

ドストイェフスキ

子供達に接吻して下さい。エミリー・フィオドロヴナに宜しく。私は屢々あなたのことを思つて居ります。私を手紙をあげない時は、私が何をしてゐるか、恐らく知りたいと思ひになるでせう。私は讀書してゐるのです。私は大變讀書してゐるのです。そして、讀書は私に不可思議な影響を及ぼします。私が久しい前から讀んでゐない或る物を取り、それを再讀すると、そこに、新しい力が湧くやうに思はれます。私は凡てのなかに没入し、よりよく理解し、そこから創造の力を引き出すのです。

戯曲を書くこと。さあ、兄上、その爲に、少くとも私にもつと長年月の仕事と安靜とを要します。今日、書くことになつたのはよいことです。戯曲はメロドラマになつてゐます。シエクスピアは、近代の戯曲家の霧のなかに、黄昏のなかに青ざめてゐます。彼は神のやうに、プロツケン山や、ハルツ山(譯者曰、獨逸の巨大な山の名。)の上に現はれた幽霊のやうに見えます。それで、此夏は、私は多分一つの戯曲を書きませう。二三年間待つてゐて下さい。今は待つことが必要です。兄上、文學上の見地に於て、私は二年前と同じものではありません。あの時は、兒戯で生意氣にすぎなかつたのです。二年間の研究は、私にある

ものを賣らし、あるものを取り去りました。

癡兵新聞で、私は飢ゑと寒さで、精神病院で死んだ獨逸の詩人のことを書いた文藝欄をよみました。そんな人は少くとも二十人程はゐます。何と言ふ名であつたか。私は今でも其を思つて戦慄してゐます。山師にでもなつた方がいゝかも知れません……

同じ人に

一八四五年五月四日

我が親愛なる兄上よ、

斯様に永く御無沙汰してゐたことを御許し下さい。私は今地獄に居るやうな有様で仕事に忙しいのです。それは私の小説なのです。私がなか／＼手を抜くことが出来ず、非常な勞苦を與へてゐるので、こんなことゝ知つたなら、手をつけなかつたでせうに。私はもう一度其を改作しやうと思ひました。そして、其は一層よくなりました。實際、得た所ものが澤山あります。もう、此度はお了ひです。之が最後の訂正です。私にも早其に手を觸れないと誓ひました。處女作の運命は無限に訂正さるべきものです。私はシャトوبرリアンの「アタラ」が彼の處女作であつたら如何か知りませんが、彼は十七遍其を改作したとのことです。プウシユキンは彼の最も小さい詩にも訂正を加へました。ゴオゴルは二年間そのいゝ作を磨きました。そ

して、あなたが、ステルンの「感情旅行」を御よみになつたら——ほんの全く小さい本です——ステルンの下の僕のラフルウルが證據に關して、ヲオター・スコットがステルン論に述べた所のを想ひ起さねばなりません。

ラフルウルは彼の主人がフランス紀行を書く爲に、百帖の紙をつかつたと言つてゐます。そんなら、何の爲にそんなに使つたのでせう。小冊子をつくる爲には、ブリユウシユキン(譯者曰、ゴオゴルの「死の魂」中の吝嗇な人物の名)のやうな戯作者は、半帳の紙で澤山でせう。このヲオター・スコットが、例へば、「アンナアリング」のやうな完成的の作品を、數週間で如何してかけたか私は解りません。恐らく、其は彼が四十歳ももう年をとつてゐたからでせう。

兄上、私は何になるか解りません。あなたが私の境遇が苦しいものではないと仰るのは不正當です。疑ひもなく、其は私を全滅させる程、眩暈する程苦しめてゐます。私を苦しめる考の爲に、私は屢々眠ることも出来ないことがあります。常識のある人は、私が小説を自費出版をしたなら、私は亡びて了ふと言つてくれます。——人々は私に言ひます。——作物がよく、非常にいゝものである。然し、あなたは商賣人ではありません。如何してあなたは廣告が出来ますか。新聞にですか。絶対に、本屋を一人手に入れなければなりません。然し、本屋には本屋の考があります。彼は損をして未知の作家の作を廣告しやうとは思ひません。そんなことをすれば、顧客に對して、信用を失ふでせう。大概立派な發行人は、五六の雑誌や新聞をもつてゐます。是らの雑誌新聞には、最もよき作家か、若しくは、いゝ作家であると主張する人々が書いてゐます。若し、人が新しい本を廣告すれば、彼らの名前で雑誌に書いてくれます。そして、それ

が大變なのです。

それですから、あなたが本屋の所へ、印刷した本をもつてゆく時は、ほしひまゝに、彼はあなたを利用することが出来ることを悟ります。そこで起るのです。金をもつてゐる發行人は、儲かに私を利用します。私は恐らく蟻づめになつて了ふでせう。と。

そこで、私は、雑誌に頼み、殆ど稿料なしで小説をのせることに決心しました。——よござんすか、オチエエストゼンニヤ・サビスキにです。實際此雑誌は二千五百部売れるのです。少くとも十萬の讀者はあるのです。私がおし、其にのせることが出来れば、私の文學的將來、私の生活——凡ては保證されるのです。それでやることにしたのです。私は常に此雑誌の編輯に、たづさはることが出来ませう。そして金が得られるでせう。且つ、私の小説が、八月か九月の號に發表されれば、十月に私は自費出版することが出来ませう。小説を買ふ人はそれを買ふに定まつてゐます。のみならず、廣告を出しても、一文も私は費ふ必要はなくなりませう。そう言ふことになるのです。

私の小説の未來を確定しないでは、レゼルに行く譯には参りませぬ。何故と言つて、そうでないと、時機を失することになりますから。私は仕事をしなければなりません。私は非常に新しい觀念を思ひ浮べました。もし、私の處女作が、うまく出れば、此觀念は、私の名を文學に確定することになりませう。私の將來の希望のある所は之れです。

金錢に就いては、悲しい哉、私は少しも持つてゐません。金はなくなりましたが、借金の方は殆どない位です。そして、私の宿のことを言へば——第一、私はまだ幾らかの借りがあります。第二、私は身が定

まらない状態にあります。私はレゼルに行きませうか、よしませうか。私の小説を出しませうか、止めませうか。もし、私が出發するとすれば、直ちに去る時はありませう。何故と言つて、轉居の費用と騒動は、こゝにゐるよりも費用がいることになりませう。其は、新しく行く下宿がどんな所にしてもです。私はもう支拂はして了つたのです。下宿、小説、レゼルに旅行、三つの動かすべからざる考、——私の妻と、私の日傘！

さようなら。次ぎの手紙で凡ては定まるでせう。今の所は、さようならです。私は、あなた、及び、夫人、子供に、あらゆる幸福を祈つて居ります。

ドストイェフスキ

こゝの時候は恐しいのです。天の門は開かれ、神は北方のバルシイル(譯者曰、バルシイルは棕櫚の都と言ふ意にして、昔、ソロモンがこゝに都を開き盛えたるを寓してベテルスブルグを指したもものならん。)に澤山の感冒や、咽喉カタルや、肺炎や、熱病などを持つて來てゐます。我々には罪があるのです。あなたは、「讀書文庫」の最近の號でゾルトマンの「エメリア」をお読みになりましたか。——それは面白いものです。四輪馬車がかまく描寫してあります。でも、何と言ふ恐ろしい繪でせう。

エミリイ・フィオドロワナに、つゝましい挨拶を捧げます。私はあなた達皆に會ひたいと思ひます。

もし私が小説を出したら、シルレルをもうまく出せるだらうと思つて居ります。私はその責任を負ひます。「彷徨せる猶太人」は悪くはありません。それでも、シユウ(譯者曰、フランスの小説家ウージエヌ・シユウのこと)は、大した廣さを持つてゐません。

兄上、私はあなたにこんなことを申し上げやうとは思ひませんでした。あなたの境遇は、「シルレルの譯」と同じやうに、私を苦しませますので、私は自分の境遇をも忘れて了ふ程です。そして、それが忘れられないことは實際です。

もし、私がこの小説を出せなかつたならば、いつでもネヴ河に身を投けてもいゝのです。外にどうしやうもありません。私はもうすっかり考へつくしました。此の固定した考によつて生きてはゐられません。大急ぎで御返事を下さい。私は悲觀してゐます。

同じ人に

一八四五年

最も親愛なる友よ、

お約束したやうに、着くとすぐ御返事をかきます。旅行の間、ベテルスブルグについた日まで、どれ程、私は愉快、厭悪、悲哀、醜惡、卑劣を堪へ忍んだかは、あなたに言ひました。其は筆紙につくされません。始め、あなたと、親切なエミリー・フィオドロワナと御別れしてから、最も不愉快な気分になつて蒸汽にのりました。群衆は非常でありました。私の倦怠は堪へ難い程でした。私共は十二時數分に立ちました。船は繩の子のやうに走つてゐました。風は反對で、波は橋まで溢れました。私はたまらなく寒さを感じま

した。私は殆ど意識を失つて、考へる力もなくなり、座りながら、名狀すべからざる一夜を過しました。私は只少くとも三度位嘔吐を催うしたことを記憶してゐます。翌日の夕方、きつかり四時に、即ち、二十八時間で、クロンタッドに到着しました。三時間待つた後、我々は、霧の中を、蒸汽の中でも最もみじめな厭な汽船のオルガにのつて出發しました。それで、霧と夜の中を三時間半進んだのです。私がベテルスブルグに到着したことは、私に如何に悲しく思はれたでせう。私は此死ぬやうな三時間の間に臙ろけに私の全生涯を豫感したのです。殊に、私が恰も始終住んでゐたやうに、レゾルのあなたの所になじんでゐたので、ベテルスブルグと、此首都に於ける私の生活とは、恐ろしく、砂漠のやうに、あらゆる喜びを奪はれたやうに思はれました。此瞬間私の生命が止まつたならば、私は喜んで死んだらうと思ふ程、私は決して誇張して言つてゐるものではありません。凡ての遊び事も私には蠟燭よりもつまらないのです。兄上あなたはベテルスブルグに來たいと思ひです。あなたが御出での時は、陸地をお選びなさい。何故と言つて、夜、殊にネヴ河を経てくるよりも、悲しい忌々しいものは何にもありませんから。少しの事も私にはさう思はれました。私は尙動搖を感じてゐることをあなたは知りにならなければなりません。私が夜十二時頃家に到着した時に、下僕は居りませんでした。彼は暫くの間外へ行つたのです。どんな譯か知らないが遊んでゐた門番が、私に、六百ルウブルの私の部屋の捨て、あつた鍵を渡してくれました。私はお茶をさへ飲むことは出来ませんでした。そして、眞實無感覺の有様で、私は横になりました。今日、八時に眼をさまして、私は前に下男がゐるのを見て、尋ねました。凡てはいつもの通りです。私の部屋は、少し新らしく塗りかへられました。グリゴロギッチとネクラソフはまだベテルスブルグには來て居りません。

人々の言ふ所によれば、九月十五日頃来るだらうとのこと。それも儲かではありません。債権者に、可なり短いが決定的の面會をして、私は手段を講じに行きました。私は全く何に出来ませんでした。私は五六の雑誌と近づきになつて、いくらか食べ、又紙やペンを買ひました。それですつかりです。私はベリンスキイの所へは参りません。私は明日行かうと思つて居ります。今日は、餘り気分が悪いです。私は昨夜、私は此手紙を書き始めました。もう殆ど終りかけて居ります。悲觀に満ちた暗い手紙で、斯様に苦しい現在の状態をよく感ぜられます。

『諸君よ、生きると言ふことは、何と言ふ厭なことでせう。』

私は今第一に、あなたに大至急で書くことを約束しましたから、あなたに書いて居るのですが、第二には、私が悲觀し、あなたに書かねばならぬ要求を感じたからです。……あゝ、兄上よ、寂寥とは何と言ふ悲しいことでせう。今、私はあなたを羨やみ始めて居ります。兄上、あなたは幸福です。それを知らずに、非常な幸福です。私は後使で尙書きませう。私を少し悲觀させて居るのは、全く(十五日まで)金が遣入らないからです。然し、大したことはありません。何故と言つて、今は、私には何か考へることは不可能です。のみならず、凡てのものは、つまらぬものにすぎません。私は非常に弱くなつて居ります。私は横にならうと思つて居ります。もう夜ですから。未來は我々に何を言ふのでせうか。生きんが爲に働かなければならないのは、何と言ふ厭なことでせう。私の作物は、課せられた労働となることは出来ません。あゝ、兄上、少くとも二時間、あなたと一所に過したいとの位思つたか、御想像も及ばないでせう。どうなりませうか。未來はどうなりませうか。私は今眞にゴリアドキン(譯者曰、ドストイェフスキイの第二の作

二重人格」の發狂せる主人公)です。のみならず、私は明日から、それにかゝらなければなりません。

暫くさようなら。後便まで。最愛の人よ、さようなら。私の代りにエシリイ・フィオドロヅナに挨拶して接吻して下さい。私は子供達をも接吻します。フィオドル(譯者曰、兄の子の名)はまだ私を覚えて居りますか。それとも忘れて了つたでせうか。

さあ、最愛の人よ、さようなら。さようなら。

あなたの

ドストイェフスキイ

ゴリアドキンは、私が引續いて憂鬱なので得をして居ります。私には二つの觀念と新らしい構圖が浮びました。さあ、さようなら。いゝですか、今から二十年の中に、私はどうなるでせうか。どうなるか解りません。私は今は悲しむべき感受性をもつて居ると只言つておきます。

ベルグマン氏及び夫人に、私の最もつましい挨拶を言つて下さい。ペテルスブルグはまだ空つぽです。一切のものが可なり悲しいのです。

同じ人に

一八四五年 十月八日

我が親愛なる兄上。

今は、あなたに私に關したことを御知らせするに必要な時間もありませんし、そう言ふ氣分にもなつて
るません。私は周囲を見まわすことが出来ない程、凡てのものが私には、醜く、暗いやうに思はれます。
私の尊い唯一の友よ、第一に、私には此頃一錢もないのです。非常に不愉快なことです。信用借りで暮
してゐます。第二に、私はいつも悲觀してゐるのです。それですから、失ふまいと思ひ乍ら勇氣を失ひ、
もう、自分で自分のことは構はず、愚かな平氣な風になつて了つたのです。でも——それよりも悪いこと
は——私は塀を越えて、あばれ廻り、不可能と思はれるまで怒り狂つたことです。今月の始めに、ネクラ
ソフは歸つて来て、彼の負債の一部を私に拂ひました。他の部分は、近い中にくれるとのこと。十五
日前に、ペリンスキイが文學社會ではどんな風に暮さなければならぬかと言ふことを私に教へたことを、
申し上げなければなりません。そして、私は、結論して、私の魂の救済の爲に、私は原稿一帖について、
少くとも紙幣二百ルウブルをとるのが當りまいと言ひました。斯う言ふ風にすれば、私のゴリアドキンは、
少くとも、千五百ルウブルの價があるかも知れません。ネクラソフは良心の苛責をうけて、私に一月十五
日までに、彼の買つた私の小説「貧しき人々」の爲に、百ルウブルやると約束して、誤ちを償ふと思つてゐ
るのです。彼は心を打ちあけて、貨幣百五十ルウブルは、相當の價ではないと白狀してゐます。そして、
後悔して、私に百ルウブルの追加をしました。凡てがうまく行きました。然し、悪いことには、「貧しき
人々」の檢閲のことを誰も噂してゐるものがないのです。彼らは長びかせてゐます。罪のない「貧しき人
々」を長びかしてゐるのです。私はいつ其が終るか解りません。さて、人々がそれを禁止するやうなこと

になつたら？ 始めつから終ひまで消して了つたら？ 其は眞に不幸なことになりませう。そして、ネク
ラソフは、「アルマナック」を公けにする時機はないと言つてゐます。彼はそれにもう四百ルウブル費用を
かけてゐるのです。

ヤコヴ・ペトロギツチ・ゴリアドキンは、常に自分の性格に忠實でありました。それは恐しい程の臆病も
のです。彼をどうしやうもありません。彼は進まうとはしないのです。そして、準備が出来てゐないと言
つてゐるのです。彼はあるがまゝに善良で、何にも非難すべき點はありません。然し、彼が何かに關はれ
ば、彼自身もそれに恐らく手をつけることが出来るでせう。それで、何故さうしないのでせう。何故、否
と言ふのでせう。何故と言つて、彼も他人と同じやうだからです。彼は何にも出来ない風をしてゐます。
然し、彼は他人と同様なのです。足が彼に何の役に立つか。彼は卑怯者です。恐しく卑怯者です。彼は十
一月の半ばまでに、仕事を終らうとは欲してゐません。彼はもう閣下と談じて、辭職しやうとしてゐます。
(何故さうしないのでせう。)彼の作者たる私を彼は非常に不愉快な状態に陥れてゐます。

私は屢々ペリンスキイに會ひに行きました。彼は私に對して非常に心を傾けてくれ、私をば、彼の意見
の公けの表示として見なして居ります。此頃、私はシエクスピアの翻譯なるクロネベルグと知合になり
ました。(彼はカルコフのクロネベルグ教授の息子です。)一般に、未來(最も近き未來)は、私に有利で、ま
た非常に暗いものとなるかも知れません。ペリンスキイは、ゴリアドキンを書き終るやうに私に烈しくす
ゝめめます。彼はその事を全文壇を通じて話してくれました。その上、其をクラエフスキイに賣らうとして
ゐます。そして、ペテルスブルグの市民の半分は、只、「貧しき人々」の噂さばかりしてゐます。グリゴロ

ギツチのみが、此金の價を衡つたと言ふべき人です。彼は、私に、「自分はあなたを拍手喝采した火夫だ。」と言ひました。

ネクラソフは仕事が好きで、それをしなければ生きて行くことは出来ないでせう。彼は生れつきさうです。そして、彼がこゝへ着くと其日に、夜私の所に来て、小さい定期刊行のアルマナツク(曆)を作る計畫をして、それに、凡ての文壇の人々が寄稿することにするやうにし、その重なる編輯者は、私とグリゴロギツチとネクラソフと言ふことになるでせう。ネクラソフが自分で全費用を背負ふのです。アルマナツクは、(印刷紙で)二帖の紙を含み、十五日目毎に一度、即ち、毎月七日と二十一日に出ることになります。其をズボスカル(嘲笑者)と名づけることになりました。それは、あらゆるものを嘲り、何人を問はず、凡べて笑ふと言ふことです。芝居、雑誌、社會、文學、雜事、展覽會、新聞、外國に起る出來事、一口に言へば、常に同じ精神、同じ傾向の一切のものを笑ふとするのです。十一月七日から創刊されるでせう。我々は、それを驚く程立派に作りしました。第一に、繪入れにします。標語としてはセズルナヤ・ブチエラ(北國の蜜蜂)文藝欄に掲げられたブルガリンの有名な言葉にしませう。「我々は眞理の爲に死ぬ覺悟をしてゐる。我々は眞理なくしては、すまることが出来ない。……そして、それはタツデ・ブルガリンと署名されるのです。十一月一日に出る廣告にも、亦、之を入れませう。初號は、論文はネクラソフです。一、サン・ベテルスブルグの醜惡。(いゝですか、之は丁度書き終へられたばかりです。)二、ウ、ジェエヌ・シユウの未來の小説。「重なる七つの罪惡」(全小説は三頁に渡ります)あらゆる批評の批評。ブウシユキンの詩の調和に就いてのシユギレフの講演。シユギレフがコリゼに行つて、ブウシユキンの詩の一節を、ついて來た二人

の婦人に朗讀して聞かせた所、コリゼにゐたあらゆる蝦蟇やあらゆる蜥蜴がそれを聞かうとして集つて來たと言ふ程大したものです。(シユギレフは、此講演をモスコウの大學でしました。)次に、スラヴ主義協會の最近の會の報告。この中には、彼が堂々として、アダムがスラヴ人でロシアに住んでゐたことを證明してゐる。そして、その中で又全ロシア國民の幸福と利益の爲に、此社會の大問題を確立することの重大なること及び有益なることを證明してゐる。次に、藝術批評に捧げられた欄では、ズボスカルは、全くクコルニツク繪入れ雑誌に劣らないことを證してゐる。此繪入れ雑誌はいつも、非常に印刷がなまけてゐることは誰でもよく知つてゐる。誤植、逆さ字は、少しも彼の念としない所だ。グリゴロギツチは、一週間の歴史をかき、それに若干の觀察をつけ加へる。私は、「一下僕の思出」を書く。御察しでもありませうが雑誌はカル、の「胡蝶」のやうな非常に面白いものとなりませう。それはいゝ仕事です。何故と言つて、収入を最も少いとしても、私の分として、月に百ルウブルか百五十ルウブルは恐らくとれるでせう。本はうれるでせう。ネクラソフはまたこれに詩を發表します。

さあ、おさらばです。その中に、私はもつと澤山書きませう。今は、仕事が山程あります。それにも拘らず、私はあなたに長い手紙を書いたのは御覽の通りです。あなたの方では、私が手紙をかゝなかつたら一行も書いてよこして下さらないでせう。あなたは訪問をあてにしてゐらつしやる。何と言ふ怠惰なこと

でせう。十月のオチエストゼンニヤ・ザビスキ誌に出たテヴラン(ジヨルジュ・サンド)を御讀みなさい。今の時代に、斯様なものは何にもありません。あれが人間のモデルです。

我友よ、さようなら。エミリー・フィオドロヴナに宜しく。彼女の手に接吻します、子供達は變りはありませんか。詳細報らせて下さい。

シルレルをお暇に譯すことをお続けなさい。發行をすることが實現される時に、絶対に人に言つてはいけません。私はあなたに何か翻譯を御頼みしやうと思ひます、でも、あの、オテチエストゼンニヤ・ザビスキ誌は、公けの三人の翻譯家をもつてゐます。恐らく、我々は何か一所にやることにしませう。のみならず、凡てのものは、手近に來てゐます。私が進めば、シルレルの芝居も進みませう、——私の言ふことはこれ丈です。

あなたの

ドストイェフスキイ

同じ人に

一八四五年 十一月十六日

親愛なる兄上、

私はあなたに大急ぎで書きます、何故と言つて、今私には暇が殆どありませんから。ゴリアドキンはまだ書き終りません。けれども、二十五日までに書き終はらねばなりません。あなたはするぶん長い間御返

事も下さいません。私は非常に不安になりました。もつと、しげ／＼と書いて下さい。あなたは、暇がないことを口實としてゐらつしやる。其は嘘です。書くのには、ほんの僅かの時間をとるばかりですから。眞盛りの年をして、あなたを駄目にしてふのは、田舎流の怠惰です。その外にはありません。

さて、兄上、私の名聲は、今日の有様よりも、高い度に達したことは決してないと思ひます。至る所、私は非常に大なる尊敬に出會ひます。好奇心は私に對して高まつてゐます。私は非常に立派な多くの紳士と近付きになりました。オドエフスキイ公爵は、私に訪問の光榮にあづかりたいと頼まれました。S……伯爵は、絶望して髪の毛をむしりました。パナイエフは、あらゆる人々に超越する大才が出現したと宣言した。S……はあらゆる人々の所を廻り歩いて、クラエフスキイの所に行つて、彼は突然斯う尋ねたのです。『此ドストイェフスキイと言ふ人はどんな人ですか。此ドストイェフスキイを何處で見ることが出來ませう。』誰にも奥歯に物がはさまつたやうなことを言はない遠慮なく常に物を言ふクラエフスキイは、ドストイェフスキイは、彼に訪問の光榮を與へませんと答へたものです。それは全く本當です。貴族が竹馬にのつて來て、私をその大なる恩恵で壓しつけて了はうと思つてゐるのです。人々は私を至る所、非凡の人として歓迎します。私が口を開くと、すぐに、人々はドストイェフスキイが斯う言つた、斯うしたと至る所で繰り返へさすにはおきません。ペリンスキイは、最もよく私を愛してゐます。詩人ツルゲネエフ（あなたはよく彼の噂をおき／＼になつてゐます。）最近パリイから歸つて來て、私に非常に愛着し、非常な友情を抱いてゐるので、ツルゲネエフは私に惚れこんで了つたとペリンスキイは言ひました。あゝ、兄上、何と言ふ人物でせう。もう少しで、私も彼に惚れこむ所でした。彼は眞の能才です。詩人で、貴族で、美

しく、金持で、惻怍で、教育があり、二十五歳です。——私は自然が彼に何物も與へないことはないと思ひました。それに、彼は、あらゆる試練にも正當の性格を有し、よき教養をうけ、愛想が全くいゝのです。オチチエストゼンニヤ・ザビスキの彼の短篇、「アンドレ・コロソフ」を御讀みなさい。彼は自分自身を公開しやうと思つてゐませんが、其は彼自身のことなんです。

私はまだ金の方では金持と言ふ譯には行きません。然し餘り困つてもゐません。最近に私は一錢の金もなくなりました。先日、面白いユウモアに富んだアルマナツクのスポスカル誌をネクラソフは作る考を思ひ浮べました。それに私は一つの報告を書きました。此の報告が非常な噂に上つてゐます。何故と言ふに、それは、斯様なものには、始めての軽やかさと機智の表現だつたからです。それは私に、クユシアン・ソユバンブレ(譯者曰、バルザックの小説「失はれた幻影」のなかの人物。)の始めの章を思ひ起させます。私の報告は、オチチエストゼンニヤ・ザビスキの「いろ／＼な報らせ」の中に印刷せられました。私はそれで貨幣二十ルウブル貰ひました。此頃、金がなかつたので、私はネクラソフの所へ行きました。私が彼の家にある間に、私には、九通の手紙の小説を書かうと言ふ考が浮びました。家へ歸つて、私は一晩で此小説を書きました。その長さは、約半帖です。朝、私はそれをネクラソフの所へ持つて行きました。そして紙幣百二十五ルウブル貰ひました。それで、私の書く一帖は、スポスカルで、二百五十ルウブルとなることになりました。夜、人々は私の小説を、ツルゲネエフの家の約二十人ばかりの我々の友達の會合で朗讀しました。すてきな印象を與へました。ズボスカルの第一號に其を發表しやうとしてゐます。私は十二月一日までに其本を御送り致しませう。ベリンスキは、完全に私が大丈夫になつたと言ひました。何故と言

つて、私は今迄と全く違つた風に、材料を取り扱つたからです。近頃、私には金のないことを聞きこんだクラエフスキは、どうか五百ルウブル借りて貰ひたいと嘆願して來ました。私は彼に一帳二百ルウブルで賣らうと思つてゐます。

私にはいろんな考へが浮んで來ます。よしんば、ツルゲネエフにでも其を話すことは出來ません。何故と言つて、翌日になれば、サン・ペテルスブルグのあらゆる所で、ドストイエフスキは斯々言ふものを書いてゐると解りますからさ。さて、兄上、私の成功の凡てをあなたに算へ立てるならば、紙がいくらあつても足りないでせう。私は金をとることが出来るだらうと思ひます。ゴリアドキンは素敵にうまく行つてゐます。それは私の傑作です。昨日、始めて、P……の家へ行きました。私は彼の妻にラヴをしたやうに思ひます。彼女は利巧で美しく、のみならず、非常に親切で、非常に明けつばなしです。私は非常に愉快に暮してゐます。我々のサアクルは可成大きなものです。でも、私は自分のことしか説きませんでした。許して下さい、兄上。私は全く光榮に酔つてゐることをあなたに打ち明けて申します。後便と共に、ズボスカルを御送り致します。ベリンスキは、私が此アルマナツクに論文を書いては、身を落すことになると言ひます。

さようなら。私はあなたに幸福を祈ります。あなたの御進級を御祝ひ致します。エミリー・フィオドロフナと赤坊の手に接吻致します。子供達は何をしてゐます。

あなたの

ドストイエフスキ

ペリニスキイは、出版業者から私の身を守つてくれます。私は此手紙を読み返してみましたが、第一に私がかう字法をうまく書かなかつたこと、第二に自慢やであることを見出しました。

我々のシルレル譯は慥かにうまく行きませう。ペリニスキイは、全集を發行するやうにすゝめてくれます。間もなく其は高く賣れると思ひます。例へはネクラソフにです。さようなら。

シイナだの、クラ、だの、アリアヌなど言ふ女は、全く綺麗です。だが、すてきな金がかゝります。最近、ツルゲネエフとペリニスキイとが、私の不秩序な生活を叱りました。是らの人々は如何して愛情を私に表すべきものか知らないのです。彼ら二人は全く私に惚れこんでゐるのです。私の負債は、常に同じ額になつてゐます。

同じ人に

一八四六年二月一日

我が親愛なる兄上、

始めに斷つておきますが、私の長い御無沙汰を悪く思つて下さいませぬ。誓つて暇がなかつたと申上げます。私はよく其を證明しておめにかかせませう。殊に私を抑へつけてゐたものは、最近まで、即ち二十日までかゝつて、私はゴリアドキンの悪い筋を書き終へたのです。それは恐しいことです。人間の豫期とは斯う言ふものです。私は其を八月に終らうと思ひました。そして、三月まで引かゝつて了ひました。私は今アルマナツクを御送り致します。「貧しき人々は」十五日に出版になりました。さあ、兄上如何に恐しい罵詈であらゆる方面から迎へられたことせう。イリマストラシオン(繪入雑誌)では、寧ろ中傷とも思はれる批評をよみました。セエルナヤ・プチエラでは、信すべからざるものがあつた。然し、私は、人々がゴオゴルを如何言ふ風に迎へたかを知つてゐます。私共はまた、人々がプウシユキンを如何に迎へたかを知つてゐます。公衆も亦恐しいものです。四分の三の讀者は、私を罵つてゐます。だが、四分の一(又、それより少いかもしれない)は、過度に賞めてゐます。争論は恐しい程です。(アルマナツクは非常な驚ろく賣行を呈してゐます。十五日で、一部もなくなる望みがあります)それは、ゴオゴルのやうな工合でした。人々は彼を罵り、罵つてはよみました。今は人々は彼と仲よくして、彼を賞めてゐます。私は彼等に咬むべき骨を與へたのです。彼らが騒ぐなら騒ぐがいゝ、此馬鹿者共は私の名聲を加へるばかりだ。セエルナヤ・プチエラはその批評で恥辱にまみれてゐる。それは恐しい程馬鹿々々しいことだ。然し、兄上、またどんなに賞讃をうけたでせう。我々のセルクル、殊にペリニスキイは私がゴオゴルさへも凌駕と思つてゐることを想像して下さい。

「讀書文庫」では、ニキテンコによつて批評をなされましたが、私のためになるやうな「貧しき人々」の詳

細な解剖がのつてゐました。三月に、ベリンスキイは評判を立てやうとしてゐます。オドエフスキイは、「貧しき人々」に就いて特別な論文を書きました。ソログブも亦私の味方です。兄上、私は大きな世界で威張つてゐます。約三ヶ月の中に、私は自分であつて、私はあなたは手柄話をしに行きませう。

我が公衆は、凡ての群衆と同じく本能を持つてゐますが、教養を持つては居りません、如何して斯様な文體をもち得るかと言ふことを理解することが出来ません。彼等は、凡てに作者の鼻面をみることを好んでゐます。然し、私は決して自分を示さうとはしません。話すのはデヴシユキン(譯者曰、「貧しき人々」の主人公で)私ではないこと、テヴシユキンは是より外に物語る事が出来ないと言ふことを、彼らは理解するやうにはなりません。人々はあの小説が廣がり延びすぎてると思つてゐます。然し、一語も餘計な言葉はありません。人々(ベリンスキイ其他)は私の獨創の下地が、分析を用ゐた所にあつて、綜合を用ゐない所であると認めてゐます。即ち、私がつと深みにつつこんでゐること、原子を調べながら、私か全體を探してゐると言ふのです。然るに、ゴオルは全體から出發してゐるので、こゝが私より深酷でない點だと言ふのです。あなたは讀んで、御解りになるでせう。私の未來は非常に赫々として居ります。今日ゴリアドキンは出ました。四日前には私は未だ書いて居りました。オテエストゼンニヤ・ザビスキの中にかゝけられて、十一帳のものとなるでせう。ゴリアドキンは、「貧しき人々」よりも十倍もいゝのです。我々の友達は、「死せる魂」以來、ロシアには斯様なものは何にもない、作品は全く天才に満ちて居ると言つてゐます。尙ほ、彼らはどんなことを言つたでせうか。彼らは私を斯様な望みを以て見てゐるのです。實際、ゴリアドキンは、私には成功したものです。それはあなたの非常に氣に入ることゝ全く思つて居ります。

御家にオテエストゼンニヤ・ザビスキは取つて居られますか。クラエフスキイが私に一部送つてくれるか如何か解りません。

さあ、兄上、御無沙汰して長くなります。此前何を話したか、もう覚えて居らない程です。それ程多くの水が橋の下に流れました。私共は間もなく會ひませう。私は絶対に夏をあなたと共に、御友達と共に過ませう。夏中、私はするぶん書きませう。私は考へがあります。今も私は書いて居ります。

ゴリアドキンは、正しく六百ルウブル受取りました。其上、我々が別れてから、三千ルウブル費つた程、私は尙澤山の金を受取りました。私はだらしがありません。それは本當です。私はもとの部屋を去つて、すてきな家具のついた二つの部屋を借りてゐます。私は非常に健康です。私の宛名は、グレベツキイ街及クズネチユニイ小路の角、ウラヂミル教會、クチン商人方、九番地です。どうぞ、後生だから、手紙を下さい。「貧しき人々」があなたの御氣に召したか如何か書いて下さい。エミリイ・フィオドロヴナに宜しく、子供に接吻して下さい。私はP……夫人に參つたのは悪くはありませんでした。……それは過ぎ去り始めてゐます。まだ私は何にも知りません。私の健康は非常に悪いのです。私は神経に病氣を持つてゐます。私は惱が神經の熱に冒されるのではないかと恐れてゐます。私は従順らしく生活することは出来ません。私は全く放蕩して居ります。此夏海水浴でもしなければ、非常に不幸になります。さようなら、どうぞ書いて下さい。亂筆御許し下さい。私は急いでゐます。あなたを接吻します。

あなたの

ドストイェフスキイ

さて、兄上、今迄、あなたに何にも御送りしなかつたことを、どうぞ許して下さい。私は此夏持つて行きます。さあ、さようなら、二時です。

私はあなた達皆に贈物をもつて行きます。

來年の夏は、此年の夏よりも、もつと愉快に送りませう。私は金銭上非常に金持ではありません。然し、常に、八百ルウブルが千ルウブルのあてはあります。それで夏だか十分でせう。

ギエラ(譯者曰、ドストイエフスキイの妹。)は結婚してゐます。御存知ですか。

同じ人に

一八四六年四月一日

親愛なる兄弟よ、

附屬品と一所に帽子と、一對の肩章を御送り致します。帽子の頸紐がついてゐません。それをつけると輸送中に帽子を傷けると言ひます。私はよく務を果したか如何か知りません。そうでなかつたとしてもそれは私の誤りではありません。何故と言ふに、私は全く斯う言ふことは、——少しも知らないのですから。我友よ。私は時代と一所に歩くことは出来ません。こゝに、第二の問題があります。あなたは如何してこんな遅いのだらうと御きゝになるでせう。けれども、親愛の人よ私は罪人のやうに働いてゐるのです。

それがどれ程あなたに不思議と思はれるにしても、あなたの務を見出す暇がなかつたのです。私の怠惰の爲に二便遅らして了つたのは事實です。私は罪人です。私を怒つては下さいませう。

さあ、續けて書きませう。私がこんなに久しく御無沙汰したのを、あなたは怒つて居られるに相違ありません。然し、私は、全く、ゴオゴルのポブリチンの意見と同じです。『手紙は嘘です。手紙を書くものは藥屋です。』あなたに何を書いたらいいでせう。若し、私の好きなまゝにあなたと話し始めなければならなかつたら、數冊の本を書かなければなりません。私の生涯には、常に多くの新奇、多くの變化、多くの印象、多くのよき有益のもの、多くの不愉快な有害のものがあります。そんなに考へる暇もありません。第一に、私は全く馮かれてゐるのです。私は深淵のやうな思想があつて、常に書きつゞけてゐます。私が薔薇の上に居るなぞと考へては下さいませう。それは嘘です。第一、私は澤山の金を費ひました。即ち、御別れしてから、正しく四千五百ルウブルを費ひました。そして、私は豫め、千ルウブルで私の家具を買つたのです。斯うして、あなたの御存知の私の性格となつてゐる状態で、私の金は全くなくなつて了ひ、私は一文なしになり始めました。……然し、それは何でもないことです。私の名聲は最高に達しました。二月月の中で、私の計算によると、いろんな出版物の中で、私のことを三十五度書き立てました。あるものは、私に賞讃を浴せ乍ら、私を雲の上に向け、あるものは、控へて居りました。第三には、人々は私に中傷を浴せかけました。是以上よく、是以上立派なことは何がありません。然し、私を苦しめる醜いことがあります。我々のサークルの中で、凡ての人々、凡ての友達、ベリンスキイもが、皆、私のゴリアドキンに不禮を並べました。第一印象は、無考へな喜び、談話、評判、議論でありましたが、次いで批評となりまし

た。さうすると、凡ての人々が一致しました。即ち、私の友達、讀書、皆が、ゴリアドキンに、非常に單調で、倦怠で、だら／＼して、其を讀むことは出来ないと言ひました。然し、最も滑稽なのは、それを引きのばしたのを見ての人々が嫌ひ乍ら、例外なく、一生懸命で讀み、また眞剣になつて再讀してゐることです。そして、私の一人の友達は、そればかりして、毎日、疲れないやうにと一章を讀み、面白くなつて唇を噛んでゐます。ある讀者は、これは到底駄目だ、こんなものを書いたり出版するのは馬鹿々々しいと叫び、他の者は、此は剽竊だ、摸倣だと言ひ、また他の者は、私の言ふのも恥ぢるやうな詩を作つて聞かせました。私はある時は、がっかりしました。私は恐しい缺點をもつてゐます。限らない自惚れと野心とです。他人の期待を裏切つたと言ふ考、重要な作物であるべきものを汚したと言ふ考は、私を殺さんばかりです。私はゴリアドキンを憎みました。大急ぎで書いた所や、氣分の厭な時に書いたものが澤山あります。第一章は第二部よりもいゝです。すばらしい文句と並んで、醜惡、不潔物があります。それは、心をそむけさせ、讀むのを厭がらせる。私の苦惱はこれです。私は悲みで病氣になりました。兄上、私は十五日の中に、ゴリアドキンを御送りします。それをよんで下さい。あなたの意見を書いて送つて下さい。

私は生活と勉強を捨てます。そして、あなたに、報導を御送りします。第一に、恐ろしい報導です。ベリンスキイは、オチエスト、エンニヤ、ザビスキを去ります。彼の健康は非常に害され、彼は、海か、或は外國へ行くことになりました。二年の中、批評をしないことになりました。然し、その經濟を維持せんが爲に、厚い大きなアルマナツクを公けにします。(印刷で六十帳。)私は彼の爲めに二つの短篇を書きます。第一、「剃られた頬髻」。第二、「禁止された裁判所の話」。二つとも悲劇的で、ほろ／＼する興味のあるもので

す。出来る丈簡潔に、書くことにしませう。讀書は、私の作物を待ちこがれてゐます。此二つの短篇はあまり大したものではありません。……他に、クラエフスキイに何か、またネクラソフに小説。すつかりで一年かゝります。私は今「剃られた頬髻」を終りかけてゐます。

第二に、澤山の新進作家が現はれました。あるものは、私のライグルです。その中でも、殊にヘルツェン(イスカデル)とゴチャロフを注意しなければなりません。前者は既に小説を出してゐます。後者は始めたばかりで、何處にも發表して居りません。人々は彼等のことを非常に噂して居ります。一寸、優越權は私に屬してゐます。私はいつも斯う言ふ風でありたいと望みます。一般に、文學は、今よりも、澤山生れたことはありません。結構なことです。

第三に、私は、あなたの所に、すぐに行くか、餘程過ぎて行くか、或は、全然行かないことになるかも知れません。私には負債があります。金はありません。(金がなくては、世界の何處へも行くことは出来ません。)それから第三に、私は仕事に追はれてゐます。未來があなたにそれを語りませう。

第四に、シドロフスキイは、生きて行くあてがつかしました。彼の兄弟が私に會ひに來ました。私は彼と一致して始めやうとしてゐます。

第五に、兄上、あなたが、文學で何かを得やうとなさるならば、こゝに成功する機會はあります。只一つの翻譯でも効果を與へる機會はあります。それで、ゲエテの「ライネツケ・フウハ」を翻譯して下さい。人が、あなたに其を翻譯して貰ひたいと私に頼みました。それはネクラソフのアルマナツクに必要なものです。御思召があるならやつて下さい。急いで下さい。そして、五月十五日か、六月一日かに、私が行かな

かつたら出来たなら送つて下さい。凡ての人々は、夏の爲め、何處かへ行きます。けれども、もし出来るなら、私はあなたの爲、其を何處かへのせ、金を持つて行きませう。金は必ず手に這入ります。ネクラソフは編輯人です。それを買ひませう。ペリンスキイも、ラトコフも、買ひませう。クラエフスキイは全く私の自由です。此仕事は利益があります。我々のサークルでは、此の翻譯のことを話してゐます。そうですから、思召があるなら、始めて下さい。私の頭では、その成功を保証します。あなたが約三章を翻譯なすつたら、送つて下さい。私はこれらの人々に其を見せ、前借で金を貰ふやうになりませう。

私は今迄、今日よりも活動に富んだことはありません。凡てのものが沸騰し、凡てのものが過ぎ去つて了ひます。……でも、それが如何なるでせう。我友よ、おさらばです。ギエラは三ヶ月前に結婚しました。彼女は幸福だとのことです。伯父は彼女に、ヅリア(譯者曰、ギエラと同じくドスイエフスキイの妹。)と同じ丈與へました。伯父に手紙をやつて下さい。彼女はイヴノフに嫁したのです。彼は三十歳です。何處かの化學の先生です。ギエラは私に手紙を送つてよこしました。あなたにも手紙を送つたと申してゐました。

親愛の人よ、さうなら。私はあなた達、皆に接吻し、澤山の幸福を祈ります。エミリイ・フィオドロヴナの兩手に接吻し、また、子供達をも抱きます。どう御暮しですか。あなたのことを話して下さい。あゝ、我友よ、あなたは會ひたくて堪りません。だが、如何しやもないのです。

すつかりあなたのもの

エフ・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八四六年五年十六日

親愛なる兄上、

あなたに、此御言付をもつて行く婦人が、あなたの所に行きます。どうぞ、彼女達をよく待遇して下さい。そして、出来るならば、晚餐に御招待なさるのも悪くはありません。——ペリンスキイ夫人と彼女の非常に面白い妹とです。彼女達はまた私に、エミリイ・フィオドロヴナに紹介してくれるやうに頼みました。出来る丈、彼女にかゝはりあつて、女の利己主義を満たしてやつて下さい。いゝですか、出来る丈、文學のことは話さないで下さい。だが、あなたは、斯う言ふことは、私よりもよく御存知です。彼女達が宿らなければならぬ所、彼女達のなすべきことを御相談下さい。……私は彼女の爲に、ルエカに居るか、ハブサルに行くか、どうするのがいゝか解りませぬ。

私は全くどうなるか解りませんが、自分のことを御話し致しませう。私は一コベツクも持ち合せがありません。私は何處から金を得ることが出来るかも知りませぬ。サン・ペテルスブルグの借金を返すのに、五百ルウブルなくては、此處を動くことは出来ませぬ。従つて、あなたは御自分で判断下さることでせう。我々が會ふことが出来ない、私が行くことが出来ないと言ふことは、あり得ることです。他のことよりも、

もつとあり得ることです。私はこゝにゐるて悲觀してゐます。私は氣分が悪いです。私は書いてゐます。そして、仕事の終る時が見られないのです。エミリー・フィオドロヴナに宜しく。私は彼女にベリンスキイの夫人達を御紹介致します。そして、彼女の寛容と親切を期待することが出来るのを望んでゐます。フェヂャとマアシヤ(譯者曰、ドストイエフスキイの兄の子の名。)も、自分から親切を表はし、その智慧のある範圍で、意見を打ちあけて吐露するがいと思ひます。さて、おさらばです。兄上、私には暇がありません。實際、私は今迄斯様な苦しい時を通つたことがありません。倦怠、悲哀、沮喪、そして、何かいゝものはないかと熱して癡癡せる期待は、私を苛責します。そして、まだ、私は病氣なのです。凡てのものが消え失せて了ふなら、悪魔でもやつてこい。

あなたの

ドストイエフスキイ

同じ人に

一八四六年九月八日

親愛なる兄上、私がやつとの思ひで、サン・ペテルスブルグに到着したこと、望み通り、トルトフスキイの家に宿つたことを、急いで御報らせ致します。私は動搖を感じませんでした。然し、旅をして、此處、

サン・ペテルスブルグに着くまでも、骨の髄まで濡れました。そして、風邪にかかりました。熱が出て頭痛がします。それがするぶんひどいのです。始めは大變悲觀しました。私は宿を求めに行きました。そして、一箇月十四ルウブルで、女中のついたい家具のある二つの小さい部屋をもう借りました。然し、まだ移轉はしません。私の宛名は、コシエンドルフ家、二十五番、カザン大寺院前です。此宛名で至急書いてよこして下さい。でも、あなたの手紙が大變讀みたいのですもの。私は非常に悲しく感じてゐます。

ベリンスキイ家では、無事につきましました。私が歸つてからまだ會ひません。その翌日、ネクラソフの家へ行きました。彼はバナイエフ家と共に住んでゐます。私はみんなに會ひました。「アルマナック」はうまく行つてゐます。大急ぎでしなければなりません。雑誌のことは、聞かうとは思ひませんでしたから、知りません。矢張り、うまく行つてゐるに違ひありません。また、こゝに一つの報らせがあります。ネクラソフの住所を知らうとして私はプロコポヰツチの家へ行きました。彼は、ネクラソフガルゼルに行つた目的を知らせてくれました。——その目的は、ある理由から秘密を保たなければならぬので、プロコポヰツチに仰つてもいけません。此男はある報知から察したのです。彼はアサルスキイに會ひに来て、シン・オテチエストヴ(祖國の子)誌を買はうとしました。その事件は、うまく運んだやうに思はれます。新年までに、私達は、新しい雑誌を持つことになるでせう。

私はあなたにゴオゴルのことは何も言ひません。然し、私は只一つの事實をあけます。來年のソヴレメンニク(現代人)誌に於て、ゴオゴルの論文が印刷されるでせう。——彼の遺言で、その中に、彼は自分の全作物を否定し、その無益だつたことを認め、尙、それ以上のことを言つてゐるのです。彼は、一生涯筆

を取つたことがない、何故と言ふに、彼の一生の目的は、祈りであつたからと言つてゐるのです。彼は自分の敵と全部意見を同じうしてゐます。彼は、自分の肖像を印刷して澤山の本にし、ジェルサレムを訪ねて行かうと欲する巡禮者を助ける爲に、その賣上げた金を用ゐやうと言ふ命令を出しました。まあ、斯うです。あなた御自身で判断して下さい。

私はヌクラエフスキイの所に行きました。彼はプロハルチン(譯者曰、ドストイェフスキイの短篇)を印刷してゐます。それは十月に出るのです。私は金のことは話しませんでした。然し、彼は非常に親切で、さつぱりしてゐます。私は外の誰の所にも行きません。ヤチコフは事務所をこしらへ、看板を立てました。外では非常に雨が降つてゐます。そして、外出すること困難です。私はまだトルトフスキイの所に居ります。然し、明日は自分の家に落ち着きます。あなたのマントのことは、斯う言ふごたくさと雨の爲に、取り扱ふことは出来ませんでした。私は出来る丈、最もつましく暮さうと思つて居ります。あなたも御同様に願ひます。少く物を始めねばなりません。我々は生活し會ひませう。今は、お別れです。私は忙しいで居ります。私はあなたに澤山のことを書かうと思つて居りました。然し、そんなことは、話さない方が却つていいのです。書いて下さい。私は、出来る丈早く御返事をあてにしてゐます。エミリイ・フィオドロヴナに宜しく。私の知つてゐる人々に皆宜しく。後便では、もつと書きます。これは只通告にすぎません。さようなら。あなたのあらゆる幸運を祈ります。尊き我が友よ。そして、殊に、暫くの間は忍耐と健康が大切です。

あなたの弟

エフ・ドストイェフスキイ

同じ人に

一八四六年九月十七日

我が親愛なる兄上、

私はあなたにマントを御送り致します。遅れて申譯がありません。私が悪るいものではありません。私は下僕を探さなければなりません。遂々見つけました。彼がゐなくては、私は何にも買ふことが出来ません。マントにはいゝ所と悪い所とがあります。いゝ所は、非常に大きく、殆ど二重になつてゐる所にあるのです。色もいゝのです。制服の鼠色です。悪い所は、羅紗が紙幣八ルウブルしかなくつたことです。それ以上のものはありません。それですからそれは紙幣八十二ルウブルの値段にしかありません。外の値は送料です。如何しやうもありません。十二ルウブルの羅紗がありました。はつきりした鐵色で、非常に派手で、あなたの御氣にいらないう。でも、此マントがあなたの御氣に入りはしまいと非常に恐れてゐます。それは少し長いのです。

マントの爲に、私は書くのが遅れました。私が部屋を借りたことを、あなたに既に御報らせしました。私は病氣ではありませんが、未來の爲に、何にも持つては居りません。クラエフスキイは、私に貨幣五十

ルウブルをくれました。そして、彼の顔色で、たやすく、もう是以上はくれないことを判断しました。私は非常な不幸となるでせう。

プロハルチンは、ある文句が、恐ろしく醜化されました。その筋の人々が、チノヅニツク(譯者曰、官史と言ふ意。)と言ふ語を禁止しました。そして、全く、如何言ふ譯でせうか。凡てが無邪氣以上のものではないのに、彼らは至る所抹殺しました。凡ての生命は失はれました。私にあなたに朗讀してあげたもの、骸骨しか残つては居りません。私は此短篇を否定します。

こちらでは、何にも新しいものは聞かれませんが、凡てのものは、普通の通りです。人々はベリンスキイを待つて居ります。ベリンスキイ夫人があなたに宜しくとのことです。凡ての計畫は空中にあるやうに見えます。それとも、恐らくは秘密にされて居るのでせう。馬鹿々々しい。

私は割り前を出して會で夜食をして居ります。ベクトフは六人の同志を集めました。その中には、私もグリゴロギツチも入ります。各人、毎日、十五コベツクを出します。そして、我々は、晚餐にはきれいにこしらへた二皿の御馳走を食べます。それで我々は満足して居ります。それですから、夜食は、毎月、十六ルウブル以上はかゝりません。

私はあなたに大急ぎで書いて居ります。でも私は遅くなつて了つて、下僕が郵便局に持つて行く爲に、小包をもつて待つて居るので。齒を病んでゐらつしやるあなたより、私はもつと悲觀して居ります。私はマントがあなたの所に遅れて届きはしまいかと非常に恐れて居ります。如何することも出来ません。私は出来る丈のこはしたのです。

私は、常に、「剃られた頬髯」を書いて居ります。それは進みが遅いのです。私は遅くなりはしまいかと恐れて居ります。私は二人の人、一人はベクトフで、もう一人はグリゴロギツチですが、此二人から、田舎では、ベテルブルグスキイ・スバルニク誌を、只、「貧しき人々」と言ふ名で呼んでゐると聞きました。大した値段で其を買つた人々の所では、人が奪ひ會つたり、お互ひに買ひあつたりしてゐることですが、そんなことは私には少しも面白くありません。例へば、バンザとキエフの本屋では、公けの値段は、紙幣二十五ルウブルか、三十ルウブルです。何と言ふ不思議なこととせう。こゝでは、停滞してゐるのに、あちらでは見つけることも出来ないとは。

グリゴロギツチは、すてきな短篇を書きました。我々が處置を講じて、私や、マイコフや(彼は人の噂ですが、一月一日には、私に就いて大論文を書かうとしてゐるのです。)の御影で、此短篇は、全く乾燥無味になつたやうであるが、オテチエストエンニヤ・ザビスキに發表されるでせう。彼らは短篇を一つも豫備として取つておかぬのです。

こゝでは、人々は恐ろしく悲觀して居ります。こゝでは人は働いては居りません。あなたの家にゐると樂園にゐるやうな感じがします。私の氣分のいゝ時は、私の性格で物事を悪化して了ふことは慥かです。エミリー・フォドロヅナに、楽しく時を過し、殊に達者で居られることを祈ります。私は眞心から其を望みます。さて、兄上、金と保證された未來は、全くいゝことです。私は甥達を接吻します。さらば、お別れです。私は此次ぎもつとよく書きませう。そして、今度文は、御怒りにならないやうに願ひます。御達者に、そして、餘り澤山肉を御食べなさいませう。

私の住所。

ユシエンドルフ、二十五番、メチャンスカヤ大通りと廣場の角、カザン大寺院側。さようなら。

あなたの弟

エフ・ドストイェフスキイ

どうぞ、出来る丈、衛生的なものを御食べなさい。葷や芥子や、斯様な恐いものは少しでも御止めなさい。どうぞ後生ですから。

同じ人に

一八四六年十月七日

親愛なる兄上、

取り急ぎ、あなたの御手紙に返事を書き、同時に、あなたの御手紙を受取らないでも、あなたに御報らせしやうと思つてゐたことを書きます。

最近、私が外國へ行かうとする意志があることをあなたに書きました。本屋は、凡てに對して、私に紙幣四千ルウブル提供してくれまます。ネクラソフは、貨幣千五百ルウブルを出すと申してくれました。然し、彼は金を持つてゐないらしいのです。私はそんな事は止めるでせう。値段が、餘り安く思はれたなら、(私

の費用に従つて。)私は承諾しますまい。そして、私は自分自身で、恐らくは九月十五日頃、本を出さうと思ひます。それはいいのです。何故と言ふにそれは、私の眼前に行はれるのですから。まあ、その發行は見つともなくはないでせう。私は利益を見出すことが出来ませう。恐らく、それから四千ルウブルは引き出すことが出来るかも知れません。本屋も同じ丈くれますが、私は本の中に、凡てのものは入れないでせう。ですから、少し足りなかつたら、イタリヤから歸る時、第二冊の本を出し、着くと金を得られるでせう。

私は楽しむ爲に行くのではなく、身體を養ひに行くのです。ペテルスブルグは、私に取つて地獄です。こゝで、生活することは何と言ふ苦しい辛いこととせう。私の健康は益々悪くなつてゆきます。のみならず、私は非常にびつくりするやうになりました。十月は私に何と言ふ譯でせう。今迄、毎日天氣がよかつたのです。私はあなたの手紙を待ちこがれてゐます。何故と言つて、私は、このことをあなたは如何思ひになるか知りたのですから。今、あなたに言はうと思ふことは斯うです。兄上、遅くとも、十二月一日まで、私を助けに来て下さい。何故と言つて、十二月一日までに、何處で金を取らうか少しも解りませんからです。即ち、私は金を見つけることは出来ませう。クラエフスキイは喜んで提供してくれます。けれども、私は彼から既に百ルウブル取つたのです。私は今は其を避けてゐます。何故と言つて、五十ルウブル毎に、印刷紙で一帖書かねばなりませんから。そして、私は、イタリヤに行く時は、暇になつて、全く自由になつて、自分の爲に小説を書きたいと思つてゐるのです。そして、私は自分の値段をきめることの出来るやうになりたいと思ひます。何故と言つて、クラエフスキイが、凡てのものにしてくれる負債を

借りると言ふ方法は、私の奴隷状態で、文學的の服従の方法だからです。こんなやうだから、出来るならば、私に手段を講じて下さい。外國へ行つて、百ルウブルあなたに御返へしすると言ふことを、既に申し上げました。でも、出来るならば、私に尙、貨幣五十ルウブル送つて下さい。私はそれも御返しませう。凡ては一月一日までにさうませう。考へてみて下さい。そして、あなたが一月一日までに御貸し下さることが出来たなら、そうして下さい。あなたは、岩石のやうに私を信頼していいのです。私は御返しします。あなたが御考へになるに都合のいいやうに、斯うすつかり書くのです。

此金は、私にはマントを買ふのに必要なのです。私が、文學的解放の方法を如何に取るにしても、着物を作る事が出来ないのです。そして、それが(着物のこと)もう着られなくなりました。でも、マントは必要です。私はそれに(襟をつけて)、百二十ルウブルをかけるのです。そして、他の金で、どうにか斯うにか、出版する時まで暮してゆきませう。そう言ふ處置をとるやうに申し出したのは、クラエフスキイ其人です。彼の紹介で出版するのは、ラトコフと、イフチンニコフです。私はもう彼らと話をしました。私の原稿に、四千ルウブルの金を申し込んだのも、彼らです。

一月一日に、私は尙何か短いものを、クラエフスキイに書かうと思つて居ります。それから、私は逃げてゆきませう。イタリアに行く爲に、いろいろな負債を拂はなければなりません。(あなたにも)凡て、紙幣千六百ルウブルの負債です。そこで、やつと紙幣二千四百ルウブル残ります。私はすつかり調べました。旅行に(多くて)五百ルウブルかゝります。キンナで、三百ルウブルで、シャツ、着物を買ひます。そこは安いのです。それで八百ルウブルになります。それで、尙、千六百ルウブル残つてゐます。私はあそこで

八ヶ月暮します。私は、ソヴレメンニクに小説の第一部を送ります。私は千二百ルウブル得られます。そして、ロオマから巴里へ行つて、二ヶ月過し、そして歸つて來ます。私が歸るや否や、第二部を發表します。小説は、一八四八年の秋から書き始めます。それを三四冊にして公けにさせう。第一部は、プロログの形式で、ソヴレメンニクに發表します。私は頭の中に、その筋と考を抱いてゐます。今は、私は、健康を非常に心配してゐます。私が始めて病氣にかゝつた時のやうに、心臓が恐ろしく鼓動するのです。ネクラソフとバナイエフは、一月一日から、ソヴレメンニク誌を出します。批評をするのは、ペリンスキイです。彼は澤山の雑誌を基としてゐます。それは慥かです。私は、健康を維持する爲、また健全な何物かを書く爲にそれをしないやうにします。ネクラソフの商賣は失敗しました。然し、ヤジコフ商會は繁昌して居ります。本屋の委託販賣をしてゐます。私は既に、彼がうまく形をつける爲に、本を渡さうと話しました。

皆に宜しく、殊にエミリイ・フィオドロヴナに。子供達も亦宜しく。そして、私はあなたが第一便で御返事下さることを御願ひします。あなたの手紙を待つてゐます。大急ぎで書いて下さい。もし御金が御送り下さることが出来なければ、せめて、さう仰つて下さい。私が外を探ることが出来るやうに、持たないと仰つて下さい。(私は決して怒りはしませんから。)

あなたのもの

エフ・ドストイェフスキイ

私は今餘りしけく〜と手紙を書いてゐます。

兄上、我々は長らく御會ひ致しません。然し、私が外國から歸るや否や、歸途に、あなたが何處に御出でにならうとも、直直ぐに、御目にかゝりに行きませう。

十月二十日頃、私は、仕事を大部分終りませう。即ち、「剃られた頼髻」です。私の境遇はもうあらまじ定まりました。何故と言つて、十月十五日から、「貧しき人々」の出版が始まりますから。

同じ人に

一八四六年十月十七日

我が親愛なる兄上、大急ぎで、あなたからの金を受取つた事を御報らせ致します。私は無限な感謝を捧げます。何故と言ふに、私は最早風邪にも冒されてゐないし、外の不愉快もありません。私はまた大急ぎで、私の希望、私の計畫が、今より以上のうまい時機に到來するだらうと言ふことを申し上げます。それでも、少くとも、私は極僅かのことしか知らないのです。人々は私が承知することの出來ないやうな申込みをします。非常の僅かの金か、或は、適宜な金ですが、一時にはないのです。そして待つてゐなければならぬのです。いゝですが、賣らなければならぬなら、現金でなければいけません。さて、人々は、私に待つてくれるやうに言ひます。それは、善し悪しです。私の健康の爲には悪いのです。もし、待つてゐれば、大した金を受取れる點ではいゝのです。どつちにしても、クリスマスまでに發行することは不可

能です。何故と言つて、生きていける丈のものではなくてなりません。それで、雜誌に短篇を賣らなければなりませんから。それで、待つてゐなければなりません。それで、發行は、五月一日頃にしか出來ません。のみならず、凡てを整理し二冊の厚い本を出す骨折りをしなければなりません。私が察したやうに、ニルウブル五十コベックではなく、三ルウブルかそれ以上で出すのです。斯様ですから、我々はもう一度夏にお會ひすることが出來、私の外國旅行は、十分の金が出來たら、秋にしか實行出來ないでせう。

こんなことは、私の頭がむしやくする程私を非常に苦しめました。仕事を形づけるには、どれ程、いゝんな苦痛や悲觀を忍ばなければならぬでせう。まあ、健康をうちやりばなしにしてはなければなりません。ほんとうに、何日になつたら、未來を確保することが出來るでせう。私はあなたに、ほんの一寸手紙を書きます。何故と言つて、まだ何にも定まつて居りませんから。のみならず、私は全く勇氣を失つて居るのです。あなたは御丈夫ですか。あなたは御客様をもつと待つてゐると仰る。ほんとうに、凡べてうまく行くといゝのです。あなたの仕事と、私の仕事の片がついたなら！兄上、私は、自分の目的を追究することを止めは致しません。我々の結合は實現することが出來ます。私は常に夢想をして居ります。兄上、私にとつて、純然たる成功が必要です。そうでなければ、なすべきことは何にもありません。私は苦しく生活してゐるのです。凡て此れは私に關係してゐるのではなく、私の力に關係してゐるのです。

「剃られた頼髻」は、全く終りません。人々は大變、プロハルチンを罵つてゐます。人々は私に大變、いゝ評判をします。ペリンスキイはまだ到着しません。ソヴレメンニク誌の斯う言ふ人々は、神祕です。それで、私は「剃られた頼髻」には餘り重きをおきませんし、また、何にも約束もしませんでした。私はそれ

をクラエフスキの所に持つて行きませう。のみならず、私は如何して私の片をつけていゝか解りません。私は境遇を利用しやうとします。そして、最も多く與へる人に、私の短篇に就いて、それを任せることにします。私は適當な金を取りませう。全く儲かです。然し、もし、前借で適當な金を貰へるやうにして、自分で發行するやうになれば、私は雜誌には其をのせません。

弟のアンドレはあなたに宜しくとのこと。ペリンスキイ家でもあなたとエミリー・フィオドロヴナに宜しく。私はあの人達に會ひました。あの人達は危険の中に飛び込んでゐます。私は子供達を接吻します。子供達のは屢々考へて居ります。私がうまく短篇を賣つたなら、子供達に、乾度、クリスマスにボンボンとうまいものを送ります。エミリー・フィオドロヴナに私の尊敬を捧げてゐることを申上げて下さい。兄上よ、忍耐して下さい。恐らく、我々は金持となりませう。働かねばなりません。どうぞ、御身體を大切にして下さい。私は餘り働きすぎないやうに、御忠告を申上げ、御願ひするのでしたのに、馬鹿なことを言ひました。氣をつけて下さい。よく自重して下さい。殊に、最も健康的な食物を取つて下さい。珈琲や肉を少くして。それは、毒です。さようなら、兄上。私は間もなく書きませう。暗くなりました。

エフ・ドストイェフスキ

十月は一ヶ月間、乾燥して、朗らかで、寒うございました。病氣は少い方でした。私を忘れないで下さい。書いて下さい。ラインハルト其他の人々に宜しく。

同じ人に

一八四六年(?)

親愛なる兄上、

私は只二言だけあなたに書かうと思ひます。それ以上は書きません。何故と言ふに、私は氷の下の魚のやうに、苦しんだり、もがいたりしてゐますから。私のあらゆる計畫は、打ち破られ、一つづゝこわされて行きます。何故と言つて、私があなたに御話した短篇は、一つも完結しません。「剃られた頬髭」も、もう書きません。私は凡てを捨てました。何故と言つて、凡ては、私の昔から言つてゐる元の物の焼き直しに過ぎませんから。もつと獨創的な、もつと生き／＼とした、もつと明確な考が、今は紙の上に浮んで來まし。私が「剃られた頬髭」を書き終へるとき、凡てこれらのものが心に浮んで來ました。私のやうな境遇にあつては、同じやうなことを書くのは——失はれることです。

私は他の短篇を書きます。そして、その著作は、「貧しき人々」の昔のやうに、——新鮮で、すら／＼と、成功を以て、運ばれてゐます。私はそれをクラエフスキの所にやることに決めました。ソヴレメンニクの人々が感情を害したとて何でもありません。けれども、一月頃、此短篇を書き終へた後に、私は來年まで發表することを止めます。そして、今私を悩ましてゐる小説を書きませう。

然し、生活をする爲に、私は、「貧しき人々」と「二重人格」とを分冊で發行することに決しました。私は例へば第一篇、第二篇とするものではありません。只、「貧しき人々」を別に出し、「二重人格」も亦別に出すのです。——凡て私の一年間の仕事です。それから、恐らく、二年かもつと早く、全集を出させよう。そして、澤山儲けることにさせよう。何故と言つて、私は二度金をとり、自分の名は知られることになりませんから。

「貧しき人々」は明日か明後日にも印刷に附せられることになりませう。私はラトコフの手で其をさせよう。彼は私にしてくれると約束したのです。今は、私は運命を咄つてゐます。私の金で發行するには、紙幣七百ルウブル足りないのです。彼の金ですることは、それつきりです。他人の費用ですれば——それは危険で、凡てを失ふかも知れません。發行人はするのですから。彼らは私の知らない人を欺く所の澤山の狡計を有して居ります。然し、最も恐ろしいことは次のやうなことです。發行者は自分の費用で印刷し、三百五十乃至四百部を自分のものとする。(それは彼の前金の値です。)コムミツションとして、彼は四割をとる。即ち、私が一ルウブルでうるなら、一部に就いて四十コベックです。それは、彼の資本の利益及び擔保としてです。彼が今三百部もつてゐると假定して御覽なさい。彼は賣らうとしてゐます。私には、彼がすつかり賣りつくすまでは、一部も賣る権利はありません。何故と言つて、私は彼に悪いことをするやうになりますから。彼はすつかり賣ります。そして、私の所へ來て、公衆はもう注文して來ません、これはうまく行きませんと言ひます。調らべることは不可能です。それは彼と喧嘩をすることになります。きり／＼決着の時は、そうすることは出来ません。本は、私の所に残つて居ります。私は金が入ります。

彼は私にもうこれつきりと言ふ程踏み倒した後に、即ち、約二百部を半値で買ひます。田舎の注文にも、サン・ペテルスブルグの公衆の注文にも應じないと言ふ斯んな不良の徒がゐます。それだから斯うです。私は自分で發行すること、同時に、サン・ペテルスブルグのあらゆる本屋に現金で賣ること。人は適當なコムミツションを得ます。もし本が成功すれば、我れがちにと、皆、より以上のものをくれます。——それから、重なる委託物のおかれるのは、ヤジコフの事務所です。

兄上、いゝですか。私はあなたの至急な御返事をききたいのです。私が申出ることとは是です。もし、あなたが、貨幣二百ルウブルの金をおもちなら、(それ以上必要かも知れませんが、幾分か義務として残しておくべきものですから。)あなたは投機をなさいませんか。あなたが其を貯へておかれるならば、それは、何の役にも立ちません。然し、私は、私の發行の費用として私に此金をくれて下さいと申し上げるのです。十一月の十五日までに印刷することは出来ませう。發行した本の金は、一月一日前に拂はれませう。それで、直ちに二百ルウブルの金はあなたに御返し出来ませう。それから、あなたの利益として、四分の一を受取りなされるのです。發行の費用は三百五十部賣ればいゝのです。(すつかりで千二百部です。)それでまだ八百五十部あります。一部貨幣七十五コベックですから、——紙幣六百三十五ルウブル。私は同じ利益を本屋にやります。私の金はなくなりませぬ。それで、成功が解れば、「二重人格」を發行させよう。どんなにしても、あなたの金は、一月にあなたの許に歸ります。私はあなたを嘘の中に巻き入れるやうなことはない。正直の人間として御約束します。そして、私は成功を豫期してゐます。恐らく其は來ることが長かゝるかも知れませぬ。全部の發行は、一年にも渡りませう。こゝに一例があります。オスノギアネンス

の「パン・カリアフスキ」が、三年前、オテチエストエンニヤザビスキに發表されました。それは自費で印刷されました。今はその三版を發行しやうとしてゐます。

兄上、あなたがいゝとお思ひなら、直ちに御返事を下さい。金を送つて下さい。此間に、私はあるものを調べ、檢閲に附しに行き、活版屋と條件を定めませう。あなたが金を送らうと思召すなら、そして、それ丈のものを御持ちでなかつたなら、せめて、始めに、手付金とて、百二十ルウブル送つて下さい。それから、間違ひなく、十一月十五日までに、残りの八十ルウブルを送つて下さい。

それから、あなたが全くさうなることが出来なければ、せめて間に合ふやうに、言つてよこして下さい。私は本屋にかけ合つて、次ぎに「二重人格」を發行することにしませう。

斯う言ふ仕事では、兄弟の愛とか、遠慮とかは預かりにして下さい。仕事を投機として考へて下さい。それは永久ではないとしても、私の爲めよかれと御考へになつて、あなたは過ちを犯しなすつてはいけません。あなたはまた子供を持たうとしてゐらつしやるのです。さようなら。皆を接吻して下さい。心の正しい人に宜しく。私は身體がよくありません。でもあなたは知つてゐらつしやるのです。

あなたの

ドストイェフスキ

親しき兄上、さようなら。至急御返事を待つてゐます。偽りの状態に身をおかれないことを御願ひします。例へば、あなたがこれつきりと言ふ金を御出しになるやうなことです。そんな時はなさらない方がいゝのです。私は只、之を申し出したに過ぎません。でも、あなたが金持であつたら、あなたの御氣にあつ

たら、例へば今月二日か三日頃の第一便で御送り下さい。

さあ、いゝですか。私はあなたにすつかり書きました。私は最後にあなたに言ひます。もし、金をおもちなら、何にも恐れないで下さい。賛成して下さい。もし、御もちでなかつたら、少しゝか御持ちでなかつたら、加はらないで下さい。直ちに御返事を下さい。

エミリオ・フィオドロヴァに宜しく。あなた達の御幸福を祈ります。ゴオゴルは、二ヶ月前、フロレンスで死にました。

同じ人に

一八四六年十一月二十六日

わが最愛の友よ、あなたが金を御送りなさらなかつたから怒つてゐるとか、それが私の無沙汰の原因であるとか、如何してそんなことを御書きになるのですか。こんな考があなたの頭に宿るのですかしら。さて、私を斯様に判断なさる機会を、私は何で與へたのですか。我々共の間では、凡ては正直で單純であるやうにして下さい。私は幾度となくあなたの御世話になつたことを、全く心からあなたに申し上げます。そして、それを認めないのは、私の卑怯な心からです。然し、斯う言ふ丈で澤山です。あなたに私の状態を御話し私についてはつきりした報らせを申上げた方がいゝのです。

第一に、私の發行はうまく行きませんでした。それは苦勞に償ひませんでした。早過ぎたのです。公衆がそんなことをなさしめないのかも知れません。私は來月の秋まで、此發行を延ばしませう。其時になれば、公衆は私を知つて、私の状態はもつとはつきりしてくるでせう。のみならず、私はある前借をするあてがあります。「二重人格」は既にモスコウの一美術家によつて、繪入れにされました。「貧しき人々」は二人の人に繪入れこされます。誰がよくするでせう。ベルナルドスキイは、二月になつたら、喜んで私の話にのりませう。私の繪入れ本の出版権の爲に、あるをやりませうと言ひました。今は、彼は「死せる魂」にかゝつてゐるのです。一口に言へば、發行のことはもう氣のりがしません。のみならず、私はそれにかゝる暇がありません。私には澤山の仕事と注文があります。——私が、ネクラソフの人物について、ソヴレメンニク誌と關係を絶つて不快に思つてゐることをあなたに申し上げました。私の金を借りてゐるクラエフスキイに、短篇をやつたので、また、私がオテチエストゼンニヤ・ザビスキと關係がないと言はうとしないので、怒つてゐるのです。早速、短篇を得ることが絶望なので、彼は私に卑しいことを言ひ、私から金を要求するやうな無禮をもしました。私は彼の言葉を取つて、十五日までの約束手形をやつて了つた。私は彼に自分の所へ來いと言つてやつた。私がネクラソフに馬鹿なことを言つた時に、彼は私の前で、追従を言ひ、金を盗まれやうとする猶太人のやうに辯解を言ひ出した。一言で言へば、これは汚はしい話です。今、彼らは至る所で、私が野心家となつたの、自分自身を餘り買ひかむつてゐるだの、私はクラエフスキイに身を賣つたの、それだから、マイコフが私の頌詩を歌つたのだのと言はうとしてゐます。ネクラソフは私をこき下ろさうと思つて居ります。ペリンスキイも亦弱い性質の人で、文壇に於て、常に意

見を變へてゐます。私が仲よくしてゐるのは彼一人丈です。彼は立派な心の人です。今は、クラエフスキイは、時機を利用したので非常に満足して居ります。彼は私に金を與へ、十二月十五日頃に、相場以上に私の負債全部を拂つてやると約束しました。それで、私は春までに、彼の爲めに働きませう。

ねえ、兄上、凡て斯う言ふことから、私は大きな方針を見つけました。やり始めの才能あるものにとつて非常に不利な第一のことは、雜誌所有者との友情です。それから、非常な馴染みが生じ、従つて、いろんな不愉快の起ることです。次に獨立です。最後に、神聖な藝術の愛の爲の仕事です。此祝福された仕事は、純粹に心の單純さからなされるものです。未だ嘗て心は、今のやうに、私の意識してゐる物象の前に、こんなに慄ひ、おのゝいたことはありません。

兄上、私は精神上に於て再生したのみならず、また肉體上にも再生したのです。未だ嘗て、私のなかに、これ程の力、これ程の光、これ程性格の平等、これ程の肉體的健康を得たことはありません。これには、私の親友、ベクトフ、ザクエベツキイ、其他の一所に生活してゐる人々に負ふ所が多いのです。彼らの年は私を治しました。最後に、私は彼らに一所に生活するやうに申込みました。我々は一つの大きな室を見つけました。そして、家政に關する全費用は、一人、一年紙幣百二十ルウブルを越えないのです。此結合の利益は如何に大なるものでせう。私は自分の室をもち終日仕事をしてゐます。私の新らし、住所は下の通り。あなたの手紙はこゝへ宛て、下さい。ワシリエフスキイ・オストロフ、第一街、大廣場、ルウテル派教會前、ソロシツチ家、二十六番。

我が最愛の友よ、第三の甥が生れたのを、心から御祝ひ致します。私は彼とエミリイ・フィオドロヴナと

に、出来る丈の幸福を祈ります。私は、今は今迄より三倍以上もあなたを愛してゐます。我が實よ、斯う言ふ紙きれに書いたのを怒つてはいけません。私には暇がないのです。私は期待されてゐます。でも、私はもう一度金曜に書きます。それで、此手紙はまだ終らないものと思つて下さい。

あなたの友

エフ・ドストイェフスキイ

同じ人に

一八四六年十二月十七日 サン・ペテルスブルグにて

親愛なる兄上、

あなたがこんなに沈黙して居られるには、何か事でも起つたのでせうか。私は毎便、あなたの報らせを待つてゐますが、何にも受取ることが出来ないのです。私は心配してゐます。あなたのこと、あなたが屢々身體が悪くなることを思つて居ります。私はそうだときめてゐます。どうぞ、せめて、二行なりと書いて下さい。後生、書いて下さい。そして安心させて下さい。あなたは多分、私の此前の手紙の續きを待つて居られるのでせう。然し、私がお約束を守らなかつたことで怒つてはいけません。私は仕事に追はれてゐます。私はクラエフスキイに、一月十五日まで、小説ネットツチュカ・ネズヅノゾの第一篇をやるこ

とに約束しました。それを慥かに、オテチエストゴンニヤ・ザビスキの廣告であなたは御覽になつたでせう。私は此手紙をきれ々に書いてゐます。何故と言つて、私は夜も晝も働いてゐますから。そうでなければ、七時にイタリヤ・オペラに行きます。其は私に取つて、極樂で、我が優れた藝術家の歌ふのを聞いて、氣を轉じてゐるのです。私の健康はいゝのです。私はあなたにその御報らせする必要はありません。私は一生懸命で書いてゐます。私は、我が全文壇、雑誌、批評、オテチエストゴンニヤ・ザビスキの私の小説の第三篇と、常に訴訟でも開始してゐるやうな風に思はれます。今年、敵があるにも拘らず、私は優越を認めさせてゐるやうに思はれます。クラエフスキイは頭を下けてゐます。彼は危く落ち目に會はうとしました。人々は、戦端を開き始めました。

それで斯う言ふ譯ですから、私は此冬も、此夏も外國へは行きません。そして、ルゼルにあなたに會ひに行きませう。私は夏を待ちこがれてゐます。夏に、私は古くいものを改作し、秋に發行をすることに用意させよう。それから、なる様になれます。兄上、お宅では如何して御暮しですか。エミリイ・フィオドロヴナは病氣ではないのですか。私の此手紙に至急の返事を書いて下さい。私はもう書いた通り、ベクトフ達と、バジイル島に依んでゐるのです。人々は非觀して居りません。健康です。いゝ鹽梅です。私はベリンスキイの所に屢々行きます。彼は屢々病氣です。でも希望をもつてゐます。ベリンスキイ夫人は子供を生みました。

私は絶えずクラエフスキイの負債を拂ふことをしつゞけです。私の目的は、此冬、彼の爲に働くことです。夏には一コベックも借りてゐないことになるでせう。何日、私は此負債から逃れることが出来るでせ

う。雜誌労働者となることは何と言ふ不幸なことでせう。人々は凡てを失ひます。才能、若さ、希望、仕事はあなたをいやがらせます。そして、作家になるよりも、終ひはなぐり書き屋になつて了ひます。

さようなら、兄上。あなたは、私の小説の最も興味ある頁に來た時に、私を止めさせなかつたのです。私は尙山程の著作をしなければなりません。あゝ、兄上、あなたがうまくおやりになるといふのだが、私はいつも、あなたに一日も早く御目にかゝりたいと望んで居ります。それにもかゝはらず、私が自分の境遇を押し立て確立した時でない、あなたに會はうとは思はないのです。私は出版業者に手足をしばられる。けれども、人々は私にすばらしい申込みをします。ネクラソフなる人から侮辱をうけたツヴレメンニク誌は、印刷紙一帳に就いて、貨幣六十ルウブルを與へます。それは、オテチエストゼレニヤ、ザビスキの約三百ルウブルに相當します。讀書文庫誌は、一帳について紙幣二百五十ルウブルです。でも、私は何にもすることは出来ません。何故と言つて、クラエフスキイは、前金を借して、貨幣五十ルウブルで皆取つて了つたのです。時に、グリゴロギツチは、オテチエストゼレニヤ・ザビスキに、生理學を書きました。即ち、その「村落」はこゝでは噂が高うなつてゐます。今はお別れです。兄上。エミリイ・フィオドロヴナ、フエエチャ、マアシヤ、ミイチャに宜しく。子供達はもう私を忘れましたか。ラインハルト其他の人々に宜しく。アンナ・イグノヴナは、あなたに會ひに來ましたか。私の凡ての友達に宜しく。

常にあなたのもの

エフ・ドストイェフスキイ

私の住所は、バジイル島、第一街、大廣場、ソロチツチ家、二十六番、ベクトフ方です。

なほ、言ひますが、今年は、肉食日を過しにベテルスブルグに御出でなさい。少くとも十五日を過しに御出なさい。だが、間違ひなく御出で下さい。宿料も食物もあなたに少しの費用もかゝりません。茶だつて、砂糖だつて、必須品だつて同じことです。あなたは何にも金をかけることはありません。旅行費だつて僅かばかりです。え、どう御思ひですか。考へて下さい。それで如何しやうと言ふのかと言ふのですか。私はあなたに會ふことを非常に嬉しく思ひます。そして、あなたも、ベテルスブルグに數日を御過しになるのは、面白いことでせう。あなたはこゝに來るに少しも金は入りません。私はあなたに御借りしてゐます。私がすつかり拂ひます。我々は金をとりません。兄上、どうぞ、いらつしやつて下さい。あなたを釘抜きでルゼルから引きぬ、かうとしてゐるとお思ひでせう。全く來て下さい。カルナブル祭に來て下さい。

同じ人に

一八四七年

親愛なる兄上、

私がまた御約束を守らず、次ぎの便で御手紙を差し上げなかつたことを、もう一度御詫び致します。然し、私は非常に悲みを抱いてゐたので、書くことは出来なかつたのです。私は長い間悲しげにあなたのことを考へました。あなたの運命は、如何に苦しいものでせう。あなたの健康、あなたの思想、自分の外に

何物も持たず、祭りの喜びではなく非観を抱いて居られること、重荷である所の家族を持つて居られること、その負擔が如何に健康的ではないものであるにしても、人生は堪へ難いものです。然し、兄上、元氣を落してはいけません。地平線は明るくなりませう。ねえ、我々が心の中に精神的なもの、内部生命を有すれば有する程、我々の家庭と生活とは、一層美しくなるのです。儘かに、不調和は恐しい。社會が我々に現はす平均の缺乏も亦恐しい。外的の世界は、内的世界と一致して見出されなければなりません。そうでなければ、外的現象が現れないとしても、内的世界は、危険なる發達をとることとなりませう。神經と想像とは、同じ事柄にあつて、餘りに多くの餘地を占めるでせう。一切の外的現象は、始めつから、我々に大仰山に大きく見え我々はびつくりします。人々は生活を恐れるやうになります。自然があなたに愛と、しつかりした性格を授けた事は幸福です。のみならず、あなたは、尙、常識と、砂金のやうな快活い、面白いユウモアのひらめきとの大きな實質を持つて居られます。是らの一切のものが、又、あなたを救つてくれます。私は非常にあなたのことを思つて居ります。でも、あゝ、如何に多くの賢人が、灰色の髯をして、狭い心をもつて、不快な卑劣な男性をもつて居ることです。如何に多くの人生の通人、僞信者が、その經驗に誇つて、寧ろその無人格に誇つて、(何故と言ふに、凡ての人々は、同じ型に切りとられてゐるのです。)つまらなく、永久に、その運命の満足や、ある物に對する信仰や、生活の區畫や、その地位の満足をも説いてゐることです。——何故と言つて、此の満足は、僧侶的な苛責と狭い精神の偽りの姿をしてゐるのですから。そして、彼らは、つまらなさと、限りのない怒りとを以て、日々の時間の使用とその生命の唇とに堪へられない強い熱烈な魂を批判するのです。それは、俗的な地上の幸福を持つてゐる卑怯

者である。凡が彼らに逢ふ時、悉くも、あなた達は怒りたくなる。私はエチオピアや、東洋諸國を
ない饒舌家の世間的な頗智的な訪問で、今妨げられた所でした。兄上、それは、最も退屈な馬鹿者のやうに思はれます。彼は私に、古くさい何ものも見出すことの出来ない舊稿と解剖的問題を持つて來ました。彼は是らの原稿を直してくれるやうにベクトフに頼んでもらひたいと言ふ奇妙なお人善しだらう。彼は全くそれを自分では何物も理解してゐないので。そして、他人に何か解決して貰はうと思つてゐるのです。私はあなたに返事をする爲に出来る丈のことはしました。斯う言ふ書付を持つて來る凡ての人々に會ひませう。

然し、時は過ぎてゆきます。私はあなたに澤山のことを書かうと思つて居ります。私は中絶して困つて居ります。それで、私は最近の論文丈かくこととし、あなたに私のことを話させう。兄上、私は仕事をしてゐるのです。此仕事が終わらない中は、何にも渡すまいと思つてゐるのです。今の中は、金がありません。そして、善良な人々があるまいと、私は失はれて了ひます。いろんな雜誌に、私の評判をひろげることが、不利益よりも、利益をもたらします。私の崇拜者は、それ丈、私の新しい作物を心にかけてくれます。のみならず、彼らは澤山あつて、私の辯護をしてくれます。私は非常に貧しく生活してゐます。そして、あなたに御別れしてから、私は約、貨幣二百五千万ルブルを消費しました。私は約貨幣三百ルブルの負債を支拂ひました。私を最もひどい目に會はせたのは、ネクラソフです。私は彼と結ばないからと言つて、貨幣百五十万ルブルに返したのです。春になつて、クラエフスキイに私は非常な借りをさせう。私はあなたに乾度四百ルブルに送りませう。其は儘かに間違ひありません。何故と言つて、あなたのことを

考へると、私は何よりも切ないのです。私がヘルシングフォルスへ行くと言ふのは、あり得べからざることで。何故と言つて、私は、プリスニッツの方式に従つて、冷水で断然身體を浴することが出来るかも知れませんが、それから私は六月頃には、恐らく行きませう。のみならず、私は何にも知りません。私の未來は、尙私の前にあります。然し、雷が私の頭上に落ちても、私は今は別に進まないでせう。私は自分のなし得ることを凡べて知つて居ります。私は自分の作物を汚がすことを欲しません。そして、金のことは、秋になつて、出版する本が、成功するまで延ばしませう。咀はれたるスギドリフよ。もう、一時です。想像して下さい。私は彼に、出来る丈、暇がないと言ふことを報らせやうとしたのです。彼は始終そこに止つてゐて、御饒舌してゐるのです。彼はどんな風にしてあなたの問題を書いたかを言つたり、あなたの協力が、彼にどんなに大切なものかを悟らせやうとしたり、コオカサスに行かうとする意志や、今まで誰も書ゝなかつたやうな地方の花に就いて著作をしやうと言ふことを話しました。本當に馬鹿々々しい。をかした奴だ。實際、ある人とお喋りをする時、役所から出るやうな風に思はれます。最愛の人よ、彼は私をあなたの所に奪つて行きました。兄上、身體を丈夫にして下さい。殊に、健康に注意なすつて下さい。陽氣にして下さい。私の仕事を速かに終るやうに祈つて下さい。間もなく、其は、あなたの爲にも、私の爲にも、金をみつめてくれるでせう。プリスニッツの療法は、私に想像を起させます。醫者は、それをいけないと止めるかも知れません。如何に、私はあなたに會ひたいことでせう。私は時として非常に悲觀します。私は時として、私がルゼルで不愉快なことをしたり、不氣嫌であつたりしたことを思ひます。兄上、私は病氣なのです。私とあなたとの關係は、お互の平等を排除するものだことを、ある時ある時の弱つた

のを思ひ起します。最愛の人よ、それは全く不正當です。愛し、私は、難堪に盡すべき醜い性質を持つてゐるのです。私は常に、あなたを私より善良な人、傑れた人として考へて來ました。私はあなたとあなたの家族の爲に、生命を抛たうと覺悟してゐます。然し、時として、私の心が、愛情のなかにひたつてゐる時、人は、私からいゝ言葉を得ることが出来ません。私の神経は此時、私に服従してはゐないのです。私は悪く、馬鹿々々しいものとなるのです。私は常に其の爲に、不正當な批判を忍ばなければなりません。人々は、私が頑固だ、人情がないと言ひます。私よりも千倍も優れてゐる最も立派な婦人エミリー・フィオドロヴァに對して、私は、どれ程卑しいことをしたでせう。私はまたあなたよりも愛してゐるフェエヂヤに對して、わざと怒つたことを思ひ出します。外部の境遇若しくは機會が、力づくで、私のいつもの卑しさを抜いてくれない時は、私が人情があり、愛情があることを示すことは出来ません。それにまで、私は卑しいものになつてゐます。私は此不平等を病氣に歸します。あなたは、リユクレチア・フロリアン・カオルを御よみになりましたか。だが、あなたは、間もなく、ネトツチカ・ネズヴォを御よみになります。それはゴクアドキンのやうに告白です。だが非常に違つた調子と種類のものです。私は、(多くの人から)ゴリアドキンのことは、身近に評判をきゝました。そして、其は驚くべきものでした。ある人は、此作は非凡の作であるが、理解はされまいと言ひました。未來には、大なる役をするだらう、私がゴリアドキンの外にかゝなかつたとしても、それで十分だと言ひました。ある人にとつては、それはデュウマよりも面白いと言ひました。私の自惚はそれで増長したのです。さて、兄上、理解されると言ふことは愉快なものです。兄上、あなたはどうしてこんなに私を愛して下さいさるのですか。私は大至急にあなたを接吻することに

出来る丈のことは盡しませう。熱烈に愛し合はうではありませんか。私の成功を祈つて下さい。私は私の女主人を書きました。それは「貧しき人々」よりもよく、同じ種類のもので、私の魂から迸り、私の筆を導くものは、インスピレーションです。私が夏中苦しんだ、あのプロハルチンのやうなものではありません。兄上、私は如何にもつと早く、あなたを助けることが出来るやうになりたいと思つたことでせう。希望をもつて下さい。私がお約束した金を必ず、あてにしてゐて下さい。あなたの家族を凡べて接吻します。

さて、あなたの

ドストイェフスキイ

我々は、いつか、ペテルスブルグで一所になりませう。相應な俸給のある文官の境遇は如何ですか。私はペリンスキイ夫人がお産をしたことは知りません。私はあの二つの室で、子供のなく聲をききました。だが、それは私に不思議に思はれ、聞きにくくなりました。

同じ人に

一八四七年春

親愛なる兄上、

私はあなたに二行書きます。私は世しいのです。私の手紙をどこであなたは受取られるか解りません。

少くとも、九月に、あなたと一週間を過しに行く爲に、私は出来る丈、仕事を片づけやうとしてゐます。金のことは、私は少し計算を誤りました。私はやつと一週に、二つの文藝欄の文を書くことになりました。従つて紙幣二百五十若しくは三百ルブル以上はとれません。私は非常に借金してゐるマイコフに支拂はなければなりませんから、(彼らは請求はしませんが)それから、宿料も拂はなければなりませんから、本當に、どれ程、あなたに送ることが出来るか解りません。でも、私はいつもあなたに送りませう。十月一日に、あなたに百ルブルでも御返しすることが出来るならば、私は人間の中でも最も幸福なものとなるだらうと思ふ程の状態になつて居ります。然し、十月か九月一日頃は、物事が變るでせう。小説を書き終へた後に、クラエフスキイから、チルウブルの前借をし、期限を不定しませう。ソヴレメンコクは成功してゐます。そして、彼らは、オテチエストゼンニヤ・ザビスキの寄宿者を引きぬかうとしてゐますから、アンドンレ・アレクセイギツチ・クラエフスキイは、非常に恐れをなしてゐます。彼は何でも同意しませう。のみならず、私の小説が、年の暮に發表されるのは、彼にとつても、私にとつても、好機會です。この小説は年を終つて、人々が購讀を申込み間續きませう。私が誤つてゐないとすれば、それは、年の中で重大なこととなりませう。私を確かに葬むつて了はうとしてゐるソヴレメンスクの同人達の鼻をあかすことになりませう。そこで、千ルウブルの金を受取つたら、ポケットのなかに金を入れて、あなたの所にゆき、あなたに對して、最後の解決をつけに行きませう。あなたは只一人でペテルスブルグに来て、二十四時間を得て、地位を見出すことが出来ます。——そして、あなたの技師の任務を繼續するか、若しくは永久に其を止めるかどつちかです。

私の住所は、小モルスカヤとズスネセンスキイ廣場の角、シイル家、ブレンメル方、エフ・ドストイェフキイと尋ねて下さい。

翻譯に關しては、私は少しも知りません。私は夏中それにかゝつて、探さうと思ひます。ペテルスブルグには、一年間の翻譯のみをして二萬ルウブルとるフルマンの馬鹿者しか居りません。(彼は多く外國に行つてゐます。)あなたが一年の保證しかないとしても、あなたは慥かに食つて行かれます。あなたは若いのです。あなたは文學的生涯に這入る事も出来ず。凡ての人々が今は其にたづさはつてゐます。十年の中には、翻譯を止めることも出来ませう。私は非常な熱心をもつて書いてゐます。私は恐らく書き終へることが出来ませう。ですから、我々はもつと早々會ふことが出来ませう。エミリー・フィオドロヴナは何と仰るでせうか。私は彼女に最もつましい挨拶をなします。子供にも宜しく。さようなら、兄上。私には少し熱があります。私は昨日、フロツクを着ないで、外套を只ひつかけたまゝ外出したので、風邪をひきました。そして、ネヅ河は氷解けになつてゐます。こちらは十一月のやうに寒いのです。そして、私は少くとも六遍は風邪をひきました。それはつまらないことです。一般に、私の健康は、よくなつてゐます。さようなら、兄上、成功を祈つて下さい。小説をかくて後、私は三つの小説を自費で公けにします。(「貧しさ人々」再閣改作した「二重人格」と最後の小説。)さうすれば、私の運命は恐らくよくなるでせう。卿があなたに幸福を與へ給ふことを。

あなたの

ドストイェフスキイ

あなたは信ずることも出来ずまい。私が文學をやつて三年になりました。私は全くうっかりして過してゐます。私は物を見ることもしないし、考へる時もありません。學問は、時間がないのです。ことが出来ません。人々は私の名聲を作つて如何はしいものとなりました。此焦熱地獄がいつまで續くか、私には解りません。——それから、貧困期限の仕事——休息にして貰ひたい。

エコラ・イヴノギツチ・ラインハルトとベルグマン家に最もつましい挨拶を致します。

同じ人に

一八四七年九月九日

兄上、大急ぎで御返事をします。あなたの御家族には、あなたの思召の通りなすつて下さい。最上の策を講じて下さい。然し、あなた御自分に對する決心は、どこまでも變へないで下さい。あなたは人が期限を與へまいと御心配になつてゐます。でも、あなたは、二月か三月の休暇をとることは出来ませんか。そして、それが不可能であるならば、管轄區域の司令官の所に行つて、御尋ねなさい。延期を許してくれるやうに、それ丈御願ひなさい。あなたをいやがらせやうと人々がしてゐるならば、そんなこともするでせうが、私は、辭職しやうとする者に對して、人々は厭がらせるやうなことはしまいと思ひます。でも、いつでも、いらつしやい。あなたは十月一日にこゝにくると御書きになりました。その場合には、九月二

日にしか、暇を貰ふことは出来ません。それは十一月の半ば頃になるでせう。そして、其時、あなたの辭職は許されるでせう。

あなたは、人々が首を振るだらうと仰る。私はあなたに斯う言ひます、それはあなたを困らせはしないと。あなたは、始めて着る衣服がないと御書きになった。だが、それは只現存の丈です。後で、あなたは凡てが整ふことが御解りになります。それで、我々は聯合をつくります。我々が我々の道を進んで行かないと言ふことは、出来ない相談です。それは何でもありません。考へてもみて下さい。誰が頭を振ふと言ふのですか。今あなたが受取つてゐるつしやる俸給は、こゝへ来て、ベテルスブルグで御受け取りになりませう。あなたの仕事は、そんなに苦しいものではありません。私は自分の家に居ります、そして、あなたを待つてゐます。今は、私は少し気分が悪いです。私は十月に印刷する爲に、一つの短篇を書きつけてゐます。私の忙がしいのは此爲です。あなたは、いつレゼルにお出でにならうとしてゐるのか、あなたは御書きになりませんね。でも、どうでも構ひません。私の手紙は、あなたの出發の前日に、多分つくこととせう。どうして、あなたが家族を維持してゆくのかわすつて。百二十五ルウブルの金は、僅かの金です。私はモスコウの親類に手紙を書きます。ヘルシングフォルスからも亦書きます。金を私の名前で送るやうに、あなた御自分で請求して下さい。(それは大切なことです。)

兄上、早く御出下さい。私が最も恐い窮迫に襲はれてゐるとしても、私は金を得ることが出来ます。でも、どれ丈私に金があるか御存知ですか。少くとも十月一日までに三百ルウブルです。此額から、二百ルウブルは負債に拂はれるのです。百ルウブルは、私の費用です。そして、それは、金が得られたならば

話です。どつちにしても、萬一の必要が迫つて来たならば、十月の始めまでに、私がとれる丈の金を御書きませう。

クラエフスキイから、

貨幣五十ルウブル

ネクラソフから、

同 一百ルウブル

ある所から、

同 五十ルウブル

そして、「貧しき人々」の發行權を賣つて、

同 二百ルウブル

全額

同 四百ルウブル

それは、いゝ金額ですが、「貧しき人々」を賣るのをあてですから、私は破産することになりませう。私は「貧しき人々」を出版する時がありません。然し、私は希望してゐるのですが、こゝに、一軒の印刷所があつて、私に其を信用で出版してくれることになりませう。もし、あなたがこゝに御出で下されば、あなたが之をやつて下さるでせう。そこで、冬中に、私は金がとれませう。あなたが都に御出でなれば、最近に御話した仕事、恐らく見つかる望みがあることを、あなたに申し上げます。のみならず、新年の爲に、出版する家があります。大きな家で、大資本をもつて居り、そこで、あなたは澤山の翻譯と編輯をなさることが出来ませう。それから、クラエフスキイの所にも、ネクラソフの所にも、翻譯があります。ネクラソフとは、全く仲直りしたのです。それは、彼が非常に望んでゐることなんです。それからまた、新年の編輯があります。もう一つあります。そして、凡てのものが、實現されるでせう。

あなたがシルレルの翻譯を終られないのは、何と言ふ残念なこととせう。それが完成したならば賣ること

が出来ます。あなたが御持ちのものをすつかり集めて下さい。此頃、私はクラエフスキイに、あなたが地理學の本を翻譯なさることが出来ると言ひました。(私の最近の手紙で。)またあなたは、獨逸語を知つて居られるので、シルレル全集を翻譯なすつたと言ひました。クラエフスキイは、急に無考へに斯う言ひました。『それぢやあ、彼の翻譯は、一體どこにあるんです。』それから、彼は思ひ直して黙つて了ひました。それは、恐らく、オチチエストゼンニヤ・ザビスキの爲ではないでせう。だが、クラエフスキイは、それをのせることに助力するでせう。

さて、お別れです、親愛の人よ。私は思ふ丈書けませんでした。暇がないのです。

すつかりあなたのもの

エフ・ドストイェフスキイ

エミリー・フィオドロヴナに宜しく。子供達を接吻して下さい。

聯合とは何だか御存知ですか。我々が別々に働いたなら、我々は亡びて了ひませう。我々は、恐れるやうになり、我々にはもう勇氣がなくなるでせう。然し、同じ目的の爲に二人が一所になれば、違ひます。さうすれば、人間には、元氣と勇氣と人情に満ちてくるでせう。その力は倍加されませう。

最も詳細に書いて下さい。そして、また、最も細心に、數字のことは正確に書いて下さい。(金、時間等……)

同じ人に

一八四九年七月十八日 要塞より(譯者曰、要塞にして牢獄たり)

親愛なる兄上、あなたの御手紙は、私に無限の喜びを與へました。私は七月十一日に其を受取りました。とうとうあなたは自由の身となりました。あなたが家族に御會ひになつた時のあなたの味はれた喜びを想像してゐます。あの人々は、あなたに會ひたいと待ちこがれたこととせう。あなたは家に落ちつきなすつたことと思ひます。何を御やりですか。殊に、何で生活をしてゐらつしやいますか。著作をおやりですか。何をなすつてゐますか。夏は都會では苦しいのです。それから、あなたは移轉なすつたと仰る。慥かに、あなたの御住居は、以前より小さいに違ひありません。あなたが市外で夏を送られないことは、御氣の毒です。あなたの送りものは感謝しまつ。それは、私に澤山の慰めと樂みを與へました。兄上、あなたは、私にがっかりしないやうにと御書きになりました。私はがっかりしません。さうです、私は悲觀してはゐります。心に痛みはもつてゐます。然し、仕方がありません。それでも、始終悲觀してゐる譯ではありません。概して、私の過してゐる時は、不變不同です。時として、早く暮れるかと思へば、時としては遅く暮れます。時々、我々は此生活に馴れて了つて、平氣になつたやうにも思はれます。全く私は凡ての自分の想像の誘惑を遠ざけやうとしてゐますが、時としては、其に打ち勝つことが出来ません。思ふまいと

しても、昔の生活が、昔の印象と共に、精神に思ひ浮びます。我々は過夫を蘇みがらせ始めるやうになります。然し、之れは有勝ちのことです。今は少くとも、凡ての人に取つて、日が爽かに、前よりも少し愉快になりました。然し、雨の日は堪へ切れません。穴倉は非常に薄暗くなります。私も亦仕事をもつて居ります。時を空費してはなりません。私は三つの短篇と、二つの長篇を書くことを思ひました。私は今それを書いてゐます。然し餘り書きすぎるのを恐れてゐます。

此仕事は、殊に、趣味をもつてやれば、私は今よりも以上に、*con amore* (愛を以て) に働いたことはありません。此仕事は常に私をすりへらしました。でも、それは、神経に關しての話です。私は自由の身となつて、此仕事に身を任せる時、私は樂みの爲に、それを中絶しなければなりません。こゝでは、文學を書いた後に味ふ動搖は、ひとりで過ぎ去るに違ひありません。痔疾と、益々増加してゆく神経の亂れの時には、私の健康はいゝ方です。時々、私は昔のやうに喉が押しつまつたやうになり、食慾は振はなくなり、睡眠不足となり、尙、魔夢に襲はれるやうになつてゐます。私は二十四時間の中、約五時間眠ります。そして、毎晩約四度眼をさします。これが殊に、私には苦しいのです。

最も辛い時は、夜になる時です。九時になると、全く暗くなります。時として、私は朝の一時か二時頃まで眠りません。五時間、暗い所に堪え忍んでゐるのは、非常に辛いのです。これが健康を最も動搖させます。私の事件の終結に就いて私は何も言ふことが出来ません。何故と言つて、私は全く計算を忘れてゐますから。只、私は曆を用ひて、只、受動的に、毎日、過ぎ去つた日を注意してゐます。——うるさくなくつていゝです。

こゝにゐて、私は殆ど少しか讀みません。二冊の巡禮の話。ロストフの聖デイミトリーの作物。此後のものは、私を非常に面白がらせました。然し、此讀書は、海の中の水の一滴に過ぎません。私は、どんな本でも構ひませんが、本をもつことは、非常に幸福であるやうな氣がします。それが有益であればある程そうです。何故と言ふに、他人の思想によつて、私自身の考へを中絶し、或は、私の思想の流れを變へるのですから。

これが私の生活の詳細です。その外に何もありません。あなたが健康に暮してゐる家族を思出されたので、私は非常に満足して居ります。あなたが自由放免になつたことを、モスコウへお書きになりましたか。あの事件がまとまらないのは残念です。私は、少くとも、一日でも、あなたと一所に暮したいと如何に望んだことでせう。我々が牢に這入つてから、もう三ヶ月になります。何が我々の身に起るでせう。此夏から、我々は緑色の木の葉を見ることが出来ないかも知れません。五月に、我々が庭の中に散歩に連れられて行つたことを思ひ出さいますか。あの時、新緑があそこで出始めました。そして、私はレヴルのことを考へ始めました。あなたを訪ねに行つたのが今と同じ頃である事や、工科學校にあつた庭などを考へました。その時、私には、あなたも同じやうな考へを起して居られると思はれました。——それは悲しいことです。私は又、人々に會ひたいと思ひました。今誰をあなたは御訪ねしてゐらつしやいますか。あなたは田舎に居らるゝに違ひありません。我々の弟のアンドレイは、髓に都に居るに違ひありません。あなたは、ニコラスにお會ひになりましたか。私から彼らに宜しく言つたと言つて下さい。私の代りに子供達を接吻して下さい。夫人に宜しく。彼女のいゝ思ひ出に私は非常に感じてゐると言つて下さい。私のこと

心配しないで下さい。私は只健康であればいいと思つて居ります。悲観は過ぎ去るものです。そして、私の気分は、私だけでどうにかなるものなのです。人間には、忍耐と生命の一大貯蓄があります。實際、私はこんなにそれがあるとは思ひませんでした。そして、今は、私はそれを経験で知つたのです。

さて、お別れです。私の方は以上に言つたことです。それがあなたに愉快なものであることを祈ります。あなたがお會ひになり、私を知つてゐる凡ての人々に宜しく言つて下さい。誰でもお忘れになつてはいけません。私は、凡ての人々のことを考へて居ります。子供達は私のことを何と考へて居るでせうか。如何なる想像を彼らが廻らしてゐるか知りたいと思ひます。彼は何處へ隠れて了つたらうと言つてゐるに違ひありません。さようなら。出来るならば、私にオテチエストエンヤ・ザビスキをお送り下さい。私は少くとも何物かよまなければなりません。少しでも書いて下さい。それは私に大きな喜びを與へるでせう。さようなら。

あなたの弟

エフ・ドストイェフスキイ

同じ人に

一八四九年八月二十七日（要書より）

親愛なる兄上、

あなたに御返事することが出来るのを大變うれしく思ひます。本を御送り下すつたことを有難く思ひます。殊に、オテチエストヴンヤ・ザビスキを有難う。あなたがまた御達者で居られるので、非常に嬉しく思ひます。あなたが入牢なすつてゐらつしやつたことが御健康に何んら悪い痕跡を残さなかつたことを喜びます。でも、あなたは非常に少しか御書きになりません。ですから、私の手紙はあなたのよりも一層詳しいのです。だが、そんなことは如何でもいゝ。あなたは御直し下さる暇がおります。

私のことに就いては、もう何にも儲かなことは申上げることが出来ません。いつも、我々の事件は忘れて居ります。殊に私の生活は定り切つてゐます。だが、人々は、私に庭に散歩に出ることを許してゐます。庭には十七本の樹があります。そして、それが凡べて私に取つての幸福です。のみならず、夜になると、私は蠟燭を有することが出来ます。それが第二の幸福です。あなたがもつと早く返事を出して下さい、オテチエストエンヤ・ザビスキを送つて下さるならば、第三の幸福となります。何故と言つて、田舎の購讀者と言ふ資格で、退屈してゐる殿様のやうに、それは重大なものです。あなたは歴史の本を御送り下さいませんか。そうして下されば、すばらしいものです。でも、聖書（新舊兩書）を御送り下されば一層いゝのです。私はそれが入用です。出来るなら、佛蘭西語の本を送つて下さい。それにロシア文の聖書を御添へ下さるならば、それで完全無缺となります。

私の健康に就いては、いゝことは何にも申上げることが出来ません。一ヶ月以前から、私は文字通りに、蓖麻の油を食べてゐます。そのみで、私は生存してゐるのです。私の痔疾は、極度まで私を苦しめてゐます。私は胸に痛みを感じてゐます。今迄こんなことはなかつたのでした。のみならず、殊に夜になると、

私は一層感じ易くなりなりました。夜は、長い恐しい夢をみます。また、数日前から、床がよろめくやうに思はれます。私の部屋にゐて、蒸汽船のケビンにゐるやうな気がしてゐます。私は是らのことから、神経が亂れてゐるのだと判断しました。昔、斯様な神経の状態が私に起つた時、私はそれを利用して物を書きました。——斯う言ふ状態では、一層うまくなり澤山書くことが出来るのです。今は、私を駄目にしてしまはないやうにと、控へて居ります。約三週間、私は何にも書きませんでした。今は、書き始めてゐます。然し、凡てこんなことは何でもありません。人は生きることが出来るものです。多分、私は、うまくなり身を立ち直すことが出来るでせう。

モスコウの人々が、我々に起つたことは何にも知らないとなあなたが御書きになつたので、私は全くびつくりして了ひました。私は考へに考へて、それは、有り得ないことだと結論しました。彼らは慥かに其を知つてゐたのです。私は彼らの沈黙に對して、全く他の理由を認めます。のみならず、そんなことは豫期してゐなければなりません。物事ははつきり解つてゐます。

エミリー・フィオドロヴナはどうしてゐらつしやいますか。彼女がそんなに悲觀しらつしやるのは、どう言ふ譯ですか。これ程、第二の夏となつたので、彼女は嘆じてゐられるに相違ありません。去年は、コレラがありました。それから——他のこともありました。今年は、全く神が御存知のこととせう。實際、兄上、勇氣を沮喪するのは、罪惡です。過度な仕事も *con amore* (愛を以て) です。——そこに眞の幸福があります。働きなさい。お書きなさい。其れ以上のことは何がありますか。

★文學はあなたを弱くするやうに思はれると御書きなさいました。けれども、オテチエストゼンニヤ・ザビ

スキの部数でも、慥かに、美文と言ふ點を除いては、同じやうに立派なものです。喜んで讀むことが出来る論文はありません。科學的の論文でもすばらしいものです。「ペルウの征服」は、眞のイリアドです。昨年「メキシコの征服」に實際、劣つた所はありません。論文が翻譯であつても構ひません。私は非常な興味をもつて、オディツセイの解剖の第二の論文をよみました。然し、此の第二の論文は、ダギドフの第一のものより、非常に劣つて居ります。彼が、ヲルフを論駁してゐる所では、殊にすばらしい論です。それは、問題を深く掘り下げた知識をもつて書かれ、又、斯様な昔風の教師からは期待することの出来ない熱心を以て書かれたものです。この論文のなかで、彼は、一般に凡ての學者に持前なる、殊にモスコウの學者に固有な街學主義を避けることさへも出来たのであります。

兄上、凡てこれは、あなたの本が非常な愉快を私に得させたこと、私はあなたに非常に感謝すると言ふ決論することになります。さて、お別れです。あなたのはあらゆる成功を祈ります。大至急で書いて下さい。我々のことに關して、モスコウの人にあなたは書いたり、どこに財産をもつてゐるかなどあなたはお書きになつて、悪いことになりました。私は凡ての子供達を接吻します。人々は彼らを夏季庭園につれてゆくことと思つて居ります。エミリー・フィオドロヴナ及び、凡ての友達にお會ひになつたら宜しく。あなたは私に會ひに行かうと思つてゐると御書きになりました。それは何日ですか。さらば、さようなら。

あなたの

フィオドル・ドストイェフスキ

オテチエストゼンニヤ・ザビスキに論文を書いたとは誰ですか書いて下さい。オテチエストゼンニヤ・ザ

ビスキの七月號のシャコフスキイ夫人の詩の批評を書いた人は誰ですか。それを知るやうにして下さい。兄上、七月十日と十五日の間に、私の金は来るでせう。あなたが出来るならば、また助けて下さい。ほんの少しばかりあるのです。「貧しき人々」の爲に、ソロキンと勘定をきめました。然し、どれ程だか忘れしました。更に、その額は非常に少いのです。彼は殆どすつかり拂つて了ひました。

エフ・デエ

同人人に

一八四九年七月十四日（要書から）

親愛なる兄上、あなたの御手紙、本（シエクスピア、聖書、オテチエストゼンニヤ・ザビスキ）と金（貨幣千ルウブル）受取りました。それら凡べて有難うございました。あなたが御健康なのを嬉しく思ひます。私は、いつも同じことです。胃がいつも悪いのと、痔疾です。それが何日なくなるものやら解りません。秋の中で最も苦しい月が今近いて来ました。それと共に、私のヒポコンドリーも始りませう。空は今ほ亂れてゐます。私の地下室から見える青空の一片は、私の健康の保證であり、私のいゝ氣分の保證です。だが、今の所、私は無事息災です。それは私に取つてもう意味のあることです。それですから、私は、あなたに、私のことを悪く思はないやうにして下さいと御願ひするのです。今の所、健康に關することはい

ゝのです。私は、非常に悪くなるだらうと豫期してゐました。今は、私の中には、汲み盡すことの出来ない生命の大貯蔵のあることを認めます。

もう一度、本のことを感謝致します。それはいつも、せめてもの慰めです。もう殆んど五ヶ月の間、私は自分自身の方法に没頭してゐました——即ち、私の思想に没頭してゐたのです。それが凡てです。今まで器械はとり外されなくて動いてゐたのです。のみならず、精神を養ひ新らしくする爲の何ら新しい外部の印象をうけないで、いつも考へるのみで考へぬことは、苦しいものです。私は、凡べての空気を吸ひこむポンプの下に居るやうな印象を全く持つてゐます。私の全存在は頭の中に集中し、頭から思想の中に、一功のもの、絶対に凡てのものが集中するのです。それにも係らず、仕事は日々増加してゆきます。書物はつまらないものですが、それでも私を慰めてくれます。自身の仕事に就いては、私から最後の力を引きぬいたやうに思はれます。けれども、私はいつでも働くことを幸ひと思つてゐます。

私はあなたが送つて下さつた本を読みました。殊に、シエクスピアは有難うございました。私に必要なものを、あなたは如何によく理解してゐらつしやるでせう。オテチエストゼンニヤ・ザビスキのイギリスの小説は非常にいゝものです。然し、Tの喜劇は許すべからざるものです。彼は不幸を玩んでゐます。一帳の大きさを超える彼の作物を皆傷けるやうにしなければならなかつたでせうか。此喜劇の中では、彼を認めることは出来ませんでした。何らの獨創もありません。それは、こわれた舊道です。一切のものは、彼の前に言はれてあることです。彼よりも一層よく言はれてゐます。最後の場は、つまらない弱々しいものです。時々、何物か現はれて来ますが、此ものは、此以上のものは何にもないからと言ふ外は、價値の

ないものです。銀行のことは何と言ふ面白い論文でせう。何と言ふ理解し易いことでせう。私のことを思つて下さる凡ての人々に感謝致します。エミリー・フィオドロヴナ・弟アンドレイに宜しく。私が殊に健康を祈つてゐる子供を接吻して下さい。兄上、いつ我々が會ふことが出来るか解りません。さようなら、どうぞ、忘れて下さるな。少くとも十五日の中に書いて下さい。さようなら。

あなたの

ドストイェフスキイ

どうぞ、私のことは安心して下さい。何かおよみになつたものがあるなら送つて下さい。

同じ人に

一八四九年十二月廿二日 (要塞から)

今日は、十二月二十二日です。人々は我々をセミオノフスキイ廣場につれて行きました。そこで、人々は、我々凡てに、死刑の宣告文を読み上げました。人々は我々に十字架を接吻せしめ、頭の上に、劍をがちやくさせました。そして、我々に最後の仕度をさせました。(白いシャツツ)それから、我々の中の三人を死刑執行の爲、柱にしばりました。私は六番目です。人々は三人づゝよびました。それで、私は二番目であつたので、もう数分しか生きてゐる時はないのであります。兄上よ、私はあなたのことや、あな

たの家族を思出しました。私は此最後の瞬間に、あなた只一人私の考へに浮びました。その時、私は如何にあなたを愛してゐたかを悟りました。私は、兩側にあつたブレチエフとドウロフを接吻し、彼らに別れをつぐる暇がありました。最後に人々は、止めよとの鐘を鳴しました。人々は、柱にしばつた人達を連れてきました。皇帝が我々の生命を御許しになつたことを読んで聞かせました。それから、人々は實際の判決文をよんだのです。バルムのみが放免せられました。彼は、同じ資格で軍隊に居ることになります。

エフ・デエ

同じ人に

一八五四年二月廿二日 オムスクより

逢々、私はもつと明らさまに、また、もつと理性的な態度であなたとお話することが出来ます。でも、他のことを書く前に、あなたに問はなければなりません。どうぞ、後生ですから、あなたが今迄私に、一語もお書きにならなかつたのは、どう言ふ譯か言つて下さい。私はあなたから、こんなことを豫期することが出来ませうか。信じて下さい、私の淋しい孤獨な状態に於て、私は時々全く失望に陥ります。何故と言ふに、私はあなたはもう生きてゐられないと信じたからです。私は夜中、あなたの子供はどうなることかと、考へました。私は彼らを助けることが出来ないから、自分の運命を咀ひました。然し、あなたがま

だ生きてゐられると儲かに聞く毎に、私は怒り出しました。(これは然し、病氣の時にのみ起るのです。私はそのことを、大變苦にやんでゐました。)そして、あなたを、烈しく非難し始めました。それから、此心持は過ぎ去りました。私はあなたを許し、あなたの爲に辯解を見出すやうに努め、何か見出した時は、直ぐに落ち着きました。又、私は一瞬間も、あなたに信用を全くおこなくなるやうなことはありませんでした。あなたが私を愛してゐらつしやることや、私を親切に記憶してゐらつしやることは知つて居ります。私は公けの軍隊の本部を通して、あなたに手紙を送りました。あなたはたやすく其を受取られたに違ひありません。私はあなたから返事を豫期しましたが、何にも受取りませんでした。それでは、あなたは私に手紙を書くことを禁じられてゐるのですか。でも、私は手紙は許されてゐることを知つて居ります。何故と言つて、こゝにゐる政治犯の誰でもは、今年の内には數通は受取りました。ドウロフでさへも數通持つてゐます。私は文通に就いて如何言ふ風になつてゐるか役人に訪ねました。そして、彼らは、人々は我々に手紙を送る権利があると斷言しました。私は、あなたの沈黙の眞の理由を察したと思ひます。あなたが、警察にゆくには餘り物臭であるか、あなたが、一度お出でになつて、何にも確かと物事を知らない官吏が他の者から、あなたのやる返事は、始め、『いけない』と言はれなすつたのでもありません。でも、あなたは、私に非常な利己的な心配を起させて下さいました。何故と言ふに、私は、彼が手紙をかく勞を取らないならば、もつと重大なことは何にもしないだらうと思つたからです。書いて下さい。出来る丈早く返事して下さい。機會を待たないで、お役目的に書いて下さい。あなたが出来る丈、はつきりと詳細に書いて下さい。私は、今塊から切り離された一片のやうなものです。再び元のやうに返りたいが、出来ません。

不在者は常に悪いのです。それは、我々二人のことを眞に言つてゐるのではありませんか。だが、安心して下さい。私はあなたを信じてゐます。

私が牢を出てから、一週間になります。私は此手紙を極く秘密にお送り致します。其を少しでも誰にも言はないで下さい。シベリア軍團の本部を通じて、また一通の公然たる手紙をあなたに送りませう。公然の手紙には、直ちに返事して下さい。然し、此手紙の御返事は——第一等のうまい時を待つて下さい。けれども、此四年の間、あなたがなすつてゐらしたことを、公然の手紙に、非常に詳しくお書きにならないければいけません。私の方では、あなたに澤山書いて御送りしたいと思ひます。けれども、私の時間は、此紙に書くにもやつと十分な程ですから、あなたに只重要なことのみを話させよう。

最も大切なことは何でせう。最近の過去に私に起つた最も大切なことは何でしたらう。私は考へると、此の紙が餘りに少なすぎると言ひたい程なのを悟ります。私が今心の中に思つてゐることを——私の考へてること、私のしたこと、私の得た信念、私の引き出した決論を如何して通することが出来ませう。私はそんな仕事を企てることも出来ません。其は絶対に實行すべからざることです。私は一片の仕事でも半分にして打つちやることは出来ません。只の一部を言ふことは何にも言はないと同じ事です。兎に角、あなたは今、私の詳細の報告を手になされます。それをよみ、あなたの欲するものを其中から取つて下さい。あなたにすつかり言ふのは、私の義務です。そこで、私は、回想から始めませう。我が最愛の人よ。お互に如何して別れたかを御記憶なさいませう。我々三人、ドウロフ・ヤストルチェムブスキーと私が、鐵鎖をはめて、曳き出された時、あなたは殆ど我々をお去りにならなかつたです。(一八四九年)クリスマス前の

夜の正しく夜半に、鐵鎖を始めて私の身に觸れたのです。其は十ポンドもある程の重さで、歩くのを非常に困難ならしめました。そこで、我々は、各、一人づつ、憲兵付で、無蓋の櫓に、即ち四つの櫓にのせられました。——下士は行列を公開して——我々はベテルスブルグを去りました。私の顔は重くて澤山のいろ／＼な印象が、こんがらがった不明瞭な感じと共に、私を満しました。私の心臓はどき／＼と特別な鼓動をうち、そして、それが、苦痛を麻痺させました。でも、新鮮な空気は、その中によみがへつて来て、あらゆる新しい經驗をする前には、不思議な生き／＼しさと熱心さと呼び起させるのが、普通であつたから、私は心の奥底では落ちついて居りました。私は注意をこめて、ベテルスブルグの祭りに輝いた家を見、各の家にさようならと言ひました。彼らは我々をのせて、あなたの住居を過ぎました。クラエフキイの家では、窓がきら／＼と輝いて居りました。彼はクリスマス会の會をし、樹をつくり、あなたの子供達がエミリオ・フィオドロフナと行つてゐると、あなたは御話しなさいました。我々が其家を通つた時に、私は恐しく悲しく思ひました。私は言はゞ、子供達にお別れをしました。私は彼らの爲に、こんなに淋しく思ひました。そして、數年の後も、時々彼らのことを思ふと眼に涙が浮んで來ます。我々は、ヤロスラヴルを越えて行きました。三つか四つの停車場をすぎた後、朝始めてうすぐらくなつた時、シユルセルブルグに止り、その宿屋に這入りました。我々は、そこで、恰も、一週間も何にも食ばなかつたやうに、がつがつして茶をのみました。八ヶ月の禁錮の後、六十ポンド櫓で走つたことは、私が今日でも愉快に思ふ程の食欲を起させました。

私はいゝ氣分です。ドウロフは絶えず喋つてゐました。そして、ヤストルテムスキイは、未來に

對する非常な心配を表はしました。我々の凡ては、我々の下士と、仲よくなつたやうに身をまかせてゐました。彼は、善良な老人で、我々に對して、非常に親切に心をつくしました。多くの人生を見た人なんです。彼は全歐州を派遣されて旅行しました。路々、彼は、我々に、多くの親切さを示しました。彼の名はクズマ・プロコフィエギツチ・ロブコフイエヴです。就中、彼は、我々を屋蓋のある櫓にのせました。寒さは恐しいものですから、それは非常に歓迎されました。

第二日は祭日でありました。各停車場毎に變更する御者は、けば／＼しい赤帯をした獨逸製の鼠色の外套を着て居りました。村の通りには、一つ子一人見られませんでした。それはすばらしい冬の日でありました。彼らは、我々をベテルスブルグから遠く離れた所、ノヴゴロッドや、ヤロスラヴルの官廳を通して走らせました。其から非常の距離のある全く解らない小さい町がありました。然し、我々は祭日に走つて行つたのですから、いつも澤山の飲み食ひするものがありません。我々は走りました。——恐ろしく走りました。我々は暖かな衣類を着てゐました、それは實際です。然し、一時に櫓の中に十時間も座つてゐなければなりません。只ほんの五六の停車場に止る丈でした。それは殆ど堪え難い程でした。私は骨の髄まで凍えました。そして、やつとの思ひで、ステエションの暖い室に、身を融かすことが出來たのでした。言ふのもおかしいことですが、旅は、全く私の健康を恢復させました。ベルムの附近で、ある晩なぞは、四十度の寒さがありました。私はそれをあなたにほころびではありません。それは非常に不愉快なものでした。我々が、ウラル山を横ぎつた時は、悲しいものでした。馬も櫓も雪の中に深く埋まつて了りました。吹雪は荒れて居ります。我々は櫓から出ました。——それは夜でした——それが元に引き出され

るまで、立ち乍ら待つて居りました。我々の周囲凡てを、吹雪は渦まいでるました。我々は、ヨオロッパとアジアの境に立つてゐたのです。我々の前には、シベリアが横はつてゐます。神祕な未來が横はつてゐます。——我々の後ろには、凡ての過去があります。それは非常に惱ましいものでした。涙が私の眼に浮びました。道すがら、百姓達が、我々を見やうとして、あらゆる村から叫び乍ら出て來ました。我々が械をかけられてゐても、物價は、あらゆるステエションで、三倍とられました。クズア・ブロコフイエキツチは、我々が止めやうとしたけれども、自分で半分の費用を拂つてくれました。道すがら、我々の各は、全旅行を通じて、ほんの十五ルウブルを費したのみでした。

一月十二日(一八五〇年)に、我々は、ドボルスクに來ました。官憲の前に整列せしめられ、検査された後、その手続き中に、凡ての金は我々から取り上げられて了ひましたが、私とドウロフとチストルチエムプスキイは、穴倉の中に連れてゆかれました。他のスピエチユニオフなどは、我々より前に着いたのですが、他の班に居つて、いつまでも、お互に會ふことは一度もありませんでした。私が六日トボルスクに止つてゐたことや、私に及ぼした印象を、もつとあなたに御話したいと思ひました。然し、私には餘裕がありません。然し、只、斯う申し上げます、そこで途々に示された大なる憐憫と同情とが、前に過ぎ去つた凡てのものゝ代りに、幸福の大きな部分のやうに、我々にもたらせられたことであります。昔の囚人は、(殊に其妻達は)恰も、骨肉の人の如くに我々を世話してくれました。是らの立派な魂をもてる人々は、二十五年間も、苦痛と、自己犠牲とに試みられてゐたのです。我々は、彼らをほんの稀にしか見ませんでした。けれども、我々は嚴重に守られてゐました。尙、彼らは我々に着物や食物を送つてくれました。我々

を慰め、鼓舞してくれました。私はほんの少しか着物をもつてこなかつたので、ひどく後悔してゐました。けれども、彼らは私に着物を送つてくれました。遂々、我々はトボルスクを去り、三日かゝつてオムスクに着きました。(譯者曰、是らの人々は、十二月黨と言ひて、一八二五年、十二月十四日の政變に關係したる人々にして、シベリア流刑になりたる人々なり。其妻達は自らは夫に従ひて、あらゆる苦みを嘗めながら、夫を助け居るなり。)

私がトボルスクにあつた間、私の未來の上官について報告をあつめました。人々は、司令官は、非常に柔しい人であると言ひましたが、クリウゾフ少佐は、なみ／＼ならぬ野獸で、くだらぬ暴王でのだくれで、陰謀家であると申しました。——つまり、想像の出来る限りの大恐怖なものでした。抑もの始めから、彼は、ドウロフと私の二人を、馬鹿者と呼んで、一度でも規則違反すれば、體刑を加へると誓ひました。彼は二年間も地位を保つてゐましたが、最も恐しい許すべからざることをしました。二年後に、それが爲に、彼は軍法會議に附せられました。そこで、神が彼から我々を保護し給ふたのです。彼は、いつも、恐しく酔つばらつて我々の所に來ました。(私は一度も彼の酔はない顔を見たことがありませんでした。)そして、誰か罪咎のない囚人を探し出して、その囚人が、——酔ばつてゐると言ふ口實で、答うちました。度々彼は夜中に来て、手あたり次第罰を加へました。即ち、斯う／＼言ふものは、右側に寝る代りに左側にねたとか、寝てゐる時、喋つたとか、うなつたとかの爲めにです。——即ち、彼の酔ばらつた頭に何かゞ起るのです。私は、斯様な人間に對しては、遂には喧嘩して了つただらうと思ひました。毎月、ペテルスブルグルに我々の報告を書いて送つたのは、彼でした。

私はドボルスクで、犯罪人達と知合ひになりました。オムスクでは、四年間、彼らと同じく暮すやうな身となりました。彼らは、粗暴で、怒り易く、毒々しい人間です。貴族に對する彼らの憎悪は、限りないものです。彼らは、貴族に屬する我々凡てを、憎悪と敵視とを以て見てゐます。彼らは出来るならば、我々を喰つたであらませう。そこで、斯様な人間と數年間一所にすみ、食ひ、眠りして、常に我々にあびせかけられる侮辱を訴ふることに出来ないのであるのは、どんな危険に我々は立つてゐるが、あなた御自分で判斷して下さい。

「汝ら貴族は、鐵の嘴をもつてゐるのだ。我々を切れくりに裂いて了ふのだ。汝達が主人であつた時は、民衆を侮辱した。今は、お前が悪い破目となると、おいらの兄弟とならうと思つてゐるのだ。」

斯う言ひ分は、四年の間、盛んでありました。百五十人の敵は、我々を迫害して、決して疲れることはありませんでした。——それは、彼らの喜びで、樂みで、娛樂であつたのです。我々の只一つの守りは、無頓着と、精神的の優越でありました。それを彼らは、是認し、尊敬すべく餘儀なくされました。彼らはまた、我々が決して彼らの意思に屈しないことに感じました。彼らは、いつも、我々が彼ら以上に立つてゐることを意識してゐました。彼らは、我を侮辱して何になるかと言ふことを少しも考へてゐませんでした。我々はそのことに就いて意志を洩しませんでしたので、我々は、決してお互に了解することは出来ませんでした。彼らが貴族に對して抱いてゐる復讐の全部、憎悪の全部をば、我々の上に流さしめなければなりませんでした。我々はあそこでは、實際、不愉快な時を過しました。營倉は、普通の監獄よりもつと悪いのです。私はまる四年間を地下室の壁の中に、費しました。そして、「苦役」につれてゆかれる時のみ牢獄

を去つたのです。勞働は、始終ではありませんでした。時としては、天氣が悪く、雨が降るとき、又は、冬、堪へ難い凍寒の間にやられると、力は全く抜けて了ひます。ある時、水銀も凍るやうな斯様な凍寒の日に、特別作業の仕事をして、四時間も過さなければならなかつたことがあります。それは恐らく、零度以下四十度位でもありました。私の一本の足は、凍傷にかゝりました。我々凡ては、共に、バラツクの室に住んで居りました。もう永い以前から、廢物として破れたまゝになつてゐる古ぼけた曲がつた木造の建物を想像してみして下さい。夏は、それは堪え難く暑くなり冬は、堪え難く寒くなるのです。凡ての木は朽ちて居ります。床の上には、汚物が一インチも厚くたまつてゐるのです。人々はいつも近べりころける危険があります。小さい窓は、凍つて了つて、晝でも殆ど物を讀むことが出来な位です。硝子板の上の氷は、三インチも厚くついて居ります。天上からは滴が垂れ、何處にもたまりが出来てゐます。我々は、樽づめの鯁のやうに積めこまれてゐます。ストオヴは六本の薪で燃えてゐますが、室は非常に冷いので、氷が決して解けたことはありません。空氣は堪え難い程です。冬中を通して斯うなんです。同じ室で、囚人は、そのシャツを洗濯するので、殆ど身動きも出来ない程、その場所は濡れて了ひます。夕方から朝まで、我々は、バラツクの室を去ることを禁じられてゐます。扉はしめ切られ、前の室には、便の要求の爲めに大きな木の桶がある。それは、息をつくことも殆ど出来ない位にします。凡ての囚人は、豚のやうに匂ふ。彼らは、自分が生れてゐて、また人間なのだから、それを忍ぶことが出来ないと言ひます。我々は何にもない板の上に眠るのです。凡ての人は、只一つ枕を許されてゐます。我々は身體を、小さい羊の皮で覆ひますが、足はいつも其覆ひから外に喰み出してゐます。斯くの

如く、我々は、毎晩、毎晩、凍つてゐるのです。蚤、虱、他の毒蟲は、澤山ゐます。冬になると、我々は貧弱な羊の皮をつけるのですが、少しも暖かくはありません。そして、短い脚の長靴をつけるのです。斯様なものをつけて、我々は霜の中を外に出なければならぬのでした。

食物としては、パンとキャベツのスウプがあります。スウプは規則正しく、頭数に従つて、四半斤の肉が含まれてゐます。然し、彼らは、腸づめの肉を入れるので、私はまだ一度も生肉の一片にもありついたことはありませんでした。祭日には、ボリツヂが出ますが、殆どバターはついてゐません。断食日には、キャベツの外に何にもありません。私の胃は全くこなぐになり、不消化から、私は苛責の苦をしました。凡べて斯う言ふことから、あなたは、あそこでは金がなくしては、全く生きることは出来ないことを一人て御解りになりませう。もし、私が少しも金がなかつたら、私は儘かに死んでゐたのでせう。誰しも、斯様な生活を堪へ忍ぶことは出来ません。然し、凡ての囚人は、いろ／＼の仕事をし、それをうつて、その中から、ほんの僅か、數ペンスを儲けるのです。私は時々茶をのみました。そして、自分で肉の一片を買ひました。それは私の救ひでありました。喫煙しないでゐることは不可能です。何故と言つて、さうでもしなければ、悪臭が人を息づまらせるでせうから。凡べてこれらのことは、將校の背中の後で行はれるのです。

私は屢々、病院に這入りました。私の神経は非常に亂れたので、私は何だか癲癇の發作を起しました。——けれども、それは、度々ではありませんでした。私はまた足に、リウマチを起しました。然し、それを外にしては、私は健康です。斯うした不愉快のことに加へて、自分で本を得ると言ふことが殆ど不可能

のことがありました。そして、其を得たにしても、其を内證で讀まなければなりません。私の周囲の凡ては、絶えず、悪意と、騷動と喧嘩があります。それから、永久止むことのない探偵、そして、一瞬間たりとも、一人であることは不可能でした。四年の長い間、變りなくさうなものでした。私は幸福でなかつたと申上げて、あなたは信じて下さるでせう。のみならず、自分の身體に鐵鎖や、無上の精神の壓迫と言ふ刑罰をひきづつてゐると言ふ永久變らぬ恐怖の生涯の繪巻を御覽になれるでせう。

是らの四年の間、私の魂、信仰、心、精神のなかに、どんな變化が行はれたかと言ふことは、お話しやうとは思ひません。それは長い話となりませう。でも、永久の自己集中、辛辣な現實から自己の中に逃げこんだことは、その事實を結びました。私は今迄考へたこともない新しい多くの要求と希望とを、今得ました。然し、凡べてこれらのことは、あなたに取つて、純粹の謎でありませう。そこで、私は、他のことに終らうと思ひます。私は只一言を言ひませう、私を忘れないで下さい。そして、私を助けて下さい。私は本と金が必要です。どうぞ、後生だから、それらを私に送つて下さい。

オムスクは、悩むべき穴です。こゝには、殆ど一本の木もありません。夏は、砂嵐をもつてくる熱と風——冬には、吹雪。周圍に、國らしい所は、殆ど少しも見えません。此處は塵だらけで、殆ど、排外的に軍隊ばかり住居を構へ、極端に淫蕩です。私は普通人民のことを言ふのです。私がこゝで、ある人間らしい所を發見しなかつたとしたら、私は全く犬の所に行つたらうと思ひます。コンスタンチン・イヴノキツチ・イヴノフは、私に取つて兄弟の様であります。彼はどうかして私の爲に出来るあらゆることをしてくれます。私は彼に金を借りました。彼が、ベチルスブルグに行つたならば、宜しく御願ひします。私は彼

に二十五ルウブル借りてゐます。彼の親切、私の凡ての要求を實行する爲に常に喜んでしてくれたこと、兄弟のやうな私に對する彼の注意と世話に、どうして報ひることが出来ませうか。そして、斯う言ふ風に私が感謝しなければならぬ人は、彼一人のみではないのです。兄上、此世には、本當に澤山の立派な性質をもつた人々が居ります。

私は、あなたの沈黙が私を屢々苦しめたとかう言ひました。あなたの送つて下さつた金に對して感謝します。あなたの次の御手紙で、(例へ、それが公然のものであつてもです。何故と言ふに、あなたと文通するのは、私に出来るか如何か解りませんから。——次ぎの御手紙で、あなたの凡ての仕事、エミリー・フィオドロヴナのこと、子供のこと、凡ての親戚及び知己のことを、出来る丈十分に書いて下さい。また、モスコウの人々のこともです。——生きてゐる人、死んでゐる人、そして、あなたの仕事、あなたがどの位の仕事でやり始めたか、其は利益あるものであるか、基本金があるか、また、あなたが、財政上、私を助けることが出来るか、一年にどの位、あなたは御送り下さることが出来るか、書いて下さい。然し、公式の手紙と一所に、金は送らないで下さい。——殊に、私が秘密の宛名を見出さなかつた時はです。今の所、凡ての小荷物の委託者として、ミハエル・ペトロギッチにして下さい。(御解りでせう、ねえ。)暫く少し金はあります。けれども、本はありません。出来るなら、今年の雜誌、又は、とに角、オチチェストエンニヤ・ザビスキを送つて下さい。けれども、私の至急に要するのは次のものです。私のいるのは、(是非いるのです。)昔の歴史家(フランス譯)と、現代の歴史家、ギゾオ、チェルリイ、チエエル、ランケ其他、國民的研究、教會の師父。最も安くて堅牢なるものを選んで下さい。折り返し、送つて下さい。人々は、私を、

オチチェストエンニヤ・ザビスキを送つて下さい。けれども、私の至急に要するのは次のものです。私のいるのは、(是非いるのです。)昔の歴史家(フランス譯)と、現代の歴史家、ギゾオ、チェルリイ、チエエル、ランケ其他、國民的研究、教會の師父。最も安くて堅牢なるものを選んで下さい。折り返し、送つて下さい。人々は、私を、

オチチェストエンニヤ・ザビスキを送つて下さい。けれども、私の至急に要するのは次のものです。私のいるのは、(是非いるのです。)昔の歴史家(フランス譯)と、現代の歴史家、ギゾオ、チェルリイ、チエエル、ランケ其他、國民的研究、教會の師父。最も安くて堅牢なるものを選んで下さい。折り返し、送つて下さい。人々は、私を、

セミバラチンスクで、どんな風になるか私は解りません。私は勤務のことは餘り氣にかけてゐません。けれど、私の氣にかける所のことはこれです——私の爲に努力して下さい、誰かと共に盡力して下さい。人々は私を一年か二年、コオカサスに移すことは出来ないものでせうか。それから、せめても、私は歐洲のロシアに居らなければなりません。それが私の最も切なる望みです。後生、それを許すやうにして下さい。兄上、私を忘れないで下さい。私は手紙をかいたり、あなたを咎めたり、あなたの本當の貧乏なのに我儘なことをします。でも、私のあなたに對する信頼は、消えはしません。あなたは私の兄です、そしていつも私を愛して下さい。私にはお金が入用です。兄上、生きてゆくには、何かなくてはなりません。斯う言ふ年月の無駄ではありません。私は金と本とがいます。あなたが私の爲に費されたものは、無駄になつてはゐません。あなたが私を助けてくださるとしても、あなたは子供のものを盗んだと言ふことにはなりません。私が生きてゐる限り、私は熱心にあなたにお返しませう——お、千倍にもして下さ。六年の中に、恐らくては、もつと早く、私は屹度、本を出版するの許可を得ませう。それは全く事柄を違つたものとしませう。けれども、今は、不注意には書きません。あなたはまた私から便りを御聞きに

なりませう。

兄上、我々は互にいつか會ひませう。私は九々の表のやうに、其を信ずるのです。私の心には見てがはつきりとしてゐます。私には、自分の全未來が見えます。私の爲しとける凡てのことは、明かに私の前に見てゐます。私は自分の生活に満足してゐます。私は只、人間と暴虐を恐れてゐます。私を好まない、(斯う言ふ人間がゐます。)私を絶えず苦しめ、勤務を厳守させて私を破る上官と、如何に容易く衝突したことでせう——何故と言つて、私は非常にもろいのです、勿論、軍人生活と言ふやうな重荷を忍ぶことは出来ません。人々は私を慰めて言ひます、『あいつらは全く單純な人間だから。』と。然し、私は、複雑な人間よりも、もつと單純な人爲を恐れます。そんな事柄では、どこの人でも正しい人です。牢獄の強盜殺人犯の中にも、この四年の間に、斯う言ふ人間を知りました。信じて下さい、彼らの中にも、深い強い美しい性質があつたのです。亂暴な外部の下に隠れた金を見出したことは、屢々私に非常な喜びを與へたのです。そして、それは、一度や二度の場合でなく、度々でした。あるものは、尊敬を起させ、あるものは、明かに美しいものでした。私は一人の若いサアカシア人に、ロシア語と讀み方を教へました。——彼は強盜殺人でシベリアに送られたのでした。彼は如何に私を有難がつてゐたことでせう。他の罪人は、私が彼にお別れを告げた時には、泣きました。慥かに、私は屢々彼に金を與へました。だがそれはほんの僅かなものでした。そして、彼の感謝は無限なのです。けれども私の性格は悪いものでありません。私の他のものとの關係には、私は不機嫌で、勘忍し切れませんでした。彼らは、其を私の惱が悪いのだとして、不平も言はずに、凡てを忍んでくれました。時に、牢の中で、私は何と言ふ多くの國民的なタイプの人と、性格

の人と親しくなつたことでせう。私は彼らの生命の中に這入つて生きました。それで、私は彼らを實際よく知つたと信じてゐます。澤山のごろつきや、盜賊の經歷は、我々の前に、裸かで横へられました。就中、普通民衆の一切の悪い生活がむき出しにされました。全く、私はあそこで、無益に時を過したのではありません。極少數の人々が知つてゐる如く、私はロシア民族を知るやうになりました。私は少しく其を誇りにしてゐます。私は斯様な誇りが許されべきものであることを望みます。

兄上、屹度、あなたの生涯に起つた一切の重大な出來事を話して下さい。セミバラチンスラへは公式の手紙を送つて下さい。そして、非公式の手紙は——何處へ送るかは、あなたは間もなく御知りになります。ペテルスブルグの我々の文學社會の知合のことを凡べて話して下さい。(出來る丈詳細にです。)そしてまた、モスコウの我々の親類のことも話して下さい。弟のコオリヤは如何してゐます。妹のサアシャは何をしてゐますか。(これは最も重要なことです。)伯父は尙生きてゐますか。弟のアンドレイは如何してゐます。妹のギエラを通じて、伯母に手紙を書いてゐます。どうぞ此手紙は極く秘密にして下さい。焼いて下さい。それは澤山の人々を傷けるかも知れません。愛する友よ。私に本を送ることを忘れて下さいませぬ。就中、歴史と、國民的研究と、オテチエストゴンニヤ・ザビスキと、教會の師父と教會史とをです。出來る丈、かはる／＼直ぐに來るやうにして頂きたいのですが、一時に皆は送らないで下さい。私は恰も自分の金でもあるかのやうに、あなたの爲めあなたの金を費してゐます。でも、それは、あなたの今の御境遇が私には解らないからです。あなたの事柄は十分に書いて下さい。さうすれば、私はあらし解るでせう。然し、兄上、斯う言ふことを注意して下さい。本は私の命で、食物で、未來なのです。どうぞ、私を捨て

ないで下さい。御願ひです。全く公然と本を送ることが出来るやうな許可を貰つて下さい。もし、それが出来なければ、兄弟のコンスタン・チンイブノギツチを通じて、その宛名の所に送つて下さい。時に、コンスタンチン・イブノギツチは、今年、ペテルスブルグに行くさうです。彼はあなたにあらゆることを物語るでせう。彼は何と言ふいゝ家族を持つてゐるのでせう。そして、何と言ふ妻でせう。彼女はうら若い女で、十二月黨アンネコフの娘です。斯様な心、斯様な性向——彼らがどんなことをして生活してゐるか考へて下さい。私が一週間の中に、セミバラチンスクへ行つたら、新しい隠れた宛名を見つけることに盡しませう。私はまだ丈夫ではありません。そこで、こゝに暫く止つてゐなければなりません。(私にコオラン經とカントの「純粹理性の批判」を送つて下さい。)そして、あなたに、公式でないものを送つて下さる機会があるならば、屹度、ヘエゲルを送つて下さい。——だが、殊に、ヘエゲルの「哲學史」です。私の全未來はこれにかゝつて居ります。どうぞ、私をコオカサスに移して貰ふやうに盡力して下さい。私が本を出版されることを許されるか如何か、如何にして此許可を求めていゝかよく事情を知つてゐる人から尋ねてみて下さい。私は二三年の中に、許可を得ることを試みたいと思ひます。私をそれまで助けて下さるやうに願ひます。金がなければ、軍隊生活では、破滅してしませう。どうぞ。

恐らく、始めの中は、他の親類も私を助けやうとしてくれるのでせうね。とにかく、彼らはあなたに金を送る事が出来ました。あなたは私に送つて下さるでせう。叔母とギエラの所に手紙をやりました。だが金を送つてくれとは言ひませんでした。彼らがほんとうに私のことを考へてくれるなら、私には金がいゝことを、養は一人で養ひてくれませう。フイヨチゴフは、セバヌゴオラへ、立つ前に、書に二十五

ウブルの金をくれました。彼は司令官のナボコフの所に其をおいて行つてくれました。そして、私は前に其について何にも知りませんでした。彼は私には金がないと思つたのです。親切な人よ。流刑されても我々の運命は、そんなに悪くならないものです。トオルは年限を終つて、今はトムスクに全く落ちついて生活してゐます。ヤストルチエムブスキイは、タラに居ります。彼の年限も終に近いてゐます。スピエチユンオフはイルクツク政廳に居ります。彼はそこで、將軍の愛と尊敬を得て居ります。此人の運命は不思議なものです。彼が姿を現はす何處でも、どんな境遇の所でも、最も近づき難い人々も、彼に名譽と尊敬を示してくれます。ペトラチエフスキイは、今生きて居りますが、心が普通と變つてゐるやうです。モンベリとルウフは健康です。哀れなグリゴリエフは全く氣狂ひとなつて、病院に居ります。あなたは如何して居られますか。ブレチエイエフ夫人に今でも度々會ひにお出でになりますか。彼女の子供は、何をしてゐます。こゝを通つて行つた囚人から、私は彼が生きてゐて、オルスクの要塞にゐることをききました。そして、あのゴロギンスキイは、久しくコオカサスに居ります。あなたの文學はどうになりましたか。あなたの文學に對する興味はどうです。あなたは何か御書きですか。クラエフスキイは如何してゐます。あなたと彼の關係はどうです。私はオストロフスキイは好きません。ビセムスキイのは何もよみません。ドクユシコンは嫌ひです。ウ、ジェユイ・テユルは嬉しかつた。クレストフスキイも亦好きです。

私はもつと書かうと思ひました。だが、此手紙も書くことが困難であつた程、多くの時間は過ぎてしまつた。でも、實際、我々の關係はどんな點でも變つたと言ふことは出来ません。あなたの子供を接吻して下さい。彼らは叔父のフエチャを少しでも記憶してゐるでせうか。凡ての知り合ひに宜しく。だが此の

手紙は極秘にして下さい。さようなら、さようなら、親愛なる人よ。また手紙を書きます。恐らく會ふことが出来ませう。さようなら。私が書いたことを、凡べて注意して読んで下さい。出来る丈、しげく書いて下さい。(よしんば、公式のものであつても)私は算へることも出来ない程度々、あなたとあなたの御家族を接吻します。

あなたの

ドストイエフスキイ

追伸、あなたは、私が要塞で書いた、子供の物語、(譯者曰、彼の短篇、「小英雄」のことにして、一八五七年に、M—Yと言ふ匿名にてオチエストエンニヤ・ザビスキに發表されたり。)を御うけとりになりましたか。もし、其が御手許にあるなら、それをどうにもしないで下さい。誰にも見せないで下さい。一八五〇年に、「二重人格」のことを書いたチエルノフとは誰のことですか。また今度。

あなたの

ドストイエフスキイ

(譯者曰、此手紙はエセル、コルパアン・メエンの英譯より譯したるものにして、佛譯に載せてなければ、特に掲載したり。然れども、英譯の方は、一般に抄譯にして、ビヤンストックの詳しき譯と比較にならず。然れども、稍珍らしきもの多くのせたり。因みに、ドストイエフスキイの書簡集は、ドストイエフスキイの後の夫人より載せることを許されざるもの多く、全部を集めたるものなしと言ふ。)

Аじ人に

一八五四年七月三十日 セミパラチンスクにて

親愛な友の兄上よ、

あなたに御無沙汰して、二ヶ月になります。私はさうすることが出来ませんでした。それは不可能でした。だが、言つて下さい、あなたは如何して沈黙して居られるのですか。私はどれ程、あなたに手紙を送つたこととせう。あなたは、一月の手紙を除いて、最初のもの、第一本しか御返事下さらないのです。此御返事は、四月に書かれた第二の御手紙で、私は六月の始めにそれを受取りました。そして、私は尙あなたに其の御返事を出しませんでした。兄上、私は今まで殆ど暇がなかつたことをあなたに斷言致します。遂々、少しの暇を見出しましたのですが、もつといゝ機會が現はれてくるのを待つて、それを延ばして居りました。私はとりとめもなく、大急ぎで、あなたに書くことを欲しませんでしたから。今の私の仕事はどんなものであるか慥かにあなたは御存知で、また、察して居られるに相違ありません。演習、師團及び旅團司令部の檢閲、これらの檢閲に對する準備。私は三月にこゝに到着しました。私は隊の中にあつて、殆ど勤務を知りません。けれども、七月になつて、私は他の人々と同じやうに、檢閲を通過しました。そして、他の人々と同じやうに物知りとなりました。それがどれ程、私を疲らせたか、どれ程私が價を拂つ

たか、と言ふことは別問題です。然し、人々は、私に満足して居ります。有難いことです。屹度、こんなことは、あなたに面白くもないことでせう。だが、私が、絶対に忙しいことを御知りになつたでせう。人が何を書いても、手紙では何にも説明出来ません。これら凡てが、如何にあなたに不思議に思はれるにしても、兵卒となつてゐることは遊戯ではないこと、あらゆる義務を持つてゐるので、兵卒の生活は、斯様な健康を授けられた不馴れな人間にとつて、また、こんな仕事にこれ程無智な人間にとつて、容易なものではないことを御知りになるだらうと思ひます。之に馴れるには、大變な骨折りがいります。私は不平を言ひません。それは私の十字架です。私はそれに慣したのです。少くとも、數行でも御書きしなければならぬので、私はこんなことを言ふのです。斯う云ふ中で、私には實際、生きるには餘りに多くの苦痛があります。それで、他のことは書かず、人が自分のあらゆる手紙に返事を待つてゐるとしても、この時日は、恐らく、三月にもなるだらうと言ふことを考へて下さい。如何して其を忍ぶことが出来ませうか。私にとつて、あなたから來る手紙は、どんなに重大なものであるか、あなたは御存知です。人々が訪問を豫期してゐるやうに、我々は、手紙を期待してゐるやうと言ふのですか。互に會はなくなつてから、こんなに長い時が経つたのです。我々が文通しなくなつてからも、こんなに久しくなつたのです。私はとうとう妹のヴレンカとキエロツチカの手紙を受取りました。彼女達は天使です。彼女達が言つてゐるやうに、彼女達が私を愛してゐることは慥かだと思ひます。ヴレンカは非常に親切に書いてくれました。彼女の凡ての魂が、此面白い手紙に反對してゐます。私は彼女に第一便で返事を書かうと思つてゐました。だが、第三便になります。私はまだ手紙を延ばして居ります。私は非常に忙しいのです。小さい手紙にかゝはつてゐる

ることはされません。私の愛情と注意を如何に彼女に現はすべきか解りません。主よ、彼女達に祝福を賜へ。

今、あなたは私の重なる仕事を御知りになりました。實際を言ふと、勤務の外には、これと言ふ仕事もないのです。外部の事件もなければ、生活の悩みもありません。怪我誤ちもありません。然し、魂の中、心の中、精神のなかに起つた所のこと、――芽を出し、實のり、萎み、麥と共に再び芽を出した所のもは言はれて居りませんし、紙の一端に語られても居りません。私はこゝでは、孤獨に生活して居ります。私はいつものやうに隠れて居ります。のみならず、五年の間、私は監視の中にあつたのです。それは、時として、私にとつて、一人ほつちでゐることは最大なる愉快でありました。一般に、監獄は、私の中の多くのものを破壊しましたが、また、多くのものを孵化させました。例へば、私は、あなたに既に、病氣のことに就いて言ひました。不可思議な發作で、癲癇に似たものですが、癲癇ではありません。私はいつか詳細に書くことにしませう。

のみならず、私は、最近、ペテルスブルグにゐた時と同様、陰鬱で、疑ひ深いと御想像にならないことを御願ひ致します。一切のものは全く過ぎ去つて了ひました。のみならず、我々を導かれたのは神であります。私は弟のニコラスが一寸書いて寄こしたのを感謝してゐます。私は彼に書いて送らうと思ひましたが、尙ほ、時を待つてゐるのです。彼が、哀れな不幸者の私を許してくれますやうに。彼が何かすることは慥かで、私の心に非常に親しからんことを、私は最も熱誠に彼を思つてゐるのです。私の代りに彼を接吻し、私の宜しく言つてゐることを傳言して下さい。また子供達を接吻して下さい。私からエミリー・フィ

オドロツナに宜しく言つて下さい。私は時々、一八四九年の年を、あなたが捕へられてゐた彼女が二月月只一人で過して居られたことを、怖ろしく思つて居ります。彼女は御健康ですか。今は満足して居られますか。監獄で、私は過去や未來のことを、澤山、考へては考へぬきました。殊に、私はあなたのことを思ひました。ある追憶は、私に痛みを起させ、苦みを起させますが、私は其を追ひ拂はうともしません。苦みそのものでさへも、私には甘いやうに思はれます。

妹のサアシャに私から宜しく言つたと言つて下さい。彼女を接吻し、私からの祝福を述べ、何か楽しいことを言つて下さい。一般に、親切に私のことを話して下さい。彼女に私から澤山のくゝ幸福を祈つてゐたと言つて下さい。

愛する人よ、あなたは金のことを言つて、私が必要か如何かと言つて下さる。だが、あなたは、私の境遇をよく御存知です。あなたが送つて下さることが出来るなら、送つて下さい。でも、あなたは、私の只一つの希望です。私はあなたの外に頼りにする人はありません。

兄上、御別れです。あなたのことをもつと書いて下さい。殊に、あなたの御健康は如何か、あなたの子供は、どんなに育つたか書いて下さい。友よ、さようなら。私の手紙はこれに終わりました。私は澤山書きませんでした。五年間も會はずに、手紙の中で生活することは、悲しいことです。今度は、あなたにもつと澤山書きませう。もつと屢々書きませう。だが、あなたの方でも、大急ぎで返事を下さい。さようなら、また今度。

あなたの弟の

フイオドル・ドストイェフスキイ

弟のアンドレイ・ドストイェフスキイに

一八五四年十一月六日 セミバラチンスクにて

非常に親切な親愛な兄弟よ、

九月十四日付の御前の御手紙は、十月の末私に到着した。尊き友よ。私は一便の外は遅らさないで、大急ぎで手紙を書く。第一にお前が知らせをくれたこと、私のやうな哀れな不幸者をお忘れないことを、感謝する。お前の手紙がどの位、私を喜ばしたか、お前は信ずることは出来まい。我々一家の中で、誰も私を忘れてはゐない。誰れもが例外なく私に書いてよこした。誰も、例外なく、私の運命に對して、最も眞誠な最も熱心な掛念をしてくれる。一切の斯様な撫愛、斯様な兄弟のなつかしい情誼に馴染まない私には、これが本當の幸福である。私が新生涯を始めてから間もなく十ヶ月にもなる。かの四年は、私は生き乍ら地中に葬られ、棺の中に閉ぢこめられてゐたかの如く思はれた。如何に恐しい時であつたらう。我友よ、私はそれを語る力を持たない。各時間、各瞬間は、私の魂を重く押しつけて、其は筆紙に盡し難い苦痛であつた。此四年間、一瞬間も、私は自分が牢獄につながれてゐることを忘れてゐる暇はなかつた。然し、そんなことは語るのを止めやう。私がお前にこんなことを書いたのは、お前が、あの時の私の生活がどん

なものであつたか、まだ考へてみたことがないであらうと思ふからだ。自分自身で其を見なければならぬ。敢て味へと言ふのではないが。然し、此時は過ぎ去つた。今は恐ろしい夢のやうに、其は私の後ろにある。

昔は、監獄を出ることが、私には、美しい眼ざめで、新生涯に復活することであるやうに思はれた。此間は、私はお前から何にも使りを聞かなかつた。私はもぎとられた木の葉のやうなものであつた。監獄から出ると、間もなく、我が忠實な兄で、友で、保護者であるミハイルから、手紙を受取つた。間もなく其後で、妹達が、同じやうな喜びを私に與へた。是らの手紙で、我が家族の皆のものと親愛の友なるお前に關する凡てのことを知つた。とう／＼お前も書いてよこしてくれた。同時に我が親愛なる義妹、ドメニカ、イヴノヅナは、親切な思想の恵みを私に與へてくれた。愛する弟よ、始めにお前に手紙を書かなかつたことを怒らないでくれ。これからは、屹度書くであらう。然し、我が新生活に於ては、澤山の心配と、澤山の困難に出會つたので、實際、今迄、自分の身をふりかへる丈の暇もない位であつた。勅令によつて、私は、第七大隊に居る。こゝでは、私には、新らしい心配、即ち勤務が始まつた。私の健康、私の力は、私を殆ど助けてはくれない。私は、全く、病氣になつて、監獄から出て来た。けれども、隊列勤務や、演習や、檢閲に従事しなければならぬ。私は、夏の間、非常に忙しかつたので、ろく／＼眠る時も見出せなかつた。然し、今は少し馴れた。私の健康も少しよくなつた。そして、希望を失はないで、未來を、かゝりの勇氣を以て見つめてゐる。だが、自分のことは十分話した。もつと面白い外のことを話さう。

第一に、話しぶりによつて、お前が幸福である様子なので、私は筆紙に盡し難い程嬉しかつた。私は

前の結婚を祝す。例へ、それがもう四年も経つてゐるけれども、私は、家庭にある幸福よりも、何物も傑出したものはないと常に考へてゐた。私は、限りなく、眞誠に、お前がさうであることを望む。お前の運命は、穩かな謙讓な確乎たる生活を持つことである。それはすてきなものだ。私が、全生涯にしたやうに、むやみに、右や左へと、道を逸つてゆかねばならぬことは、苦しいことである。人々は、我々の弟ニコラスのことを澤山書いてよこした。彼も、私宛に來た凡ての手紙に、一言書いてよこす。我々は、出来る丈、兄のミハイルと文通すべきものだ。だが、手紙は、ロシアまでは、非常にゆつくり、二月もかゝつて、行くのだ。親愛なる弟よ、それで今日の此手紙は、やつとクリスマス時分にお前はうけ取る譯になる。私の妹のサアシャに丈、私はまだ手紙をやらない。例へ、兄弟の手紙を通じて、宜しく言つてくれと言つたけれども、彼女は私に書いてよこさない。私は敢て書かうとはしない。私が、全く不安な境遇に居るので、私がかか利する所があつて、彼女を求めると彼女は信ずるかも知れない。私は彼女のことは話さない。然し、まだ私は知らないが、彼女の夫のことは噂してゐる。けれども、私は書くだらう。この最後の言葉は、二人の間の話丈にしてくれ。弟よ、さようなら。度々書いてくれ。私を忘れないことを有難く思ふ。そして、私も、お前のことお忘れはしない。

お前を愛する兄

エフ・ドストイェフスキイ

私の親愛な慥かに可愛らしいに違ひない姪のエヅとマリアを、私に代つて直ちに接吻することを忘れないやうに、どうかお願ひする。

義妹のドメニカ・イヴィヴナ・ドストイェフスカヤに

一八五四年十一月六日 セミバラチンスクにて

親愛なる義妹よ、

あなたが、私に只、兄と言ふ名を書いて、斯様に骨肉の愛に満ちた親しい手紙を送つてくれたことは、言ひ難い喜びを私に與へた。斯くして、私はもう一人の新らしい妹を持つたことを悟つた。その愛すべき情ある心は、私に同情も利益をも拒まうとはしないのだ。其が私には、二重に愉快なものである。斯様な親類と知り合ひになつた樂しさ。また、彼女が私自身の弟の妻となつた樂しさ。我々の間に、斯様な感情と思想の交換の中には、何か不思議なものがある。即ち、我々が決して會ふことがなからう、我々が決して訪ね合ふことはなからうと言ふこと、——少くとも、奇蹟が私の運命にやつてこない限りは、神が私に對して其をなされない限りは、さうなのである。それで、本國で親しい凡てのものに對して、名殘惜しさ、ノスタルジイ、悲觀を如何して感じないことがあらう。あなたの手紙を読んで、其は私をうつとりさせた輝かしい感情を暗くする名残り惜しさである。神があなたに、あらゆる幸福と喜びとを與へ給はんことを。私は兄妹として其をあなたに祈る。何故と言ふに、あなたはもう私には妹のやうに親愛なもので、近いものであるから。私はあなたの御手紙には、もう一度感謝する。私が愛するが如く、あなたも愛して下さい。

忘れないで下さい。

あなたの忠實な兄弟

エフ・ドストイェフスキイ

兄、ミハエル・ドストイェフスキイに

一八五五年五月十四日 セミバラチンスクにて

親愛なる兄にして尊き友よ、

私はあなたの一月二十六日及び三月二十一日付の手紙を受取りました。私はまた、あなたの送りものに對して、眞心から感謝致します。それは全くいゝ時機に來ました。でも、私は斯う自白しなければなりません——そして、此自白の爲に、御怒りにならないやうに御願ひ致します——それは、私はあなたから手紙をうけとる望みを殆ど捨てたのです。それは言ふべきことではありません。あなたの此前の前の手紙の日附、十月三日から、今まで——何にも、一行もお書きにならないのです。どんなことが、私の考へに浮んだことでせう。第一はあなたの御健康です。私は考へました、あなたは重い病氣にかゝつたのか、それとも、おなくなりになつたのだと、私は全く確信したのです。あなたは、私がたやすく惱みもだえることを御存知です。私は如何に苦しんだことでせう。

然し、幸ひに、春になつて、あなたの廣告がつてゐた新聞を見る機会を得ました。そこで、また他の考へが私を苦しめました。それは、あなたの商賣上の仕事の状態です。そこで私は斯う思ひました、それをお止めになることが出来ないならば、または、それを御話になることをなさらないならば、それは悪くなつてゐるのだと、兄上、思つて下さい、あなたが私に十分のこととはしてゐる、私に只義務的な手紙を聞いてゐらつしやるとは、只の一度も私は思つたことではないのです。私はあなたの傑れた心を決して疑がつたことはありませんでした。私は妹のブレンカに手紙を書きました。彼女も亦久しい間手紙をよこさなかつたのです。(そして、他のものも、全く書くことを忘れて了ひました。)あなたは恐らく私をお忘れになつて了つたのであらう、そう思ふと、どんなに苦しかつたこととせう。然し、斯う言ふ言葉をひき出したのは、苦痛なのです。怒つて下さるな。私は餘りに苦痛を持ち過ぎてゐました。あなたの御仕事がうまく行つてゐるのを非常に嬉しく思ひます。兄上、それを怠らないで下さい。それはあなたの御家族の唯一の望みです。あなたが御家族に就いて仰つたことを、喜ばしく讀みました。あなたの子供に對して、私は如何に嬉しく思つたとせう。私が彼らから恰も離れてゐないかのやうに、愛してゐます。マアシャが美しくないと云ふことは信ずることは出来ません。それは不可能のことです。もつと他の手紙で、モスコウのことを書いて下さい。あなたが彼らと共に仲よく、伯父伯母の所で款待されてゐられるのは、何と言ふ嬉しいこととせう。ねえ、彼らの生活状態に關することを凡べて詳細に書いて下さい。(即ち、伯父に關することです。)彼らは何をしてゐます。我々の新しい親類、ゴルフスキイ・イヴノフを、出来る丈詳しく知らして下さい。彼らのことに就いて特別な詳しいことは、あなたから何も聞きませんでした。私の生活のこと

は何をあなたに話させう。私は日に／＼益々悪く生きてゐます。私の健康は、餘りよくありません。その爲に、私の生活は美しいものではありません。大分、間をおいてすけれども、いろいろの發作が私を去りません。だが、それはするぶん不愉快なものです。今、私は勤務に従つてゐます。私のことをこんなに少く書いたとて、御怒りになつてはいけません。

エミリイ・フィオドロヴナは如何してゐますか。

神が彼女にあらゆる幸福を出来る丈御授けにならんことを。さて、兄上、私は一生涯、あなたの御厄介となりました。私はあなたの債務者です。何と言ふ運命とせう。私を御見捨て下さらないので、有難う、有難うございます。あなたがらつしやらなければ、私はどんなになつたこととせう。

友よ、さようなら。私が愛するやうに愛して下さい。

あなたの

エフ・ドストイェフスキイ

マリア・ドミトリエヴナ・イサイエフ夫人に

一八五五年六月四日 セミバラチンスクにて

親愛なる忘れ難き友、マリア・ドミトリエヴナよ、(譯者曰、イサイエフの死後、ドストイェフスキイの

妻となりし婦人。第一の妻たり。)旅行中にあなたの親愛な御手紙に接して、非常の感謝を捧げます。あなたとアレクサンドル・イヴノギッチ(譯者曰、彼女の夫イサイエフのことなり。)が、私にあなた達を友と呼ぶことを許されんことを望みます。我々は慥かにこちらでは親友でありました。そして、いつまでもさうであることゝ信じて居ります。單なる別離が我々を變へるものでせうか。そんなことは信じません。何故と言ふに、親愛なる友達よ、あなた達との別離が、私の心を非常に重々しく壓しつけるので、そのみで、私は如何にあなた達に密着してゐたかを判することが出来ます。また想像して下さい。これはあなたに書く第二の手紙です。親愛なるマリヤ・ミトリエヴナよ、あなたのならぬ真実ある手紙に對して、至急便で返事を書いて、出さうとしかけました。でも、私は其を送りませんでした。アレクサンドル・エゴロギッチ(譯者曰、ヴランゲル男爵のことにして、裁判所判事たり。セミバラチンスタにてドストイェフスキイと親しく交れる人なり。)は、其を郵便局に持つてゆく筈でしたが、此前の土曜日、全く突然に、スミエフに向つて去りました。そして、私は日曜まで彼の出發したことを聞きませんでした。彼の女中は、同時に、二日間も姿を消してしまひました。手紙は私のポケットに残つてゐるのです。運が悪かつた。私は今再びあなたに書いてゐます。もし、此の手紙がまた出されるものか如何か知りません。アレクサンドル・エゴロギッチは、まだ歸つて來ません。だが、人々は、彼に特別の使者を送りました。

こゝで、我々は、一時間ぐいと、司令官の來るのを待つてゐます。多分彼は到着したことだらうと思ひます。彼はこゝに五日間を過すと云はれて居ります。でも、それ丈で澤山です。如何して、あなたはクズネズクに着きましたか。道中恙がないことを望み祈つて居ります。あなたは、がっかりして病んでゐる

ときへもお書きになつた。それで、私は最もあなたのことを心配してゐるのです。單に動いた丈で、あなたに、斯様な悩み、斯様な避くべからざる不愉快をひき起すのです。尙それに、病氣までつけ加へてくるのです。如何して、それを凡べて忍ばうとしてゐられますか。私はあなたのことの外何物も考へません。あなたは、私が如何に苦勞性であるか知つてゐます。それですから、私の心配を心に描くことが出来ませう。あゝ、あなたは、——如何なる社會に出ても、飾りとなるに違ひないあなたは——いろんなつまらない心配をして反對を受けて、こんな運命をうけることには償ひないのです。咀ふべき運命よ。私はあなたの御手紙を待ちこがれてゐます。此郵便で直ぐくるといふのだが、私は来たか如何かと知る爲に、何度も行きました。でも、アレクサンドル・エゴロギッチはまだ歸つて來ません。あなたは私が如何して時を過してゐるか御聞きになる。私はあなたがなくて、如何して時をすごすことが出来ませう。二週間も、私は自分で如何していか解りませんでした。それ程私は戀しく思つたのです。あなたが只、如何に私が一人ほつちになつたやうに感じてゐるかを知られたら。其は、丁度、一八四九年、私が逮捕され、牢屋にぶちこまれ、私の愛し尊んでゐた一切のものから身を引きさかれた時のやうです。それ程、私はあなたにひかれてゐたのです。私は、決して、我々の交際を、只の知り合ひと見ることは出来ません。今、あなたが側近くなくなつた時に、私はいろんなことを悟り始めました。私は五年間全く人間との關係なく、暮しました。——全く一人ほつちで、自分の心を打ち明くべきもなかつたのです。だが、あなた達二人は、私を兄弟の如く取り扱つて下さつた。抑もの始から、私はあなたの家で、自分の家のやうに感じたことを覚えて居ります。アレクサンドル・イヴノギッチが私に親切であつたことは、自分自分の兄弟に對するより

も及ぶ所ではありませんでした。私はこんな堪え難い性格を以て、あなたに多くの迷惑をかけたのでしたが、あなたは私に對して姉妹のやうでありました。婦人で斯様な親切な仕方では私を待遇して下さつたと言ふ事實だけでも、私の生涯には、大事件です。何故と言つて、私がさう言ひ得るとすれば、男は最もいゝ人でも、屢々、鈍物となります。婦人の憐れみ、婦人の同情、我々のはつきりと認めることも出来ない程のその限らない深切、我々の鈍さを以てして、屢々注意することの出来ない親切——これらのものは、換へ難きものです。これらの凡てを、私はあなたの中に見出したのです。私の澤山の誤ちを見逃さへもして、あなたのなさつたより以上のことは、姉妹でも以上に親切に、巧みではありませんまい。我々が何か烈しい興奮を起したことがあるとすれば、それは常に私が忘恩者であつたからです。そして、あなたは苦に病んで、激して、傷けられた爲なのです。此忌むべき交際家が、あなたを尊びもせず、理解もしなかつたから、あなたは傷けられたのです。そして、あなたのやうな精力を以てしては、誰でも、凡ての不正に對して反抗せずにはゐられません。そして、その反抗は、高貴なもので威嚴のあるものです。こゝに、あなたの根本的な性格の特徴があるのです。苦痛と、境遇とは、自然々々、あなたの中の多くのものを歪がめました。——けれども、あゝ、どんなに高い高利貸のやうに利率を以て、いつもかゝる誤が償はれたこととせう。そして、私はいつも馬鹿者ではありませんでしたから、それを認め、尊んでゐたのです。一口に言へば、私は自分の家と同様、あなたの御家を受してゐたのです。——私はその外にどうすることも出来なかつたのです。私は、あなた二人を決して忘れは致しません。そして、永久に有難く思つて居りませう。何故と言ふに、あなたの中の誰もが、あなた達の私に對してなされた、凡てのことを少しも念頭に思

つて居られたいと信じてゐるからです。あなた達のやうな人々は、本當に、如何に私に必要なものであつたとせう。私がおもひ、あなたと會はなかつたら、私は恐らく、木石となつて了つたであらう。しかし今、私は再び人間となりました。だが、これと言へば澤山です。手紙のなかでは、何にも、言ひ表はすことが出来ません。私は此手紙を咄みます。何故と言つて、これは、私達の別れを思ひ出させますから。あらゆるものが、私に其を思ひ起させます。夕方になつて、あなたの所へいつも行つた時分になると、悲みが襲つて来て、如何しても泣くまいとつとめまされども、泣くのです。そして、あなたが私の涙を流したことをお笑ひになるまいと思つてゐます。とにかく、私の心は、その愛し尊ぶ凡てのものが、心のなかに深く根ざしてゐる程、よく組み立てられてゐるのです。そして、それがちぎりと取られると、傷と苦みを引き起します。私は今、淋しくこゝに住んでゐます。自分で自分をどうしていゝか解りません。あらゆるものが、私に取つて汚されてゐるのです。恐しい空虚です。今は只、アレクサンドル・エゴロギッチがあるのみです。然し、彼と一所になると、私はいつも悲しくなるのです。何故と言つて、常に、私は無意識に彼と私とを比較するからです。それがどう言ふ結果か、あなたは容易に想像することが出来ます。とに角、彼は今外へ行つてゐます。彼の留守の間、私は二度カザコフの庭園へ行きました。それ程、私は悲しく感じてゐたのです。哀れな親愛なるあなたが、新鮮な空氣を呼吸する爲に、田舎に逃れたいと言ふ只一つの望みを起された時のこと、昨年夏のことを考へると、——私には大きな悲みが湧いて來ます。そして、恐ろしくあなたをお氣の毒に思ひます。我々が——あなたと、アレクサンドル・イヴノギッチと、私とエレナとが——嘗て如何にカザコフの庭園に行つたか覚えてゐらつしやいますか。私が再びそこに行つた時

に、その感じは、いかに烈しいものでしたらう。庭園のなかでは、何物も變つて居りません。我々が座つた席すらも、そこに其まゝ立つて居ります。……そして、私は非常に悲しく感じたのです。あなたは、私がウランゲルと一所に暮してゐると想像して書いてゐられる。然し、私はそんなことをするのを欲しません。何故と言つて、其れに反對するいろんな大きな理由があるのです。第一、金の問題です。私が彼と一所に暮したら、家賃や、下僕や、食物に、勿論、澤山の金を費さなければなりません。何故と言つて、私は彼の金で生活することは欲しませんから。第二に、私の性格です、第三に、彼の性格です。第四に、彼は、あらゆる種類の人々の訪問をうけてゐることに気がつきました。私は社交から身を閉ぢこめやうとは言ひませんが、私は見知らない人々を忍ぶことが出来ません。最後に、私は寂寞を愛してゐるのです。私はそれに馴れてゐます。そして、習慣は第二の天性です。之丈で澤山。實際のところ、私はまだ何にもあなたに話しません。あなたを森の所まで見送つて行き、松の木(私の印しをした)の下で、お別れをした後、私はウランゲルと腕を組んで(彼は馬の手綱を引いて歩いたのです。)ベチエチヨノフの楽しい住居に歸つて來ました。私が始めて心の淋しいことを知つたのは、そこへ行つた時でした。始め、私にはあなたの旅行馬車が遠くに見えましたが、次に、只、聞えるのみとなりました。そして、遂々、全く行つて了つたのです。我々は四輪馬車にのつて、あなた達二人のことや、如何してあなたが旅行に堪へられるかなどと噂さし乍ら座つてゐました。そして、其時、ウランゲルが、私を非常に喜ばす何事かを言つたのです。あなたの出發の日、朝早く、ビオトル・ミハイロギツチが、何處かで一所に夜中を過したいと思ふと言つたやうでした。ウランゲルは、それを拒みませんでした。ビオトル・ミハイロギツチがどうしてですときくと、「私は

イサエフを見送りに行かなければなりませんから。」と、彼は答へました。その時、他の人々が若干のまじりた。ビオトル・ミハイロギツチは直ちにきゝました。「それぢや、あなたは、あの夫婦と非常にお知り合ひなのですか。」ウランゲルは、幾分か固くなつて、彼があなたを暫く知つてゐたこと、だが、あなたのお家が最も愉快な一つであること、そして、その女主人が——それはあなたのことです——ベテルスブルグにゐる時以後、彼女に匹敵すべき婦人は一人も見當らないやうな人であり、恐らく今後も再び見ないであらうと言ふことを答へたのです。「あなたはやうな婦人は、決して見ることが出来ません。」と、彼はつけ加へました。「そして、私は彼女と知合ひになつたことを最大の名譽と考へます。」と。

此ウランゲルの物語は、私に非常な喜びを與へました。上流社會の婦人を知つてゐる人、(斯う言ふ社會に彼は生れたのです。)で、あのやうな人の意見は、全く決定的のものであると思ひます。このやうな事を話し乍ら、絶えず、ベチエチヨノフ家のことを絶えず悪く言つたりなどして、我々は朝日の出る頃町につきました。そして、御者は、言ひつけもしないのに、私の家に眞直に我々をつれて來てくれました。斯うして、出た茶も飲み終わりました。私はそれが非常に嬉しかつたのです。何故と言つて、私は只一人であつたからです。私は家に可なり暫くの間止り、室の中をあらちちら歩るき、日の出を見たり、過去の年月が、私にとつて、こんなに速く過ぎ去つたのを思つたりしました。其日から、私は「放浪のユダヤ人」のやうに、愛もなく彷徨し廻つてゐるのであるのです。私は殆ど何處へも行きません。あらゆるものが、怠屈です。私は一度 그리스チンの所に行きました。彼は、コバルに行くことになつて、今、家を疊んでゐます。(彼はギエルニイにも行くことになつてゐます。)私はモデルの所へ行きましたが、彼は私がやせたと

言ひました。シユリツチユカの所へゆくと（私の誕生祝ひに彼をつれて来ました。）ベチエチヨノフの人々に會ひまして、話をしました。私は折々、ビエリコフを訪ねました。そして、終ひに、練兵の爲、野營に行きました。私は時々病氣になります。韃靼人の案内者達が歸つてくるのを、如何に私は待ちこがれてゐるでせう。私は、始終、オルヂンスキイの所に行つて、其のことを何か聞き知らうとしてゐます。シロタも同じ様にします。私はまた一度あなたの家へ行きました。きづたは持ち去つて来ました。（それは今こゝにあります。）そして、孤兒のシユルカに會ひました。彼は、喜びに氣狂ひのやうになつて、私に挨拶に走つて来ました。でも、その家を去ることを信じてませんでした。やつと、案内者は戻つて来ました。私が無限に感謝するあなたの手紙は、私にとつて、非常な喜びでありました。私は韃靼人に多くの質問を發しました。彼らは私に澤山話しました。あなたを何物にも増して賞めました。（マリア・ドミトリエヴナ、誰でもあなたを賞めてゐます。）私は彼らに少しの金を與へました。次ぎの日、私はヴランゲルの家で、コプチオフに會ひました。彼も亦いろんなことを私に話しましたが、私は、最も私の氣をひくこと、即ち、あなたの旅費はなくなつて了つたかと言ふことは、尋ねませんでした。その質問は餘りに「擽ぐつたい」のです。此日まで、私は、どうしてあなたが旅行を終つたかを想像することが出来ませんでした。マリア・ドミトリエヴナ、あなたの手紙は、何と言ふなつかしいものでせう。私は丁度、こんな手紙を豫期してゐたのです。それは、全く詳しく書いてあります。いつも此のやうに私には手紙を書いて下さい。私には、あなたの祖母が、恰も私の目前にあるかのやうに見えます。悪い老婆です。如何に彼女はあなたに惱みを加へ、あなたの生活をつらいものにするのでせう。死ぬまで、あの小犬と一所にゐればよい。アレクサンドル。

イヴノギツチが、彼女一人で家に這入らせないやうに、遺言、誓書をして、彼女を出して了ふことを望みます。それが、彼女に最良の策として、認めるやうに彼女は作られてゐるに違ひありません。そうでなければ、三ヶ月の中に、手紙を書いて死ぬことを企てるがよいのです。（そして、毎月、千ルウブルを拂ふのです。）さう言ふ條件でのみ、あなたは彼女を家にいれなければなりません。本當に、あなたは、弱い健康を以て、あらゆる小犬に、かしづかなければならぬのでせうか。斯様な老婆は、全く忍び難いものです。あなたがヴランゲルにあてた手紙を読みました。——勿論、その一部分です。私は一度、エレナに會ひに行くことを禁ずることは出来ません。此哀れな女は、非常に淋しがつてゐるのです。あなたが途中で病氣になつたことを、私はするぶん悲しく思ひました。いつ、あなたから手紙を貰へますか。私は非常に心配です。着いた時は、お身體はどうでした。私は、アレクサンドル・イヴノギツチと強く握手します。そして、接吻します。彼が私に直ぐに書いてくれるのを望みます。私は友として兄弟として彼を接吻します。そして、こゝにゐた時よりも身體のよくなることを望みます。彼は、セミバラチンスクにゐたと同様、クズネズクでも、人々に對して無差別にやらうと思つてゐるのですか。凡ての是らの奴は、一所に結び、一所に食ひ、一所に飲み、それから、思ひ得る凡ての卑しさを取つてやる價值があるでせうか。そうして、人は、大きな眼を開いて、自分のことを侮辱します。何と言ふ憎らしい奴でせう。何と言ふ汚らしい奴でせう。人が彼らと一所に交れば、恰も卑しい太鼓屋に居るやうに、自分の魂が屢々汚されたやうに感じられます。私の希望と、私の忠告にアレクサンドル・イヴノギツチは、怒られないことを望みます。さようなら、忘れ難きマリア・ドミトリエヴナよ、さようなら。我々は、またお會ひませう。お會ひ出来ないでせうか。し

けんと澤山書いて下さい。クズネズクヤ、新しく御知りになつた人々や、出来る丈あなたのことを書いて下さい。私の代りにバアシャに接吻して下さい。(譯者曰、バアシャはイサフとマリヤの子なり。)さようなら、さようなら。——お、我々は何日またお互に會へるでせう。

フィオドル・ドストイエフスキ

(譯者曰、此手紙は、メエンの英譯より譯せるものにして、佛譯にはなし。)

ア・エ・ヴランゲル男爵に

一八五五年八月十四日 セモバラチンスクにて

親愛なるアレクサンドル・エゴロギツチ、第一に、私の手紙のこれから亂筆になるのをどうぞ御許し下さい。これが、亂れてくることは、前から信じてゐるのです。今、夜中の二時です。私はもう二通の手紙と書きました。私は頭痛がします。眠らうとしたいのです。そのみならず、私は全く心が顛動してゐるのです。今朝、私はクズチックから一通の手紙を受取りました。哀れな不幸者のアレクサンドル・イヴノヅチ・イサエフは死にました。私は胸がはりさける程、如何に其を悔んだかあなたは信することも出来ません。彼を認めることの出来たものは、恐らくこゝで、私が只一人でせう。

彼が缺點を持つてゐたとしても、それは彼の暗い運命が半分はその原因をなしてゐたのです。かゝる痛

悔を持つて、誰れが是以上の忍耐を持つてゐたか、知りたいものです。のみならず、如何程親切で、如何程眞に立派な心をもつてゐたこととせう。あなたは、彼を殆ど御知りになりません。私は、時々、にがい發作から、只、彼の悪い方面のみを、無用な熱中をもつて、あなたに喋つたのは、彼に對して、罪を犯したのではないかと恐れてゐます。彼は言ふべからざる苦痛の中に、立派に死にました。神よ、我々にもこんな死を與へ給へ。あるものにとつては、死は美しいものであるかも知れません。彼は妻や子を祝福しながら、彼らの運命を氣にしながら、しつかりとして死にました。不幸なマリヤ・ドミトリエツナ(譯者曰イサエフの妻にして、後にドストイエフスキの第一の妻となりし婦人なり)は、彼の死の最も小さい詳しいことまで報らせてよしました。彼女は、これらの詳しい思出は、彼女の只一つの慰めであると言ひました。最大の苦痛のなかに、(彼は二日苦みました)彼は彼女を呼び、彼女を腕でまき、「お前はどうかなるだらう、お前はどうかなるだらう。」と、常に繰り返してゐました。彼の運命が彼女に及ぼす不安のなかに、彼は、苦痛を忘れました。不幸な人よ。彼女は絶望して居ります。彼女の手紙のあらゆる行に、私は涙なしに讀むことの出来ない程の斯様な悲しみを認めます。そして、あなたも、彼らに對して赤の他人であつても、涙を流されるでせう、でも、あなたは、人情の深い人だからです。あなたは彼らの小さい子供のボオルを思ひなさいますか。彼は涙と絶望とで氣狂ひのやうになつてゐます。夜中でも、彼は床から飛び起き、聖像の方に走りつてゆきます。その中で、彼の父は、彼の死ぬる前二時間も彼を祝福し、膝まづき、母が父の魂の爲に言つてきかせる祈りを繰り返しました。人々は彼を貧しく埋葬しました。他國の人々が金をくれました。(善良な人々があるものです)彼女自身は悲みで狂氣になつてゐます。彼女は多く

の日、多くの夜、彼の枕元で過しました。彼女は今は病氣だ、眠ることが出来ない、一口も物を食べることも出来ないと言っていました。警察署長の奥様ともう一人の婦人が助けに来てくれます。彼女は、商人に負債ばかりしてゐるのです。ある人が彼女に貨幣を三ルウブルを送りました。『貧窮は私の手をさし延ばさせました——と彼女は書いています——そして、私は、施物を……受取つたのです。』

アレクサンドル・エゴロギッチ、もし、あなたが、数日前、セミバラチンスクにお在での時と同じ考へを御持ちになりましたら（私はあなたが立派な心をお持ちになり、このことに、何にも、関係のない些細のいろいろな原因で、あなたはいゝ考へを否定なさるとはないと信じてゐます）彼が彼女に常にやる手紙と共に、お話し申し上げた金額を御送り下さい。けれども、非常に親切なアレクサンドル・エゴロギッチ、繰り返し申し上げますが、今迄より以上に、此七十五ルウブル（二十五日前に）をば、あなたの契約した負債と思つて居りません。私は慥かに其れを御返しませう。だが直ぐにはありません。あなたの善良な心が、いゝ行爲をなす必要を感じてゐらつしやることを私はよく存じて居ります。……だが、それで斯う言ふことを御考へ下さい。あなたは彼らは、近頃お知りになつたばかりです。それが餘りに近頃ですから、哀れなアレクサンドル・イヴノギッチがあなたに旅行の爲、金を御借りしたにも係らず、彼女にそんなことを言ふのは、彼女に苦しい思ひをさせるのです。私の方では、彼女の爲めになるやうにあなたが望んで居られると、手紙で言つておきました。そして、あなたがゐなければ、私は何もなすことが出来ないのだと彼女に言つておきました。此善行があなたに幸福を與へるとか、人々があなたに感謝すると言ふやうな爲に、こんなことを書いたではありません。あなたが、そんなことを心にかけてられるには、あなたが餘りにキリスト教信

者であることを私は知つて居るのです。けれども、私は、人が私に感謝することを欲しません。何故と言つて、私はそれに償ひしないのです。あなたに至急お返してやらうと思つてゐますが、他人のポケットから金をとるのでから。——私はそれをいつか解らない時まで、御借りするので。

あなたが彼女に金を御送り下さる思召しがあるなら、私がまだ封じない此中の封筒に其入れて下さい。せめて數行でも彼女に書いて下さるならば、あなたは大変いゝことをなさるでせう。あなたが彼らを餘り御知りにならないことを是認して下さい。でも、あなたの債務者があります。今、彼女はあなたが金を下つたことを知ります。それですから、手紙をかく機會はありません。——どう御考へになりますか。多くなくても數行です。……けれども、あゝ、私はあなたに手紙を書くことを教へてゐるやうな気がします。さうです。アレクサンドル・エゴロギッチ、あなたが御助け下さる人に、どんな處置をなさるか、あなたは他人よりもよく御存知であることを私は知つて居ります。彼女に對してあなたは二倍も三倍もの尊敬を得られることになることを私は知つてゐます。あなたの世話をうける人に對しては慎重でなければなりません。それは非常に感じ易いのです。それは常に、人のしてくれた世話を返さうとするのに、やりつばなしの馴れ／＼しさを以てするやうに思はれます。あなたは、こんなことは凡べて私よりも御存知です。神があなたに常識と立派な心を與へてゐるが、我々はこれより外にすることは出来ません。立派な人は立派な振舞をしなさい。そして、あなたが立派な人であることを私は知つて居ります。

だが、私も、あなたの言葉によつて、あなたの經濟が、今は餘りいゝ状態に行つてゐないことを知つて

居ります。それで、あなたが彼女に金を御送りにたゞることが出来なければ、私の手紙も御送り下さいませ。私に返して下さい。あなたが手紙を送ったか如何かは、必ず御報らせ下さい。

彼は死にながらもあなたのことを考へて居りました。それはこのやうに思はれました。「借金を返へさうとあなたに申し出でやうとさへも思ふことは出来なかつた。だが、彼の紀念の爲に、あなたに本を御渡しするやうに欲してゐた。」と。(アレクサンドル一世の宰相)此豊な編輯をあなたは思ひ起しなされるでせう。彼はそれをペトロバヴロフスクから受取つて、そこに置いて來ました。あなたに其本は御送りするでせう。私はあなたが報せて下さつた宛名、バルナウル宛に宛て、あなたに書きます。でも、あなたがまだそこに御出でになつたか如何か存知ません。あなたは、二十三日後に、バルナウル宛に手紙をよこさなければならぬと御書きになつたやうな氣が致します。私はクルトフに託して大急ぎで送ります。クルトフに託していいですか。書いて下さい。あなたはどうしてゐらつしやいます。面白く遊んでゐらつしやいますか。時に、(一度ならず聞いたのですが)A……嬢が結婚したと言ふのは、本當ですか。金を御送り下さるなら、大急ぎして下さい。實際、此以上の危い瀬戸際はありますまい。

此手紙がバルナウルのあなたの所にゆくか若しくは、あなたの御到着を待つてゐるか如何かは解りませぬ。私は、同じ便で、マリア・ドミトリエヅナの所に書いて居ます。もう一つの手紙は大至急明日送りませぬ。あなたには、また土曜の便で御送りします。私はあなたが仰つたやうに、手紙を封じないでおきました。明日、クルトフが、月曜の手紙をもつてゆく暇があれば、私は同じく其らを一所に送りませう。さようなら。私は非常な頭痛がします。私はそれ程、顛動してゐるのです。私はやつとの思ひで筆をと

つたのです。私はあなたを真心から接吻します。

あなたの

ドストイェフスキイ

同じ人に

一八五五年八月二十三日、日曜 セミメサチンスクにて
我が親愛な善良なアレクサンドル・エゴロギツチ、

こゝに、第二の手紙を御送り致します。私はあなたから、せめて、二行の手紙でも受取りたいと思つてゐました。あなたは屹度さうして下さるでせう。即ち、あなたはあれを御送り下さるでせう。私はまたあなたと握手したいと思ひました。私は悲觀してゐます。私の周囲は、うまく行きません。そして、私は誰も人を見出せません。私は新らしく人と近づきになることを好みません。實際、新らしい人の顔をみる毎に、悲觀を抱かざるを得ないやうに思ひます。悲觀と戦はなければならぬでせう。その後、その人と知り合ひになることは出来るかも知れませんが。あなたは何をなすつてゐらつしやいますか。あなたは楽しく時を御過ごしになつてゐらつしやいますか。あなたは、バルナウルに御出でますか。私は危険を冒しました。私は最後の手紙をバルナウルに出しました。けれども、二十三日以後の外は、バルナウルに御出でが

ないと仰つたやうに思はれます。あなたは本當に今そこに御出でになりますか。今、あなたに御詫びをすることを許して下さい。私は自分の手紙をあなたに御送りすることは出来ませんが、あなたの御手紙は、デムチンスキイに頼みました。私は自分であなたの御送りすることは出来ません。その理由は非常に簡単です。書留の大きな小包は、郵便で高くとられます。そして、私は一錢も持つて居りません。それで、デムチンスキイが其任に當つた譯なのです。あなたが私に教へて下さつた宛名、バルナウルに、八日前私があげた手紙をお受取りにならないならば、(でも、あなたが御受取りにならないと言ふことはないのですが)私は、アレクサンドル・イヴノギツチ・イサエフが(八月四日)に死んだこと、彼の妻が、絶望して、助けをうける望がなくて此先どうなるか解らずに、即ち、金がなくて、只一人ほつちで居ると言ふことを申し上げます。彼女の夫の死以來、私は今日彼女から第二の手紙を受取りました。彼女は恐ろしく落膽してゐると書いてよこしました。人々が少しでも助けてくれるやうに、願つて来ました。彼女は全く辛い目にあつてゐるのです。彼女はどうしていゝかと私に言つてよこしました。彼女の代理人と警吏とが、彼女にベツクマンが政府の救助金を與へるかもしれないと言ふ望を起させました。(貨幣二十五ルウブル)どうぞ、如何かしてくれ、いゝのです。今の所、彼女は凡ての持つてゐるものを賣らうとしてゐます。(我々が話し合ひました通り)五十ルウブルを御送りなさうと言ふ御考へを御變へにならなければ、今其と送つて下さい。彼女達は決して其以上は要しません。只私はあなたが、五十ルウブルの代りに、二十五ルウブルでも御送り下さつた方がいゝと思ひます。何故と言つて、後の二十五ルウブルと、彼女の道具を賣つた額と、恐らく少しの救助金で、彼女は、暫く暮していけるでせうから。もつと後で彼女に送つた方がいゝか

も知れません。私は斯う言ふことを申し上げます。第一、其はあなたに餘り負擔をさせないやうにする爲でも、二十五ルウブルは五十ルウブルより少いからです。あなたも慥かに金が要るに違ひありません。第二に、始めの二十五ルウブルで大變叱られました。彼女は、私が何にも持つてゐないのだ、自分で自分のことを考へないのだと言つて、叱りました。私はその金はあなたに屬してゐるので、私のものではない、私のことは心配するに及ばないのだ、友情と言ふものは、それをする丈の権利があるものなどと言ふこと、そして、彼女は此金がなかつたら、非常に苦しい思ひをするだらうと答へました。——彼女はそれに同意しなければなりません。あなたが御歸りになつたら、私は彼女の手紙をお目にかけてませう。あゝ、何と言ふ婦人でせう。あなたが彼女を餘り御存知ないのは、残念です。

もう一言言ひます。彼女は金が彼女に送られたことを知つて、それが私ではないかと疑つてゐます。然し、今まで、手紙はクスネズクの郵便局にあります。受取人は彼女をよく知つてますけれども、困つたことの起らないやうにとして、彼女に其を渡さうとはしてゐません。それは宛名の爲です。御解りになつたでせう。彼女宛にしなければならぬのです。それは彼女の夫宛になつてゐるのです。夫は死にました。それですから、受取人は、あなたが之を御書きになつたこと、信じて、あなたがクスネズクの郵便局に、此手紙をイサイエフ夫に渡すやうに、特別委任状、若しくは、管理委託状を御出しになるやうに私に言つてくれと頼んで來てゐます。善良なアレクサンドル・エゴロギツチ、どうぞ、さうしてやつて下さい。殊に遅れないやうにして下さい。後生です。あなたは委任状の形式を御存知でせうね。私は知りません。バルナウルの郵便局には、屹度其型があります。クスネズクの郵便局の受取人は、何と言ふ解らない形式家で

せう。

私のことは何を申し上げませう。時間が長いやうに思はれます。私は餘り気分がすぐれません。悲しいやうな感じがします。支那人がチユグチャツクの我出張所を焼き、領事が生命を救はんが爲逃げのびなければならなかつたと言ふ外には、それは慥かなことだと思ひます。私は何にも新しいことは知りません。あなたが私よりも一萬倍も愉快で居られることを心から願つて居ります。あなたの御旅行中にいゝ本が見つかりましたら、御送りなすつて下さい。アレクサンドル・エゴロギツチ、さようなら。心から、御幸福を祈つて居ります。郵便局を忘れないで下さい。後生です、遅れないやうに。あなたと握手します。

すつかりあなたのもの

エフ・ドストイエフスキイ

あなたが五十ルウブルでなく、二十五ルウブル御送りなすつたと報らせておきました。彼女はあなたに感謝したいと思つて居ります。あなたは彼女に一筆書いて下さるでせうね。

アポロン・ニコライエギツチ・マイコフに

一八五六年一月十八日 セミバラチンスクにて

親愛なるアポロン・ニコライエギツチ、私は久しい以前から、あなたの御親切な御手紙に御返事しやうと

思つて居りました。私が、あの御手紙を読んだ時に、過去の思出は、私に浮んでくるやうに思はれました。あなたが私を御忘れにならないことを、無限に感謝致します。どう言ふ譯ですか解らないが、私には、あなたが私を御忘れにならないやうに、いつも思はれました。それは、恐らく只、私があることを忘れることが出来なかつた爲でもありませう。あなたは、多くの時が過ぎ去つて了つたこと、多くの物が變り、生れたと仰つた。さうです。さうであるに相違ありません。でも、一つのこと丈がいゝことになつてゐます。それは、人間として、我々が變化しなかつたと言ふことです。私は自分の爲に御返事します。私は、自分に關するいろく珍らしいことをあなたに書き送ることが出来ればいゝのですが。今、あなたに大忙ぎで斷片的に、また、恐らく不明瞭に書くでせうが、怒らないで下さい。これ程の年月がたつた後に、一帖の紙のみならず、五十帖の紙でも心を打ちあけて書くのは不可能であると御書きになつた時に、今、私、亦、あなたの感ぜられたことを感じてゐるのです。聲の調子で心が話をする爲に、また、顔の表情で心の中を讀む爲には、眼と眼をあはせて話することが出来るやうでなければいけません。信念と全き眞誠とをもつて、躊躇なく、眼と眼を合はして、互に相面して言はれた話は、ほんの一言でも、十帖位を費して書いたもの以上です。あなたがあなたのことを詳しくお書き下さつたのは有難う。私は前から、それは斯う言ふ風になるだらう、あなたは結婚するだらうと思つて居りました。私がアンナ・イヴノヴナを思ひ起すか如何かとあなたは御聞きになる。どうして、忘れることが出来ませう。私は彼女とあなたの幸福を嬉しく思つて居ります。それは私には決して關係のないことではありません。斯う言ふあらゆることの始まつた時の一八四七年のことを思出して下さい。アンナ・イヴノヴナのいゝ記憶に就いて私を思出して下さい。私の筆

限な尊敬と忠實を捧げてゐることを仰つて下さい。あなたの御両親を屢々思ひ、その御寵愛を思ひ起し、
そうして、私は嬉しく思つてゐることを御両親に申上げて下さい。オチエエストエンニャ・ザビスキで公け
にされた忘れ難いブレリエン・ニコライエギツチの批評の本を、ウウジエニイ・ペトロヅナは受取られたで
せうか。人々が私を逮捕した時に、此本はとられて了つたが、後に返されました。だが、牢にゐて、それ
を彼女に返すのは不可能でした。彼女が如何に之を尊重してゐたか私は存じてゐました。そのことは、私
に大變、苦痛を感じさせました。シベリアに出發前二時間、私はナボコフ司令官に、此本を、正當の人に
渡すやうに願ひました。彼はさうしたでせうか。私からあなたの御両親に宜しくと仰つて下さい。私はあ
の人達に、心から、御幸福と、長い長い壽命を祈つて居ります。——多分あなたは、私の兄から、私に關
するいろ／＼のことは御聞きになつたかも知れません。私が何にもしないでゐる時は、私が監獄にゐる時
の思出、最も面白いものを書きました。だが、そこには個人に關することは殆どありません。私が書き終
へ、好機會を得ることが出来たら、思出として我の手で書いた本を一部御送りませう。

時に、私は忘れかけてゐました。そして、少し餘談になることになりました。此手紙はアレクサンドル・
エゴロギツチの手から御受取りになりませう。彼はヴランゲル男爵で、非常に若く、人情と魂をもつた優
れた性質の人で、此國を知らう。有益のことをしやうとする一般的な夢想を抱いて、中學から直ぐにシベ
リアにやつて來た人です。彼はセミパラチンスクの政廳に居りました。我々は交際してゐて、私は彼が大
變好きでした。私は、あなたが彼とおつき合ひになり、彼と最も親密に御知合ひになれんことを望んで
居りますから、彼の性格に就いて少しばかり言はうと思つて居ります。始め、彼の外貌は可成冷かに見え

ますけれども、非常に親切で、非常に柔しい心をもつてゐます。彼の好むやうに、あなたが御近附になら
れんことを欲します。彼が育つた所の半貴族的若しくは四分の三の貴族的周圍は、私の大變好まない所で、
また、彼も好まない所です。何故と言つて、彼は立ちすぐれた性質を持つて居りますから。ですが、多く
の特徴が、元の周圍からうけて外に現はれてゐます。

あなたが出来るならば、彼に感化を與へるやうにおつとめなさい。彼はそれ丈の價值があります。彼は
非常な善事をなしました。でも、私は、彼が私になしてくれたい善事によつてのみ彼を愛してゐるのではあ
りません。つまり、彼は少し疑ひ深く、非常に感じ易く、時として、控目で、少し、氣まぐれの所があり
ます。あなたが御交際なさるならば、極くあつさり、出来る丈眞面目に、奥歯に物はさまつたやうな
ことをしないで、御話なさい。

男爵に對するあなたの處置を斯様に云々することを御許して下さい。だが、私は繰り返しく／＼申しますが、
私は彼を愛してゐるのです。あなたに對する私の凡ての注意と、此手紙の文句を受け入れて下さい。(あな
たに御教へするやうなことはする必要のないことですが。)

あなたは熱烈に私のことを思つて下さる。それは如何した譯か、とあなたは仰有つた。私も亦あなたの
ことを熱烈に思つて居ります。如何してかと言ふあなたの問ひには、私は答へません。——それは無用の
ことです。あなたは大變經驗のみ、多くのことを考へ、多くの新しいことを味つたと仰有る。それは、
全くさうに違ひないでせう。我々は、今尙、我々の思想が一致することが出来ることは、慥かだと私は思
つて居ります。

私も亦考へ、經驗をつみました。私の力量以上に、生き、考へ、餘りに多くのことを消化しなければならぬやうな斯様な境遇、斯様な感化がありました。あなたは私を非常によく理解なすつてゐらつしやるので、私が常に、私によりよく、より正しく思はれたことを遂行したこと、偽つたことをしなかつたことを、あなたは認めて下さるでせう。私が何かにとりかゝれば、熱烈にそれをします。斯う言つたことが、今私のやうな有様に立ち至つたことを諷示したのだとは信じないで下さい。私は其後で起つてゐることを言つてゐるのです。だが、過去のことを話するのは無駄なことです。のみならず、そんなことは偶然に過ぎません。考へは變りますが、心は同じです。

私はあなたの御手紙を読みました。私はその大體のことが解りませんでした。愛國主義や、ロシアの觀念や、義務の感情や、國民的の名譽や、あなたがあれ程、熱誠に仰つた一切のことを私も言ひます。だが友よ、あなたは今迄御變りになつたことがあるのですか。私は常に斯う言ふ同じ感情と、斯う言ふ信念を共にしてゐるのです。ロシア、義務、名譽？——さうです、私は常に眞のロシア人です。——私はさうだと心から言ひます。あなたの周圍に現はされた運動、あなたが、全く新しい傾向であるかの如く仰る所の運動の中に、どんな新しいことがあるでせうか。私があなたを理解しなかつたことを白状します。私はあなたの詩を読み、それを非常にいゝものだと思ひました。私はスウヅ人の精神的解放に就いてのあなたの愛國的感情に全く共鳴してゐます。それはロシアと、貴族と、大ロシアと、我々の聖母の使命であります。その結果は如何に美しいものでせう。あなたの「クレルモンの會議」の最後の數行は、何と言ふ美しいものでせう。斯様に偉大な觀念を、新様に崇高に言ひ現はす爲に、斯様な言葉を如何してあなたは見出す

ことが出来たのでせう。然り、ロシアが、その使命を以てして、歐洲を完成せんとするあなたの御考に私は共鳴します。斯う言ふことは、久しい前から、私にははつきりしてゐました。あなたは、社會がその無感覺から覺醒したやうに見える御書きになりました。だが、我々の社會には、一般に、表はれと言ふものがないことを御存知でせう。それですから、誰が、社會には力がないと其から決論することが出来ませう。一つの觀念が十分に輝けばいゝのです。即ち、社會を呼びなさい、さうすると、社會はあなたを理解させよう。今はそれが斯う言ふ風になります。その觀念は、すばらしい光輝あるものとなり、全然、國民的で武士道的です。(それは眞理です、それを認めなければなりません。)そして、我々のペテロ(大帝)より繼承した政治的觀念は、全世界に示されたのです。思考し、感得し、研究する所のかゝる社會のなかにあつて、あなたがフランス觀念の洪水によつて惱まされると言ふことはあり得べきことです。そこには、一つの特徴があります。だが、その性質のなかで、あらゆる特徴は、反動を呼び起します。然し、常識のある凡ての人々は、即ち、感化を與へる人々は、フランスの觀念を、科學的見地に立つてゐると考へてゐることに同意しなさい。——それは、此特徴に一層組みするものではありません——彼らは常にロシア人であつたことに同意して下さい。あなたは、何を新しいと見られますか。例へば、私は、微役人ですらも私を驚かないと言ふ程、一切のロシアのものと密接してゐることを斷言します。——私の反對な同胞もロシア人でした。私は一度ならず、強盜の心の中にさへも、偉大なる魂に出會ふことのあることを幸福を有しました。それは只、私自身がロシア人であるから、彼を理解することが出来ると言ふ丈のことからです。私の不幸は、實際に、多くのことを知るやうにさせてくれました。此實驗は恐らく私に大影響を及ぼした

ことでせう。然し、私は経験から、私がつねにロシア人であつたと言ふことも知りませんでした。

人々は誤れる觀念をもつかも知れません。心は欺くことが出来ません。そして、誤謬はあなたを不正直にすることは出来ないでせう。即ち、あなたの信念に反對するやうなことはしないでせう。然し、何故、何故、私はこんなことを一切、あなたに書くのでせうか。何故と言つて、私は、書くことによつて何物も言ひ現はすことが出来ないことを知つてゐます。それで、何故、書くのでせうか。

私は尙私のことに就いて話しませう。監獄で、私はほんの僅しか読みませんでした。そこには本がありませんでした。人々は、時として、偶然にそれにぶつかります。ニー・セマバラチンスクに到着して、私はより多く読むことを始めました。けれども私には本がなく、必要な本は殊にありませんでした。そして、時は過ぎて了ひます。監獄で書く事が出来なくて、私はどれ程苦しんだか、御想像も及びますまい。けれども、内部の仕事はたぎつてゐました。あるものは、いゝものがうかびました。私はさう感じました。あそこで、私は頭で一つの短篇を創造しました。それは大きなものとなり、決定的なものとなりました。此創造の爲に持った愛は、それを成しとける時がくると、年月と共に冷めはしまいかと私は恐れました。此愛がなくては、作物を創作することは出来ません。だが、私は間違つてゐました。私が創造し、私の短篇の基礎となる所の性格は、發展するには長年月を要したのです。私が何らの準備なく、それに取りかゝつたならば、私は凡てを駄目にして了ふことは慥かでした。でも、監獄を去つて、凡ての準備が出来上りましたが、私は書きませんでした。書くことが出来ませんでした。私の生涯に遅ればせにやつて来たある事情、偶然の事實が突然に現はれて、私を引きずり、全く私を吸ひこんでしまひました。私は幸福でありました。

仕事をする事が出来ませんでした。やがて悲みと惱みとは襲つて来ました。私に取つて凡てあるものを私は失ひました。何百里と言ふ里程が我々を隔てゝゐます。それがどう言ふ譯であるかをあなたに説明しません。恐らく、いつかそれを御話しませう。今はそれを全く不可能です。けれども、私は全く暇な身の上ではありません。私は仕事をしてゐました。だが、私の重要な作物はうち捨てゝおきました。私には、一層の精神の落ち着きが必要です。慰めとして、私は一つの喜劇を書き始めました。全く冗談の話にして、私にはその喜劇が成功するやうに思はれたけれども、その喜劇を止めて、長い間、私の主人公の冒険を辿つて行くことを面白がり、自分自身で笑つた外には何にもしなかつた程、私は喜劇的な境遇と面白い人物を呼び起したのです。それ程、私の主人公は私の氣に入つたのです。此主人公はいくらか少し私に似て居ります。要するに、私は喜劇的な小説を書いてゐますが、まだ、離れぬの章しか書きません。私は可成それを書きましたが、今は一所に結びつけなければなりません。(譯者曰、「叔父の夢」を指して言へるものならん)さて、私の仕事の話はこれです。私はそれをあなたに話すことを禁ずることが出来ませんでした。忘れ難き友よ。私があなたと話を始め、過去を思ひ出したからです。さうです、我々は、屢々喜びを共にしました。私があなたと忘れることが出来ませうか。あなたは私に少し文學を御話になつた。今年私は殆ど何にも読みませんでした。私は自分の觀察を御話しやうと思ひます。ツルゲネエフは私を最も喜ばせました。只、彼が非常な才能を持ちながら、これ程釣り合ひをとつて書かなかつたことを残念に思ひます。L、T(譯者曰、レオ・ドストイのこと)は私を非常に喜ばせました、だが、彼は澤山書かないだらうと思ひました、(でも、恐らく私は間違ふかも知れません)私は如何してもオストロフスキイが解りま

せん。彼のものは一つも全部読みません。でも、私は批評で多くの断片をよみました。彼はロシアのある階級をよく理解してゐるかも知れませんが、彼は藝術家ではないと思ひます。のみならず、彼は私に、理想のない詩人と言ふ印象を與へます。どうぞ、私の迷ひを解いて下さい。御願ひですから、私が批評によつてのみ知ることのないやうに、彼の作物中の最もよいものを送つて下さい。ピセムスキイの「据傲者」と「結婚せん」とする富みたる青年」を読みました。——それつきりです。彼は利巧で、善良な子供で、ナイーブです。彼はうまく物語つてゐます。彼には一つの遺憾なことがあります。それは彼は書き忙いでゐることです。彼は餘りに餘り早く書き過ぎます。自分の才能と藝術に對して一層の尊重と一層の自負心と、藝術に對して一層の愛とを持たなければいけません。人が若い時には、觀念がたぎり立つてゐます。飛んでゆく各觀念を捉へ、直ちに表現し、迅速に表現することが出来ません。その觀念の綜合をなすことが出來のを待つてゐる方がよいのです。より多く考へること、一つの觀念のみを表はす多くの細々しいことが、浮き彫りとなつて、偉大な巨大な一つの彫像となつて集るまで待つこと、その時に、其を書き表すといことです。大作家によつて創造された巨大な性格は、屢々、長い綿密な勞作の作物なのです。中間的な凡ての試みや、凡ての下書きを言ひ表はさなければならぬでせうか。あなたが私の言ふことを理解して下さるか如何か判りません。ピセムスキイは、ペンの手綱をゆるめてゐるやうに思はれます。我國の女流作家は、女流作家らしく書いて居ります。即ち機智を以て、柔しく、そして、己れを出さうと大急ぎになつてゐます。女流作家は、何故に、殆ど必ず嚴密なる藝術家となることがないか言つて下さい。ジョルジュ・サンドの如き争ふべからざる大作家ですらも、一度ならず、彼女の女性的性質の爲めに誤ちを冒してゐます。

ます。

あそこにある時いつも、雑誌で、あなたの詩を読みました。それは大變、私の氣に入りました。自己を鍛へて、勞作して下さい。我々の間丈で、大秘密でああなたにお話することがあります。テユチエフ(譯者曰、ロシアの哲學的詩人なり)は、すばらしいものです。だが……テユチエフはどんな人でせう。彼は我々の味方ではないでせうか。それに、彼の詩の多くは優れたものです。

さようなら、我が親愛なる友よ、亂筆御許し下さい。手紙のなかでは、何にも書けるものではありません。それですから、私は、セゾニエ夫人(譯者曰、フランスの有名なる書簡作家)を許すことは到底出来ません。彼女は餘りにうまく書き過ぎてゐます。——如何して解りませう、私はいつかあなたを腕の中に抱くことが出来るかも知れません。神よ、さうさせて下さい。後生ですから、誰にも私の手紙を報らせないで下さい。(絶対に何人にもです)あなたを接吻します。

エフ・ドストイエフスキイ

ヴランゲル男爵に

一八五六年三月廿三日、金曜。セミバラチンスクにて

我が善良の友、比較すべからざる友のアレクサンドル・エゴロギッチよ、あなたは何處に御出ですか。何

におなりになりました。あなたは私を御忘れになりませんか。来る月曜から、約束された手紙を待ち始めるのです。それが幸福であり、私の一切の希望の實現であると同様に非常に待ちこがれてゐるのです。此封筒のなかに、あなたは三通の手紙を御見出しになります。一通は私の兄、もう一つは、エドワルド・イヴノギッチ・トールベシ將軍の援助を乞ふものです。びつくりなさつてはいけません。私はあなたに凡てのことを物語らうと思ひます。今、私は順序として、自分のことから申し上げます。あなたが、私のあらゆる郷愁、凡ての落膽、今の場合の絶望を御知りになつたら、私が眞に何故あなたの御手紙を救済として待ち望んでゐるか御解りになります。そこは、私の運命のなかの多くのものを決定するに相違ありません。あなたは、サン・ペテルスブルグに着いて、出来る丈早く私に手紙を下さい、あなたが、あれ程の間、御親切に従事して下さつた私の望む凡てのものを御報らせ下さると御約束なさいました。——打ち明けて、何にも隠す所なく、誇張する所なく、空しき望みを抱かせるやうなことはなさらずにです。それで、恰もそれが私の生命に關するやうに、私は報らせを待ち望んでゐるのです。後生ですから、私の手紙を誰にも御見せなさいで下さい。私の事件は非常にいゝ状態にあることを御報らせします。

私の希望よ。親愛にして尊き恐らく唯一なる友よ。純潔な正直な心よ。彼の希望よ。それをきくとゞけて下さい。私に丈は、それが願はつきりしてゐるやうに思はれるのです。で、第一に、此夏、講和が成り立つた時、若しくは戴冠式に際して、何か特赦がないでせうか。それが私が最も神經過敏にあなたから待ち望んでゐる報らせです。第二に、それが尙希望の範圍の中にあるものと認めませう。詔勅の後に何物も生じないとしても、民間の仕事の爲めに軍職を去つて、バルナウルに行くことは出来ないものでせうか。

それに、ドウロフは民間の仕事をしてゐます。第三に、私は位階なくしていつまでもゐるのでせうか。私の生涯は全く終つて了つたのでせうか。私よりもつと罪のある他の人々でも、凡てのものを得てゐます。私はさう言ふことを信ずることが出来ません。今、何事も起らないとしても、私は二年の中に、ロシアに歸れるやうになると私は信じてゐます。

今、大切なことは——それは金です。二つの作——論文と小説——が九月までに出来上ります。私は公式に出版の許可を願ひたいと思つて居ります。若し、それが許されたら、私は一生涯パンを得ることになります。今はもう昔のやうではありません。私の仕事には、それ程多くの考へ、多くの努力多くの力があります。

私は小説を一つ(九月頃までに)書きたいと思つてゐます。それは、「貧しき人々」よりもよくなるでせう。何故と言つて、人々が出版を許可してくれたら、(よござんすか、私の方では、それを得ることが出来るとは信じてゐませんが)それは、評判になるでせう。本は賣れて行きませう。私に金や尊敬を得させてくれるでせう。私の上に政府の注意を引かせてくれるでせう。そして、人々は私を間もなく歸してくれませう。私にはどれ丈必要でせうか。一年に紙幣二三千ルブルです。我々を維持するに其丈で足りないでせうか。約二年の中に、我々はロシアに歸りませう。彼女は適当な生活をする事が出来ませう。(譯者曰、彼女は元のイサイエフ夫人マリア・ドモトリエヴナのことなり。彼は彼女と結婚せんとしてゐるなり)そして、恐らく、我々は、いくらかの貯蓄もすることが出来ませう。六年間、非常な苦痛を以て、戦ひの爲に、これ程の力と勇氣とを養つた私は、自分と妻とを養ふ丈の十分の金をとることが出来ないと言ふことがあ

りませうか。そんならそれでいい。何故と言つて、人々は殊に私の力の價值と、私の才能の程度とを知りませんから。私が信頼してゐるのは、殊にこれらのものです。とうとう、最後の事件に來ました。一年の中に私に出版の許可を與へられないとせうか。でも、私の生涯の第一の變化に當つて、私は叔父（譯者曰、モスコウにゐる親戚なり。）に手紙をかき、彼に、私の結婚のことは話さずに、新生涯に這入ると言つて、貨幣千ルウブルを頼みませう。彼が私に與へてくれることは慥かです。さて、それで、我々は一年間暮せないでせうか。そして、其後に、仕事はうまくまとまりませう。

それで、私は醫者で出版することが出來、それでも、金を得ることが出來ませう。ようござんすか、これは、此夏何も起らない（詔勅）時のみ、凡て此希望は實現を要するものです。そして、詔勅（譯者曰、特赦の詔勅なり。）が起つたならば？ 我友よ、アレクサンドル・エゴロギッチ。

私があなたの御手紙をどれ程待つてゐるか御存知になつたならば。恐らく、それは、積極的な報らせを含まざることでせう。

然し、私がどんなに困つてゐるか御想像下さい。私はあなたにして貰ひたい澤山の御願ひがあります。後生ですから、私の爲に其れをうけ入れて下さい。第一の御願ひ。此中にトトレベル將軍にあなたに一通の手紙が同封してあるのを見出されませう。これが私の考へです。元、私は彼を大變よく知つてゐました。彼の弟は私の少年時代の友でした。私の逮捕される数日前、私は彼は偶然會ひました。そして、我々は友達として握手したのです。それですから、彼は私を忘れてゐないかも知れません。此人は善良で單純な人です。彼は寛大な心を有して居ります。（彼はそれを證明しました。）彼はナキモブやコロコロフにも劣らないセバ

ストボオルの眞の英雄です。私の手紙を彼にもつて行つて下さい。彼に、丁寧なそれを讀んでやつて下さい。あなたは、私の手紙の調子で、私が躊躇してゐたこと、私は如何に彼に手紙をやるべきか知らなかつたことを、あなたは御氣がつくでせう。彼は今はこれ程、地位が高くなつてゐるのです。そして、私はどうでせうか。彼は私を思ひ出さうと思つてゐるのでせう。

私は兎に角、書いたのです。今は、あなた御身である人に會ひに行つて下さい。（彼がサン・ペテルスブルグに居るといふと思ひますが、）そして、あなた達丈になつた時に、手紙を御渡し下さい。彼がどう言ふ風にそれを取るか、彼の表情で直ぐに解りませう。彼がろく／＼それを取らうともしないならば、到底駄目です。少し事情を説明して、私のことをうまい工合に話して、あなたの祕密行動を人に言はないで頂きたいと御頼みになつた後で、別れを告げて、出て下さい。彼は非常に丁寧な人です、（幾分武士的な性格です。）彼はあなたに面會して、彼が満足すべきことを何にも言はないとしても、あなたを非常に丁寧に見送りませう。彼の顔色を見て、彼が私に興味をもち、多くの親切と關心とを表はすのを御覽でしたら、おゝ、その時こそ、全く彼に打ち明けて下さい。眞心から、ごくあつさりとして彼に話して下さい。彼に私のことを話して、彼の一言が重大な價值があり、皇帝に私のことを取りなして下さらないか、（彼の知つてゐる通り）これから私は善良な市民となると保證して戴きたい、彼は屹度拒まれないだらうと言つて下さい。バスコギッチの請願によつて、皇帝は幾度も、ボオランドの罪人を御許しになりました。トトレベルは今非常に好地位にあり、非常に愛されてゐるのですから、實際、彼の請願は、バスコギッチと同様にきかれませう。とにかく、私はあなたを非常に信頼してゐます。あなたは熱烈に私を辯護して下さいませう。私はそ